

事項一三 露国革命關係一件

二〇七 一月一日 在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

在露国聯合各國代表者ノ協同動作ニ関シ國務
長官ヨリ提案ノ件

別電 同日佐藤大使宛本野外務大臣宛第二号
右國務長官ノ提案

第一号

十二月二十七日附ニテ國務省ヨリ別電第二号ノ書面ヲ一日
受領セリ右ニ就テハ三日國務長官ニ会見ノ上更ニ申進ス可
キモ不取敢

(別電)

一月一日佐藤大使宛本野外務大臣宛電報第二号
國務長官ノ提案

別電第二号

In view of the importance of avoiding conflict-
ing action, may I suggest that the representatives at
Petrograd of the countries associated in war against
Germany and Austria-Hungary, quite informally and
without any appearance of coalition, should confer

二月二十七日付) 写内送シ来リタルカ英國ニ於ケル有力ナ
ル露国通ノ意見トシテ注意ヲ要スルノミナラス往電第四号
「ロバアト、セシル」卿ヨリ談話アリタル軍事内閣ノ詮議
ニ際シテモ参考資料トナリタル形跡有之様存セラル、ニ付
不取敢御参考迄ニ別電第六号ヲ以テ要領訳報ス

(別電)

一月二日在英國珍田大使宛本野外務大臣宛電報第六号
「タイムズ」露都特派員「ウィルトン」ノ秘密覚書要領

第六号 極秘

(一) 露国ノ市場ハ独逸ノ将来ニ取り重ナル資源タリ独逸カ
一九一四年彼ノ所謂予防的戦争ヲ起シタルハ其ノ露国ニ対
スル經濟上ノ管理ヲ確保セムカ為ナリ露国カ一九〇七年英
露協商ヲ訂立シ次テ軍備拡張ノ継続的計画ヲ立テ以テ独逸
ノ制御脱却ノ意思ヲ示スヤ独逸ハ直ニ右ノ方策ヲ決定シタ
ルモノナリ露国ノ大軍備計画ハ一九一二年ニ著手セラレ一
九一八年ニハ完成ノ予定ナリキ独逸カ一九一四年ヲ以テ断
然開戦シタル重ナル理由ハ夷ニ茲ニ在リ露国ノ市場ナクシ
テハ独逸ハ商工業發展ノ遂行ヲ期シ得サルノミナラス既往
ノ發展当然ノ反動タル經濟上ノ大危機ト自国人民ノ莫大ナ

一三 露国革命關係一件 二〇八

regularly as to any proposed courses of action, and
where they disagree then to advise their respective
Governments of the majority and minority views. The
American Ambassador at Petrograd has already been
advised of this suggestion.

Sato.

在欧洲各大使へ転電セリ

二〇八 一月二日 在英國珍田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

独逸ノ露国市場掌握ノ計画及之ヲ防遏スベキ
聯合國側ノ方策ニ関スル「タイムズ」露都特
派員「ウィルトン」ノ秘密覚書要領訳報ノ件

別電 同日珍田大使宛本野外務大臣宛第六号
右秘密覚書要領

第五号(極秘)

目下婦朝中ナル「タイムズ」露都特派員「ウィルトン」一
月一日本多ニ対シ同氏カ露都現下ノ時局並之ニ対スル応急
策ニ関スル在当地米國大使ノ為起草シ同時ニ「ロイド・シ
ョウジ」首相並仏國大使へモ提出シタル趣ノ秘密覚書(十

ル海外移住ニ逢着セサルヘカラサル運命ニ在リ独逸ハ従前
低廉ナル原料竝食料品ヲ露国ヨリ取附ケ露国ニ対シテハ己
ノ工業製品ヲ供給シ露国ノ輸出入貿易ハ大部分独逸ノ独占
ノ下ニアリタリ一九一三年ニ於ケル独逸對露輸出増加額ハ
實ニ英國ノ對露輸出ノ総額ニ均シク露国ニ於ケル農具竝一
切ノ機械類ノ輸入ハ着々独逸ノ掌中ニ歸シツ、アリタルノ
ミナラス露国内ニ於ケル化学的竝電気工場ハ独逸企業家ノ
独占ニ歸シ居タリ独逸ニシテ露国市場ノ掌握ヲ恢復シ得ル
ニ於テハ優ニ他方面ノ商業的關係喪失ヲモ忍ヒ得ヘキ有様
ナリ「ブレスト、リトウスク」ノ講和談判ニ於テ經濟的問
題カ重要ノ地位ヲ占ムルノ事實ニ見テモ独逸ノ目的ノ那辺
ニ存スルカヲ明察スルニ足ル

(二) 露国市場ノ掌握ハ夫レ自体独逸ニ取り無量ノ資源ヲ与
フルノミナラス又以テ彼ヲシテ波斯、「アフガニスタン」
及蒙古ノ各地域ヲ經テ亜細亞ノ市場ニ其ノ猿臂ヲ伸ブルヲ
得セシムヘク独逸ハ之ニ依リ英國ノ「バクダッド」商路占
領ノ価値ヲ減殺シ且西比利亞及極東ニ於テ米國竝日本ト競
争シ得ルニ至ルヘシ西比利亞ニ於ケル米國ノ利益ハ頗ル多
大ナルモノアリ西比利亞拓殖ノ發展ニ伴ヒ米國農具ノ輸送

三七七

ハ開戦前ニ莫大ノ増加ヲ見ツ、アリタルノミナラス西比利亞ノ金鉱採掘並漁業ハ尚幼稚ノ域ニアリ米日及濠洲ノ企業家ニ対シ広大ノ活動範圍ヲ形成シツ、アルノ状ナリトス

(三) 西比利亞及滿洲ハ世界最大ノ小麦産地ニシテ黒海及太平洋ニ面スル自然ノ海上出口ヲ有ス独逸ノ目的ハ少クモ西比利亞ノ穀物市場ヲ掌握スルニアリ数十万ヲ算スル独逸捕虜ト抑留独逸人ハ将来ニ於ケル商業上ノ活動ヲ目的トシテ西比利亞ノ言語ト習慣トヲ研究シツ、アリ

(四) 独逸ノ操縦シ、アル「ボルシェビック」ノ陰謀ニシテ若シ独逸ヲシテ所謂平和手段ニ依リ露国征服ノ目的ヲ遂ケシメ得サル場合ニハ独逸ハ強力ヲ以テ右ノ目的実現ヲ計ルヘク彼ハ己ニ来ル三月又ハ四月天候ノ順良ニ復スルト共ニ「ラデッサ」竝「キエフ」ニ進軍ノ用意ヲ以テ露国ノ南西戦線ニ軍隊ヲ集中シツ、アリ（訳者曰ク右ハ近頃分離独立ヲ宣言セル高加索共和国ノ在當地一有志家モ本多ニ内話セル所ナリ）彼ハ此ノ方略ニ依リ小亜細亞ノ最豊穰ナル小麦及甜菜産地ヲ略取シ又黒海沿岸ニ永久ノ立脚地ヲ獲得シ且「ドネツ」地方ノ鋼鉄産出地域ニ打撃ヲ加ヘ得ルノ地位ニ

(六) 借問ス右様ノ事態ヲ防遏セムガ為メ聯合側ハ果シテ如何ナル行動ヲ執ルヲ要スルカ露国革命破裂以來聯合側カ執リ来リタル觀望政策ハ到底此際ノ時宜ニ適スルモノニアラズ今ヤ「ボルシェビック」ハ公然「ペトログラード」政府ヲ篡奪シ無併合云々ノ社会主義の仮面ノ下ニ独逸ニ対シ絶對降伏ノ政策ヲ遂行シツ、アリ「ペトログラード」ハ最早露国ノ首府ニアラズ芬蘭ヲ包含スル西北露西亜ト波羅の諸州ハ波羅の艦隊及「ペトログラード」出兵ノ反（不明）以來ハ之ヲ敵地ト見做サ、ルベカラス露西亜帝国ヲ構成セル各分子ハ既ニ分裂ヲ遂ゲ今ヤ各自新タニ結晶作用ヲ経ツ、アリ再ヒ旧時ノ状態ニ復歸スルコト不可能ナルコトハ事物自然ノ数ナリトス

新露西亜国家カ果シテ如何ナル形ヲ取ルニ至ルヘキヤニ拘ハラズ独乙カ強力ヲ以テ露国ヲ其ノ手中ニ収メ「ロマノフ」王室ヲ恢復（此ノコトハ必スシモ之レアリ得ヘカラスト見做シ得ス）セサル限り「ペトログラード」カ再ヒ露国ノ国運ヲ指導スルニ至ルカ如キコトハ萬有之ヘシトモ思ハレス而シテ斯ノ如キ独乙側ノ計画ハ聯合側ニ於テ其ノ外交代表者ヲ引続キ露都ニ止ムルトモ到底予防シ得ル望ナキノミ

立ツニ至ルヘシ独逸ニシテ「ドン」地方ヲ占領センカ彼ハ此ノ一挙ニ依リ直ニ歐露ノ燃料並食料ヲ掌握シ全ク露国ノ死命ヲ制シ得ヘク事茲ニ至ラハ露国ノ抵抗ハ全然不能トナルヘシ小露西亜人竝哥薩克ハ右ノ危険ヲ認識シ茲ニ露都ニ於ケル親独の「ボルシェビック」ニ対シ叛旗ヲ揚ケタルモノナリ西比利亞人モ亦独逸トノ「ボルシェビック」的商議ノ危険ヲ認識スルモノニシテ「ウクラニア」及哥薩克ハ彼等ト自然ノ同盟者ナリ叙上ノ各分子ハ独逸ノ併呑ニ対シ最後迄奮闘セントスルモノナルカ聯合側ヨリノ援助ナクシテハ或ハ失敗スルヤモ知レズ

(五) 露国ヲ以テ最早既ニ本戦争ニ於ケル一要素ニアラズトスルノ見解ハ最モ大且危険ナル誤解ナリトス露国ハ開戦当初独逸ノ計画ニ取り重モナル要素ナリシガ如ク其軍事的ニ崩壊セル今日ニ於テモ依然本戦争ニ於ケル一要素ナリトス露国ガ今ヤ独逸ノ掌中ニ陥ラントスルノ實在ノ危険アルコトハ吾人ニ執リ最モ重要ノ事態ナリ何トナレバ独逸ニシテ一度南部露西亜ヲ略取シ露国ノ殺倉ト其豊富ナル鉱物トヲ其手ニ収メンカ彼ハ殆ト永久のニ聯合側トノ戦争ヲ継続シ得ルニ至ルベキハ明瞭ノ数ナルヲ以テナリ

ナラス露都ニ於ケル聯合側大公使館ノ（脱）ズ加フルニ誤解ト危険ノ直接原因タラスンハアラス蓋シ是等大公使ニシテ露都ニ駐留スル限り彼等ハ「ボルシェビック」ニ取り人質ト成リ居ルト同様ニシテ然モ南方及東部露西亜ノ健全分子ハ勢閑却セラルルヲ免レサルヲ以テナリスノ故ニ聯合側第一ノ要務ハ露都ニ於ケル大公使館ヲ撤退シ他ノ方面ニ於ケル我方ノ味方ニ対シ代表者ヲ派遣スルニ在リ聯合側ハ此際至急「コサツク」「ウクライン」及西比利亞ト直接關係ヲ設定セサルヘカラス右ハ公然之ヲ行フコトトシ露人ヲシテ十分且正確ニ我方ノ精神ヲ知悉セシメ断シテ陰謀又ハ誤解ノ余地ヲ与ヘサル様致ササルヘカラス我方ハ宜シク独乙ト通謀セル「ボルシェビック」ノ陰謀ノ真相ヲ闡明シ露人ノ自由ト独立保全ニ援助ヲ提供シ露国内ニ於ケル我方ノ味方ヲシテ我方ヨリ得ントスル援助ノ希望ヲ明言セシメ金力軍需品又ハ兵力ノ何レタルヲ問ハス彼等ノ必要トスル援助ヲ与フルコトヲ企テサルヘカラス

(七) 右ト同時ニ聯合側ハ左ノ通大体ノ方略ヲ整フルコトトスハシ

第一 米國ヨリ歩兵四箇旅団、英國ヨリ同一箇旅団（為シ

得ヘクハ加那太兵) 竝日本ヨリ同シク一箇旅団三国協同六箇旅団ノ兵力ニ多数ノ機関銃ト十分ノ火銃及軍需品ヲ附シ浦塩斯德ニ派遣ノ準備ヲナスコト右ノ兵数ヲ以テセハ哥薩克各軍隊(浦塩ニ於テハ烏蘇里軍、「ブラゴエチェンスク」ニ於ケル「トランス、アムール」軍、「チタ」ニ於ケル「トランス・バイカル軍」、「トムスク」ニ於ケル西比利亞軍)ト協力シテ西比利亞鉄道ヲ容易ニ占有警備スルヲ得ヘク浦塩ニハ一箇旅団ヲ駐メ哈爾濱ノ支那兵ト策応シテ動作セシムヘク其他「イルクーツク」「クラスノヤルスク」、「ヨムスク」(同地ニハ一ノ根拠地ヲ造ルヲ要ス)「チェリアピンスク」、「エカテリノグルグ」竝「ウォルガ」河畔ノ「サマラ」ニ各一箇旅団宛駐屯スルコト、シ軍需品輸送ノ為鉄道輸送組織援助ノ目的ヲ以テ米國鉄道技師ヲ西比利亞政府ニ貸附クルコト、スヘシ

第二 「テルメズ」、「ボクハラ」竝「メルブ」、「クシク」鉄道ニ依リ露領土耳其斯坦ニ於ケル聯合國最眞ノ露国勢力トノ交通ヲ便易ニスル目的ヲ以テ印度政府ヲシテ「アフガニスタン」王ト商議ヲ開始セシムルコト「キバ」竝「ボクハラ」方面ニ行ハレ居タル革命的活動ニ鑑ミ「アフガ

派遣ノ武装自動車隊モ齊シク右各方面ニ移スヘク聯合側一切ノ武官ハ露都ヲ去リ南方及東部露西亜ニ赴キ前述ノ動作ヲ幫助スルコト

第五 「ボルシェビックス」ガ露国前皇帝竝其ノ家族又ハ「ロマノフ」家ノ皇族ノ何人ヲモ捕獲スルヲ予防スル為秘密且便宜ノ手段ヲ講スルコト「プレスト・リトウスク」會議ニ於テ独逸側ノナシタル申出ニ徴スルモ敵ニ於テ露帝竝皇族利用ノ意思アルコト明瞭ナリトス前陳ノ如ク聯合側ニ於テ浦塩ヨリ「サマラ」ニ到ル西比利亞鉄道沿線ニ六箇旅団ノ兵力ヲ置カムニハ何等側面ヨリ敵襲ヲ受クルノ危険アルナク「ヨレンブルグ」竝「ノボチエルカスク」ニ対スル印度軍ノ進出モ齊シク安全ナルヘク歐露ト亜細亞間ノ鐵道線ハ之ニ依リ悉ク我手中ニ歸スルコト、ナルヘシ一方ニ於テ約五十万ノ波蘭軍隊ト五万ノ露国將校ハ動作開始ノ為組織ノ時機ヲ待テツ、アリ是亦我方ニ於テ援助スルコトトスヘク斯クテ我方ハ僅少ノ兵力ト軍需品援助ニ依リ露国ニ於ケル聯合側最眞ノ各要素ヲシテ独逸ノ軍事的經濟的方略ニ対抗シ敵ノ計画ノ最枢要ナル部分ヲ打破セシメ得ヘク其上ハ北方竝西北露西亜カ自ラ本心ニ立歸ルノ時機モ到来スヘ

ン」王ハ右ノ援助ヲ我方ニ与フルヲ肯スヘキ總テノ事情アリトス印度政府ハ又一面直ニ波斯ヲ經由シ高加索各民族竝「Cis Caucasia」ノ哥薩克種族ト接触ヲ附クルコト、スヘシ右ハ我「メソポタミヤ」軍ノ地位ヲ鞏固ニシ同軍ヲシテ「ダブリッツ」ニ進出シ以テ「アルメニヤ」高加索竝哥薩克各民族ト直接接触ヲ有スルニ至ラシムヘシ必要物資ハ「トルキスタン」鉄道(「テルメズ」、「メルブ」間)ニ依リ「ヨレムブルグ」迄輸送シ得ヘク同地ニハ一ノ兵站基地ヲ造ルコト、スヘシ尚「ダブリッツ」或ハ「エンズリー(Enzeli)」ヨリ「ドン」哥薩克ノ首府ナル「ノボチエルカスク」迄物資輸送ノ途モアリ(備考印度欧州間電信線(廈門ヨリ「チフリ」ニ到ル)ハ哥薩克種族トノ連絡且獨立ノ通信機關トシテ利用スルコトトスヘシ)

第三 「コラ」竝「アーカンゲル」ニ各一箇旅団ノ英國兵ヲ派遣シ以テ該兩地ニ於ケル我方貨物ノ保護ト右兩地ノ占有ヲ期スルコト

第四 露国ニ派遣シアル聯合側ノ各軍事使節ヲ羅馬尼、「ウクライン」竝西比利亞ニ転セシメ何等残存スル武器及軍需品ハ之ヲ右三政府ニ引渡サシムルコト英國及白耳義ヨリ

シ

(a) 前述各般ノ措置ハ(a)「アレキシエフ」將軍ガ「ボロネーシ」ニ於テ組織中ナル「ゲラルギー」勳爵士勇士軍(約十萬)(b)哥薩克統領「カレジン」將軍ガ「ロストフ」ヲ中心トシ集中シツツアル「ドン」、「クバン」、「テレック」「ヨレンブルグ」及「ヤルク」ノ各哥薩克軍(約七萬)竝南西戰線ヲ警備シツ、アル(c)「ウクラニア」軍約十萬及(d)羅馬尼軍(二十萬以上)ニ対スル軍需物資ノ到達確保ノ為必要ナリトス右等ノ露人竝羅馬尼人ハ何レモ戰鬪ノ覚悟ヲ有スルモ彼等ノ成效ハ一ニ我方ニ於テ金力、武器及軍需品ヲ彼等ニ供給シ得ルヤ否ヤニ懸レリ聯合側ハ宜シク時局ノ重大ヲ認識シ遲滞ナク必要ノ行動ヲ執ルヲ要ス

二〇九 一月三日 在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

在露國聯合各國使節ノ協同動作ニ関スル國務

長官ノ提言ニ付同國務長官ト会谈ノ件

第三号

(一月五日接受)

往電第一号ニ関シ三日國務長官ニ会見、書面ヲ送ラレタルハ露国ニ於テ輓近何等新事態ノ生ジタル為ナリヤト聞キタ

ルニ右ハ格別新事態ニ基クモノニアラザルモ元來米国外交ノ方針ハ必ズシモ其ノ使臣ヲシテ各国ノ使臣ト共同策ヲ画セシメザルニアルモ露国ノ事態ハ特別ノ場合ナルヲ以テ右ノ慣例ヲ破リ從來在露米国外交ガ事実上執リ居タル与国ト歩調ヲ一ニスルノ処置ヲ確認シ今後ノ方針ヲ明ニシ併セテ之ヲ与国ニ通告スルノ意ニシテ何等新機軸ヲ企ツル義ニアラズトノ事ナリ右書面ニ対シテハ一応受領ノ旨並内容本國政府へ通報スル旨回答シ置キタルモ更ニ申出ヅ可キモノアラバ回訓アリ度シ

二一〇 一月六日 本野外務大臣ヨリ
在米國佐藤大使宛(電報)

在露國聯合各國代表者ノ協同動作ニ関スル國務長官提案ハ全ク日本政府ノ方針ト合致スル旨指示ノ件

第二号
貴電第一号第二号及第三号ニ関シ米國政府ノ提案ハ全ク帝國政府從來ノ方針ト合致シ在露帝國大使ニ於テモ右ト同様ノ態度ヲ採リ來レル次第ナルカ尚念ノ為同大使ニ本案ノ趣

非公式ニ協議セシメ後者ニ対シテハ調査委員ヲ設ケ一応取調ノ上右両件ニ関シ來ル木曜日更ニ外交団會議ヲ開クコトトナレリ

註 在露大使宛第一二四七号左ニ附記ス
(附記)

大正六年十二月十四日在露國內田大使宛本野外務大臣宛電報第一二四七号
露國過激派政府外務省ノ遣外特使旅券ノ査証ニ関シ同外務省ヨリ在露大公使館へ通牒ノ件

第一二四七号
過激派政府外務省ヨリ十二月十四日附ヲ以テ聯合國及中立國各大公使館ニ対スル通牒トシテ右公館中同外務省ノ特使ニ未タ其ノ政府ヲ承認セストノ理由ニ依リ旅券ノ査証ヲ拒絕セルモノアルモ承認ハ形式ノ問題ニ過キササルノミナラス事實勞兵會政府ト接触セサルヲ得サルヘク且同政府ハ各国ノ政府トノミナラス現在政府ヲ顛覆セントスル革命的社会党トノ交渉上特使ノ必要アリ加之右公館ハ外務省ニ保証及証明等ヲ依頼シ其ノ「不承認」ノ政策甚タ不公平ナルヲ以テ今後外務省ハ勞兵會政府ニ事務上ノ煩瑣ヲ事トスル大公使館ノ代表者ニ通過証ヲ發シ若ハ便宜ノ取計ヲナササルコ

旨ヲ電報シ置キタルニ付必要アラバ其旨米國政府へ回答セラレ差支ナシ
在欧洲各大使へ転電アリタシ

二一一 一月八日 在英國珍田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

露國過激派政府外務省ノ遣外特使旅券ノ査証問題及在露外國臣民ノ利權問題ニ関シ在露外交団會議開催ニ付在露大使ヨリ報告ノ件

附記 大正六年十二月十四日在露國內田大使宛本野外務大臣宛電報第一二四七号
露國過激派政府外務省ノ遣外特使旅券ノ査証ニ関シ同外務省ヨリ在露大公使館へ通牒ノ件
第二三号 (一月九日接受)

五日発在露大使ヨリ第一一号
再電第一二六〇号(十二月十七日附)

今十七日中立ノ使臣ヲ加ヘタル一般外交団會議アリ往電第一二四七号ノ件及勞農政府カ制定セントスル諸種ノ法律中在露外國臣民ノ利權ヲ侵害セントスルモノニ対シ予メ調査ヲ遂ケ置ク件ヲ議シタル処前者ハ当館ニ實際上關係ナキガ英、仏、丁抹ヨリ各一名ツ、ノ館員ヲ外務委員ノ許ニ送り

トニセル旨申越セリ

二一二 一月八日 在英國珍田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

露國勞農政府ノ遣外特使ニ対スル旅券査証問題及在露外國臣民ノ利權侵害問題ニ関シ在露外交団會議ノ模様を在露大使ヨリノ報告及請訓

轉電ノ件
別電 同日珍田大使宛本野外務大臣宛第三三三号
遣外特使ノ旅券査証問題ニ付在露仏國大使館員ト「トロツキー」外務委員トノ交渉顛末報告書

第三一号

在露大使宛(五日)第一六号
再電第一二七八号(十二月二十二日)

往電第一二六〇号ニ関シ十二月二十日外交団會議開カレ仏國大使派遣員ノ手ニ成レル別電第一二八八号報告ニ関シ談議シタル処「トロツキー」ノ派遣スル「クーリエ」ナルモノノ携帶スル書類ハ勿論「クーリエ」自身モ政府顛覆ヲ煽動スルモノナラサルヤヲ保シ難キニ付其ノ(脱)査証ヲ与ヘ入國セシムルコトハ自國々法ノ許ササル所ナリトノ説モ

出テ又全然対等ノ形ヲ以テ互ニ査証ヲ行フハ取りモ直サス
 勞農政府ヲ承認スルモノナリトナスモノアリ左レハトテ之
 ニ同意セサレハ全ク「クーリエ」派遣行ハレ難キノミナラ
 ス遂ニハ郵便電信ノ發送ニモ勞農政府ノ許可ヲ請求シ結局
 之ヲ差止ムル手段ヲ執ルニ至ルヘシトノ懸念モ起リ何等掃
 着スル所ナク各自本国政府ニ請訓又ハ報告スルコトナリ
 タルカ英仏大使ハ別電解決方ヲ其ノ本国政府ニ勸告スヘク
 米大使ハ米國々法ニ照ラシ到底同意シ難キ旨ヲ陳ヘ伊國代
 理大使ハ勞農政府「クーリエ」伊太利入國ノ結果過激派主
 張ノ伝播ヲ恐レ居リ本使ハ實際「クーリエ」ノ必要ヲ感セ
 サルモ右別電ノ趣旨ハ本国政府ニ報告シ置クヘキ旨陳ヘ置
 ケリ在露外國臣民利權侵害ノ件ハ實際問題發生毎ニ委員ヲ
 シテ適宜ノ交渉ヲナサシムルコトニ決セリ將又「ポリワノ
 フ」カ布施ニ内話シタル所ニ依レハ勞農政府ハ不日其ノ「
 コミセール」(同政府ノ大使トモ謂フヘキモノカ)ヲ日本
 ニモ送ルヘシトノコトナルカ自然其ノ旅券査証ヲ當館ニ請
 求シ來ルヘク又其ノ内「クーリエ」ヲモ派遣スルコトナシ
 トモ限ラス勢右別電ノ問題起リ來ルヘキニ付之ニ対シ折返
 シ何分ノ義御回訓ヲ請フ

vernements soit des Commissaires du peuple devraient
 se procurer le visa nécessaire avant leur départ. Ce
 point liquidé je faisais ressortir que les courriers de
 nos Gouvernements étaient adressés toujours au même
 fonctionnaire en Russie c'est-à-dire Chef de la mission
 diplomatique et qu'il convenait donc que les courriers
 des Commissaires du peuple ne fussent envoyés qu'à
 une seule personne dans chacun des pays destinataire.
 Il a été reconnu que les courriers et les sacs jouiraient
 de l'immunité traditionnelle. Il a été reconnu enfin
 la mission prise fin par la remise des sacs. Le courrier
 ne jouissait plus de l'immunité diplomatique établie.
 Il pourrait être arrêté dans le cas où il se livrerait à
 des menées antigouvernementales.

Chinda

二二三 一月九日 本野外務大臣ヨリ
 在英國珍田大使宛(電報)

露国過激派政府ニ対スル英國政府ノ態度確メ

方訓令ノ件

極秘第一〇号

英國政府ノ対露方針ニ関シ貴電第五七五号及第五八四号ニ

(別電)

一月八日珍田大使宛本野外務大臣宛第三号
 遣外特使ノ旅券査証問題ニ付在露仏國大使館員ト「トロッキー」
 外務委員トノ交渉顛末報告書

第三三号

一月八日著五日発在露大使電報第一七号

再電十二月二十二日第一二八八号

La conversation s'est engagée sur la phrase in-
 criminée de la Note de Trotski:

“Le pouvoir de Conseils estime nécessaire des
 relations de bon voisinage non seulement avec les
 Gouvernements, mais encore avec les Partis Socialistes
 Revolutionnaires qui s'efforcent de renverser les
 Gouvernements existants.”

Trotski a déclaré qu'il n'a pas pour but de fo-
 menter des mouvements révolutionnés dans ces pays
 étrangers, mais qu'il réclamait seulement le droit
 pour ses représentants d'avoir des rapports avec n'im-
 porte qui en pays étrangers. Cette difficulté étant
 aplani, la question du visa des passeports a été exa-
 miné. Trotski a réclamé la plus complète réciprocité.
 Il a été convenu que soit les courriers de nos Gou-

依レハ露独休戦条約成立スルモ英國政府ハ過激派政府ト公
 然断交ノ措置ニ出ツルヲ不得策トナシ過激派今日ノ態度ニ
 拘ハラス仍ホ非公式代表者ヲ介シテ之ト接觸ヲ保チ或程度
 迄意思ノ疎通ヲ図ラムトスルモノノ如ク解セラルル処貴電
 第四号ニ依レハ英國軍事内閣ハ浦塩ニ堆積セル軍需品ニ関
 シ之カ敵手ニ落ツルヲ防遏セムカ為同地ニ於テ適當ノ行動
 ニ出ツルノ要アリトシ軍艦派遣ノミナラス陸軍ノ出動ヲモ
 予想シテ提議セル所アリ陸軍ノ出動ハ必然一部露國領土ノ
 軍事占領ヲ伴フモノニシテ事実上過激派政府ニ対スル一種
 ノ抗敵手段ト認メラルルニ至ルヘシ英國政府ハ極東方面ニ
 於テ此ノ手段ヲ執ルモ歐露方面ニ於テハ依然過激派政府ト
 公然ノ断交ヲ避ケ何等意思ノ疎通ヲ図ルノ余地アルモノト
 思考スル次第ナリヤ將又前電ノ一般對露方針ハ今回浦塩斯
 德ノ形勢ニ関スル新提議ニ依リ変更セラレタルモノナリヤ
 兩者ノ關係明瞭ナラサルニ付必要ナラハ更ニ此ノ点ニ関ス
 ル英國政府ノ意見ヲモ確カメ電報アリ度シ

註 珍田大使ノ第五七五号電報ハ日本外交文書大正六年第一冊第

六七六頁

同大使ノ第五八四号ハ同書第六八〇頁参照

二一四 一月十一日 在本邦英国大使ヨリ
本野外務大臣宛

英国政府ノ露国過激派政府ニ対シ執ルベキ態
度ニ関スル在露国英国大使ノ意見通報ノ件

在本邦英国大使ガ一月十一日日本野外務大臣ノ参考ノ為メ
持参セル在露国英国大使ヨリ一月四日発本国外務省宛電
報ノ訳文(註)

(極秘)

露国ノ駐英全權使節(訳者註「リトビノフ」氏之ニ擬セラ
ル)任命ノ為メ我方ノ地位ハ甚シク困難トナレリ在英露国
大使館現在員ト「リトビノフ」氏トノ間ニ必然確執ヲ見ル
ニ至ラム若シ我方ニシテ「リトビノフ」氏ノ接受ヲ拒絶セ
バ「トロツキー」氏ハ我カ暗号電報ヲ禁シ外交官ノ特権ヲ
撤スル等ノ報復手段ヲ執ルコトヲ得ヘシ惟フニ我方ノ之ニ
対スル方策ハ次ノ二ヲ出テス即過激派政府ト或種ノ実行的
協定ヲ締結スルカ然ラスンハ之ト全ク關係ヲ絶チ全館員ヲ
引揚クルニアリ然レトモ第二案ハ実ニ他ニ執ルヘキ途ナキ
際ノ方策タルヘキモノニシテ交渉断絶ノ結果ハ或ハ英国カ
露国ノ鉱業及工業ニ投シタル資本ノ押収ヲ見ルニ至ルヤモ
保シ難ク英国ニシテ過激派政府ト非公式交渉ヲ開始セハ其

逸軍隊ノ多数カ西部ニ転回セラレタル今日独逸カ今冬「ペ
トログラード」占領ヲ企図スルカ如キハ万有リ得ヘカラス
ト觀測セララルヲ以テ我方ノ方針トシテハ単独講和ノ締結
ヲ可成ノ延期セシムルノ手段ニ出ツルヲ以テ上策トナスヘ
シ此際我方カ「トロツキー」ト全然關係ヲ断チ又ハ「トロ
ツキー」ニ代リ出来得ル限り有利ナル条件ニテ独逸ト講和
スルコトアルヘキ社会革命党ト断ツカ如キハ決シテ策ノ得
タルモノニ非ス就テハ「トロツキー」カ全權使節ヲ「ロン
ドン」ニ派遣スルノ意図ヲ公式ニ通知シ来レル際曩ニ大略
御訓令アリタル意味合ニテ「トロツキー」ニ通告ヲ送リテ
然ルヘキヤト思考ス即英国ハ「ロンドン」ニ於ケル「トロ
ツキー」ノ代表者及在「ペトログラード」英国大使館ヲ通
シ北露西亜ノ事実上ノ政府ノ代表者トシテ「トロツキー」
氏ト非公式交渉ヲ開始スルニ躊躇セサル旨ヲ告ケ同時ニ露
国ノ他ノ方面ニ於テ事実上政府ノ組織ヲ見レハ我方ハコレ
ニ対シテモ同一ノ方針ヲ執ルヘキ旨ヲ説明スルコトトスヘ
シ

註 在本邦英国大使持参ノ原文(英文)ヲ省略シ当時我外務省作
成ノ其ノ仮訳文ヲ採録ス

ノ在露資本ニ対シ享受シ得ヘキ保護ヲ喪ハシムヘク遂ニ独
逸ヲシテ独リ自由活動ヲ為スヲ得セシムルニ畢ラムノミ
政界ノ情况余リニ渾沌タリ從テ来ルヘキ数週間ニ如何ナル
事件突発スルヤ到底今ヨリ予測スルヲ得ス憲法議會ニシテ
四百ノ定足議員數ヲ得ハ一月十八日召集セラルヘシト云フ
又講和談判ハ「ベルン」又ハ「ストクホルム」ニ移サルヘ
シト云フ「ウクライン」議會ハ「ペトログラード」政府ト
商議ヲナスコトニ同意セリト云フ「トロツキー」ハ尚独逸
ノ提議セル条件ハ到底同意シ難キモノナルコトヲ宣言シツ
ツアリ彼ハ独逸カ漠然タル原則ノ裏ニ懷抱スル真ノ目的ハ
實ニ併合ニ外ナラサルコトヲ暴露セント陳述ス独逸ニシテ
讓歩シ其ノ現ニ主張スル条件ヲ變更スルニ非スンハ交渉断
絶ハ殆ト避クヘカラサルモノノ如シ蓋シ「トロツキー」ハ
既ニ固ク社会党ノ講和条件ニ束縛セラレ居リ且独逸委員ハ
甚シク彼ノ感情ヲ害シタレハナリ而シテ独逸トノ交渉断絶
ヲ見ルカ如キコトアラハ之レ「トロツキー」自身ヲシテ窮
地ニ陥ラシムルモノト謂フヘク露国ノ軍隊ハ彼ニ依リ全然
破壊シ去ラレタルニ顧ミ彼カ革命軍ヲ糾合シ独逸ヲ討ツヘ
シト叫フカ如キコトアルモ畢竟無益ノ空言ナリ然レトモ独

二一五 一月十一日

在本邦英国大使ヨリ
本野外務大臣宛

露国過激派政府ニ対スル英国政府ノ非公式接
触措置ヲ日本政府ニ通牒スル様英国外務大臣
ヨリ在本邦英国大使ニ訓令セル電報呈示ノ件

一月十一日在本邦英国大使持参ノ同大使本国外務大臣ヨ
リ接受ノ電報ノ訳文(註)

極秘

英国政府ノ彼得俱羅士過激派政府ニ対スル態度ハ日本政府
ノ既ニ承知スル処ナルカ右態度ニ遵應シ英国政府ノ採用セ
ムトスル措置ニ付閣下ハ左ノ通牒ヲ日本外務大臣閣下ニ致
サルヘシ

英国政府ノ觀ル所ニ依レハ聯合与国ニ於テハ過激派政府ト
何等カノ接触ヲ為スコトハ避クヘカラサル所ナレドモ英国
政府ハ同政府自身ニ於テモ亦聯合与国共同ニ於テモ「レニ
ントロツキー」政府ヲ確定的ニ承認スルコトヲ欲セス

右目的ヲ最有効ニ達セムカ為英國政府ハ最近莫斯科ニ英国
總領事トシテ駐在セル「ロックハート」氏ニ対シ彼得俱羅
士ニ赴キ非公式ノ名義ヲ以テ「トロツキー」ト接触ヲ開始

スヘク命令シタリ尚同時ニ英国政府ハ倫敦駐在過激派代表者トシテ任命サレタル「リトヴィノフ」氏ト常ニ非公式ノ方法ニ於テ接触ヲ保持セムトス
英国政府ハ前記ノ措置方ハ現下ノ難局ニ対スル最良ノ解決法ト思考ス

註 在本邦英国大使持参ノ電報原書(仏文)ヲ省略シ当時我外務省作成ノ仮訳文ヲ採録ス

二一六 一月十二日 在英國珍田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

米国ノ南露援助説、日本ノ西比利亜出兵問題
等二付在露国米国内田大使へ談話ノ件

第四二号

九日発在露大使ヨリ

第二一号続キ(註)

在米、仏、伊大使へ転電アリタシ

(三) 過日「トロツキー」ハ自分ガ「カレジン」一派ヲ援助シタリトテ攻撃シタルガ全然根拠モナキ誣言ニシテ「カレジン」ヲ初メ誰独リトシテ敵ト戦フノ決心アルモノナク内心ハ尽ク平和論者ナリ従テ援助ノ価値アルモノ全露ヲ通シ

二一七 一月十六日

本野外務大臣ヨリ
在露国内田大使宛(電報)

勞農政府ノ代表者及「クーリエ」ニ対スル旅券査証ニ関シ訓電ノ件

第九号

貴電第一二七八号及第一二八八号ニ関シ此ノ際勞農政府承認問題ト關聯スル一切ノ交渉ハ之ヲ避クルヲ得策トス若シ勞農政府ノ代表者日本派遣ノ場合ニ其ノ非公式交渉ニハ適宜対応スル積リナルニ付之カ為メ旅券査証ヲ求メ来ラハ普通旅券ニ対スルト同様査証セラレ差支ナシ露国ノ「クーリエ」ニ就テハ外交上ノ特典トシテ之ヲ認ムル能ハサルモ貴電第一二八八号ノ如ク一特定人宛ニ限ルノ条件ノ下ニ特別ノ詮議ヲ以テ特別ノ便宜トシテ許与スルハ可ナリ乍去我外交官及「クーリエ」ノ從來享有セル特權特典ハ本来新政府ノ承認ヲ俟タス当然ノ權利ニ属シ当方ノ便宜許与トハ關係ナキモノナルヲ以テ相互承認ノ形式ヲ避クルヲ要ス右御含ノ上与国使臣等ト協議ヲ遂ケラレ可然措置セラレ度シ

テ皆無ナリ當時一応ノ弁明ハ為シ置キタルモ如何セン未承認ノ当局者ヲ相手トシテ夫レ以上ニ論争スルコト能ハザリキ(米国モ英仏同様南露ニ手出しシ居ル旨専ラ風評行ハレ居ルモ米大使内話ニ依レハ右ハ赤十字社關係米人ノ活動ヲ誤伝シ居ルモノ、如シ)

(四) 米大使ハ談話中再三西比利亜經由日本出兵ノ件ニ談及シ独逸ガ(不明)的能力ヲ以テ遂ニ露国ヲ其掌中ニ収ムルニ於テハ其結果日米ニ影響スルコト甚大ナルベキヲ述ヘタルガ右ハ在米日本大使電報ノ趣旨ニ依リ近頃本国政府ヨリ何等訓令ニ接スル所アリテ露独關係ヲ論シ又既ニ本使トノ間ニ何回トナク意見ヲ交換シタル出兵問題ヲ繰返シタルモノト察シタルニ付右出兵ノ實際行ハレ難キヲ詳細ニ弁明シ又独逸ノ露国侵略ニ対シテハ日米兩國トシテハ勿論警戒ヲ要スヘキコトナルモ實際ハ却々困(脱)ベク親独派ノ数ガ反对派ノ数トハ到底比較シ得ヘクモナク戦後露国ニ対スル日米ノ政策其宜シキヲ得ルニ於テハ左迄心配スルニ及バサルモノト思考スル旨ヲ答ヘ置ケリ
在欧米各大使へ転電セリ

註 第二号前段省略

二一八 一月十七日

本野外務大臣ヨリ
在英國珍田大使宛(電報)

英国政府ノ決定セシ過激派政府トノ非公式接觸ノ具體的意味確メ方訓令ノ件

第三〇号

貴電第三一〇号ニ關聯シ英国政府ハ同政府自身ニ於テモ將又聯合國共同ニ於テモ露国過激派政府ヲ確定的ニ承認スルコトヲ欲セサルモ聯合諸国力何等カノ形式ニ依リ過激派政府ト接觸ヲ保持スルコトハ避ク可カラスト認メ今般莫斯科駐在英國総領事「ロツクハート」ニ対シ彼得俱羅士ニ赴キ非公式ノ名義ヲ以テ「トロツキー」ト接觸ヲ開始スヘク命令シタル旨竝同時ニ英国政府ハ倫敦駐在過激派代表者トシテ任命セラレタル「リトヴィノフ」ト常ニ非公式ノ方法ニテ接觸ヲ保持セムトスル旨本国政府ノ訓令ニ依リ一月十一日在東京英國大使ヨリ通報シ越シタリ御参考マデ尚前頭非公式ノ方法ニヨル接觸トハ具體的ニハ如何ナルコトヲ意味スルヤ將又「リトヴィノフ」ト接觸ヲ開始シタル後從來ノ倫敦駐在露国代表者ニ対シテハ如何ナル待遇ヲ与ヘラルルヤ承知シタキニ付英国政府ニ御問合ノ上電報アリタシ

本電在欧米各大使ノ含マテニ転電アリタシ但在仏伊米大使ノ分ハ過激派政府ヨリ任国政府ニ対シ既ニ代表者派遣ノ申出ノ有無又若シ申出アリタル際任国政府ノ態度如何將又右派遣アリタル後従来ノ露国代表者ニ対スル待遇振等問合ノ上至急回電スル様本大臣ノ訓令トシテ附加セラレタシ



二一九 一月十七日 在本邦英国大使ヨリ
本野外務大臣宛

露国政府ガ閉塞ニ依リ在英国露国代表者ニ革

命宣伝文書ヲ送附スル事態ヲ説明シ日本政府

ガ同様ノ事態ニ処スベキ対策問合ノ件

覚書(ロ)

英国政府ハ過激派政府カ過般倫敦ニ於テ任命セル代表者ト非公式ニ外交關係ヲ開始スルヲ至当ト認メタルニ依リ過激派政府ハ檢閲ヲ犯シテ革命的傾向ヲ帯ヒタル書類ヲ封入シ得ヘキ閉塞ヲ英国ニ發送スルノ權利ヲ有スルニ至レリ而シテ労働派新聞ハ既ニ此途ニ由リテ得タル頗ル激烈ナル演説文ヲ掲載セリ然レトモ之レ等ノ事実ハ単ニ其端緒ニ過キスシテ鎮圧手段ノ無キ為革命並ニ温和兩派ノ主張伝播ハ全国

労働政府ノ代表者及「クリーエ」ニ対スル旅

券査証ニ関スル曩ノ訓電ハ暫ク実行見合方訓

令ノ件

第一〇号

往電第九号ノ件追テ何分ノ義電報スル迄実行見合セ置カレタシ

(右和訳文) (註 仮訳文ナリ)

露国ノ東南方面ニ於ケル聯合國活動ノ主タル目的ハ羅馬尼亞軍ヘノ糧食供給、必要ノ場合ニ同軍ノ退却シ得ヘキ根拠地ノ建設及露国ヨリ独逸ヘノ糧食供給ヲ防止スヘキ障壁ノ設置ニアリ

右政策実行ノ目的ニテ「ウクライナ」ノ改造ヲ支持シ且今尚多少ノ安定ヲ保持セル各分子ト關係ヲ開始スル為目下措置ヲ執リツツアリ

加之英国政府ハ波斯及高加索ニ於ケル英軍ノ側面ヲ保護スルニ努メ之カ為「アルメニヤ」人中ノ離反分子ヲ糾合シテ一國ヲ組織シ且「ジョールジャ」自治國ヲ設立スル為努力中ナリ

東西比利亚ニ関シテハ英国政府ハ日本政府ニ於テ人民中ノ

ニ亘リ益々激甚ト為ルヘキハ疑ヲ容レサル所ナリ若シ過激派代表者ニ対シ右ノ手段ハ外交上ノ慣習ニ背反セルコトヲ注意スルモ尚右ノ手段ヲ続行スルニ於テハ彼等ニ退去ヲ要求スルノ必要アルヘキ事ヲ注意セハ過激派政府ノ復讐ヲ受クヘキハ勿論之カ為英国大使館並ニ英国政府ト何事ニ依ラス關係ヲ有スル者ハ総テ退去ノ運命ニ遭遇スヘク随テ英国ノ利益ニ損害ヲ与フルノミナラス延テハ露国ニ於ケル英国民ノ生命ヲ危殆ニ陥ラシメ國際上重大ナル結果ヲ齎ラスニ至ルヘシ且又過激派ハ仏国伊国米国及日本国ニ対シ之ト同一ノ手段ヲ講シ且是等ノ諸国政府ヲシテ右ノ問題ヲ勘考スルノ止ムナキニ立チ到ラシムヘシ依テ英国大使ハ日本外務大臣閣下ニ対シ右ニ対スル日本国政府ノ政策如何ヲ可成速ニ問合スヘキ旨ノ訓令ニ接シ候

東京一九一八年一月十七日

註 覚書原書(公文)ヲ省略シ當時我外務省作成ノ仮訳文ヲ採録ス



二二〇 一月十八日 本野外務大臣ヨリ
在露国内田大使宛(電報)

最良ナル団体ニ支持ヲ与ヘラルヘキヲ諒トスルモノナリ目下ノ処聯合國政策ノ主タル目的ハ浦塩斯德ニ集中セル商品ノ西部ヘノ輸送ヲ妨止シ且日本政府ノ憂慮セル独逸潜水艇ノ太平洋出動ヲ妨碍スルニ在リト思考ス現時聯合國カ該港ニ於テ行ヘル監視、開通ノ筈ノ黒龍江鉄道カ尚實際運轉シ得サル事実、「コザック」軍カ「チタ」ヲ占有セルコト等ハ目下前記ノ行動ヲ妨止スト雖モ西比利亚ニ於ケル聯合側ニ好都合ナル分子ヲ支持スル為將來何等カ聯合諸國ノ共同行為ヲ協議スルノ必要アルヘキコトヲ認メサルヲ得ス斯カの場合ニハ英国政府ハ日本政府ニ於テ聯合國共同利益ノ為ニ協力援助スヘキコトヲ確信シ其ノ意見ヲ腹藏ナク帝國政府ニ通告スルヲ怠ラサルヘシ



二二一 一月十九日 在本邦英国大使館ヨリ
日本外務省宛

南露及東部西比利亚ニ関スル英国ノ活動及意

向ニ関スル件

Aide-mémoire.

L'activité des Puissances Alliées au Sud-est de la Russie a pour buts principaux l'approvisionnement

de l'armée roumaine, l'organisation d'une base sur laquelle elle pourrait se retirer en cas de nécessité et rétablissement d'une barrière servant à empêcher l'approvisionnement de l'Allemagne par la Russie.

En vue de mettre à exécution cette politique l'on est en train de faire des démarches pour appuyer la réorganisation de l'Ukraine et pour entrer en relations avec quelques éléments divers qui retiennent encore un certain degré de stabilité.

Le Gouvernement de Sa Majesté vise en outre le but de protéger le flanc de leurs forces en Perse et au Caucase et pour l'atteindre il s'efforce de réorganiser la foule désintégréée des Arméniens et d'amener l'établissement d'un Etat géorgien autonome.

Pour ce qui regarde la Sibérie Orientale, le Gouvernement de Sa Majesté est très reconnaissant au Gouvernement Impérial de l'appui que celui-ci est disposé à prêter aux meilleurs éléments de la population. Pour l'instant l'objet principal de la politique alliée semble être d'empêcher le transport vers l'ouest des marchandises concentrées à Vladivostok ainsi que tout mouvement vers le Pacifique

de sous-marins allemands tel que redoute le Gouvernement japonais.

Quoique le contrôle exercé actuellement sur le port par les Alliés, le fait que le chemin de fer de l'Amour, ouvert en théorie, est encore incapable de fonctionner, et la domination de Tchita par les Cosaques empêchent actuellement tout mouvement sensible, il faut reconnaître qu'il sera peut-être nécessaire à l'avenir de concerter une action alliée quelconque en vue d'appuyer les éléments en Sibérie restés favorables à notre cause.

Au cas visé le Gouvernement de Sa Majesté ne manquera pas de faire connaître en toute franchise leur vue au Gouvernement Impérial avec l'assurance que celui-ci prètera sa coopération dans l'intérêt commun des Alliés.

Tokyo, 19 janvier 1918.



二二二 一月十九日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

露國過激派政府ガ駐日大使ニ任命セル「ロン

「ラード」ノ薦任事情、人柄等ニ付在中國露國

公使ノ談話報告ノ件

別電 同日芳沢臨時代理公使発本野外務大臣宛第六四号

露國政府ハ世界各国ノ労働運動援助ノ為ニ百万留ヲ外務省ノ使用ニ供スル旨ノ布告

第六三号

一月十九日露國公使本官ヲ来訪シ過激派政府カ客月二十四日露都ニ於テ発表セル大要別電第六四号ノ如キ布告文ヲ訳読シタル後今般同政府ヨリ在日本大使ニ任命セラレタリト伝ヘラルル「コンラード」ハ年齒二十五六歳ニシテ昨年頃迄日本ニ滞在シタル人物ナルカ今回駐日大使ニ薦任セラレタル内情ヲ推察スルニ現ニ過激派政府外務省極東課長ノ任ニ在ル「ポリワノフ」ナルモノ曾テ日本ニ滞在中「コンラード」ト懇親ヲ結ヒ「コ」ヨリ多少ノ恩誼ヲモ受ケタルコトアル趣ナルヲ以テ多分右「ポ」ノ推薦ニ基キタルモノナルヘク「コ」ハ一面ニ於テ右ノ如キ美性ヲ有スルモ平素極メテ過激ナル革命思想ヲ鼓吹セル人物ナリ右同人ノ性格ノ一斑ハ或ハ日本政府ニ於テ同人ノ待遇振リニ付考慮セララルル際「コ」ハ既ニ敦賀ニ到着シタル頃ニ付日本政府ニ

於テモ考慮中ナラン)何等参考トモナルヘクト思考セララルニ付本官ニ於テモ必要ト認ムルニ於テハ前述ノ次第閣下ヘ伝達アリタク且別電ノ布告ハ序ノ節「クルペンスキー」大使ヘモ伝達ヲ得ハ幸甚ナル旨申出タリ然ルヘク御取計ヲ請フ

(別電)

一月十九日在中国芳沢臨時代理公使発本野外務大臣宛電報第六四号

露國政府ハ世界各国ノ労働運動援助ノ為ニ百万留ヲ外務省ノ使用ニ供スル旨ノ布告

第六四号

別電

政府ハ全世界ニ於ケル労働階級者ノ親睦ヲ敦フシ之カ一致ヲ益々鞏固ナラシムルヲ以テ其政綱ト為シ且終始常ニ戦争及帝國主義ニ抗戦スルモノニシテ更ニ進ンテ万国ノ協力ヲ図リ以テ有終ノ成果ヲ収メンコトヲ期ス
而シテ國民委員会ハ現ニ露國ト戦争状態ニ在ル諸國其他中立國タルト否トヲ問ハズ世界各国ニ於ケル万国労働運動ノ費用ニ対シ財政上其他出来得ル限り援助ヲ寄与スルコト頗ル喫緊ノ要務タルヲ確知シタリ上叙ノ見地ヨリシテ政府ハ

茲ニ万国労働運動ヲ援助セムカ為メ二百萬留ヲ支出シ外交當局ノ使用ニ供スベキ旨ヲ布告ス

二二三 一月二十八日 本野外務大臣ヨリ
在英國珍田大使宛(電報)

露國過激派政府代表者ニ對シ外交郵囊ノ便宜ヲ供与スル儀ニ閣シ在本邦英國大使ノ問合ニ對シ日本政府ノ意向回答ノ件

別電 同日本外務大臣發珍田大使宛電報第五六号
右日本政府ノ回答覺書

第五五号

往電第三〇号ニ閣シ一月十七日附覺書ヲ以テ在本邦英國大使ヨリ英國政府力過般過激派政府ノ任命セル代表者ト非公式ニ外交關係ヲ開始シタル為メ過激派政府ハ革命的傾向ヲ帯ヒタル書類ヲ封入シ得ヘキ閉囊ヲ自由ニ英國ニ發送スルノ權利ヲ取得シ労働派新聞ハ既ニ此ノ途ニ由リテ得タル頗ル激烈ナル演説文ヲ掲載セルガ斯ノ如クシテ將來革命並ニ溫和兩派ノ主張傳播ハ英國全体ニ亘リ益々激甚ナルハ疑ヲ容レサル処若シ過激派代表者ニ對シ右ノ手段ハ外交上ノ慣例ニ背反スルモノナルカ為之ヲ続行スルニ於テハ彼等ニ

テ日本政府ノ執ル可キ措置如何ヲ尋ネラレタリ今日ニ至ル迄日本政府ハ日本駐在過激派政府代表者ノ任命ニ閣シ同政府ヨリ何等ノ報告ニ接セス故ニ日本駐在過激派代表者ニ与ヘラル可キ待遇ノ問題若ハ此ノ代表者ニ供与セラル可キ外交郵囊ノ便宜ノ件ハ未タ急速決定ヲ要スル問題ニアラス日本政府ハ露國ノ現状ニシテ著シキ變改ヲ来ササル限リ假令過激派政府カ日本駐在代表者ヲ任命スルトモ英國政府カ現ニ採リツツアル態度ニ倣ヒ同代表者ト非公式ニ接觸シ其公ノ資格ヲ承認スルコトヲ差控ヘントスルノ意見ナリ又日本政府ハ外交官ノ特權問題ト離レ單ニ便宜ノ問題トシテ密封郵囊ノ使用ニ関シ希望トアラバ相當ノ便宜ヲ之ニ与ヘントスルモノナリ尤モ同代表者カ右好遇ヲ受クル日本ニ於テ其政治主義ヲ傳播スル為メ絶對ニ日本駐在ヲ利用ス可カラサル旨同代表者ヲシテ明瞭ニ諒得セシム可シ、同代表者ニシテ右ノ了解ヲ無視シテ行動スルカ如キコトアラハ日本政府ハ斯ル行動ヲ防止スル為メ有効ナル措置ヲ執ルコトアル可シ

退去ヲ要求スルノ必要アルヘキコトヲ注意スルコトアラムカ過激派政府ノ復讐ヲ受ク可キハ勿論英國政府ト關係ヲ有スルモノハ總テ退去ノ運命ニ遭遇ス可ク隨テ英國ノ利益ニ損害ヲ与フルノミナラス延テハ在露國英國民ノ生命ヲ危殆ニ陥ラシムルニ至ルカ如キコトアル可シ且又過激派政府ハ仏伊米及日本ニ對シ同一ノ手段ヲ講シ是等諸國ヲシテ右ノ問題ヲ勘考スルノ止ムヲ得サルニ立チ到ラシム可キ処其際日本政府ノ執ラル可キ政策如何ヲ承知シタキ旨本國政府ノ訓令ニ依リ問合セ越シタリ右ニ對シ本大臣ハ一月廿八日覺書ヲ以テ別電第五六号ノ通り回答シ置キタリ御參考迄

(別電)

一月二十八日本野外務大臣發在英國珍田大使宛電報第五六号
日本政府ノ回答覺書

第五六号

別電

一月十七日附覺書ヲ以テ英國大使閣下ハ在倫敦露國過激派政府代表者ノ外交郵囊濫用ニ閣スル報告ヲ帝國政府ニ通知セラレタル上同様ノ濫用ガ日本ニ於テ行ハレタル場合ニ於

二二四 一月二十九日 在英國珍田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

勞農政府ノ派遣員ノ旅券査証ニ閣シ在露大使

ヨリ請訓ノ件

第九〇号

(一月三十一日接受)

二十八日發在露大使ヨリ第五九号

大臣ハ第七〇号

貴官發在英大使宛第四五号旅券査証規則ニ閣シ勞農政府ノ派遣員ハ外國政府ノ公用旅行者ニ準シ取扱フ外ナキ様存セラルル処右様取扱差支ナキヤ客年往電第一二八七号末段ノ件ト共ニ何分ノ義御電訓ヲ請フ

近々当地出發ノ管ナル勞農政府極東局長「オズネセンスキ」カ愈々本邦へ渡航ノ場合ニハ差当リ實際問題ヲ生スヘキニ付勞々請訓ス

二二五 二月三日 本野外務大臣ヨリ
在英國珍田大使宛(電報)

勞農政府ノ代表者ノ旅券査証ニ付在露大使へ

回訓ノ件

第七三号

右露大使へ転電アリタシ第二三号

貴電第七〇号ニ関シ過激派政府代表者本邦へ派遣ノ際生スヘキ諸般ノ問題ニ関シ帝國政府ノ執ルヘキ態度殊ニ右代表者ノ取扱振ニ就テハ珍田大使宛往電第五六号別電ニテ既ニ御承知ノコトト信ス從テ右代表者其他ノ派遣員ニ対スル旅券査証モ亦其公ノ資格承認ト思ハルル形式ヲ避ケ之ニ与フヘキ旅券ハ普通旅券規則ニ定ムル条件ニ基キ普通旅券トシテ査証セラルルコトト致度シ又場合ニ依リ単ニ貴官若ハ貴館員ヨリ帝國關係官憲ニ対シ特別便宜許与ノ私的紹介状等ヲ発給セラルルコトハ差支ナシ但シ其交渉ハ可成貴館員等ヲ介シ非公式ニ行フ様致シタシ

二二六 二月四日 在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

勞農政府ヲ事実上ノ政府ト認ムルコトハ暫ク
見合スルコトニ在露外交團意見一致ノ件
第九三号ノ二 (二月六日接受)

二、近頃列国使臣中外交団ト勞農政府トノ關係ヲ今一層明確ニ取極ムル為外交官會議ノ開催ヲ筆頭大使ニ請求スル者

羅馬尼亞駐在英國公使ハ露國ニ於ケル過激派官憲ニ対シテ英國政府ノ支持スヘキ態度ニ関スル事由ニ付竝「ロックハート (Lockhart) (註在莫斯科英國總領事ニシテ現ニ對過激派政府ノ非公式交渉ヲ担任セル人ナリ) ニ命シタル措置振ニ付羅馬尼亞政府ニ説明ヲ与フヘキ旨ノ訓令ニ接シタリ該訓令ノ大要左ノ如シ

英國政府ノ意見ニテハ刻下ノ処過激派ニ対シ完全ナル承認ヲ与フルハ不可能ナルモ全然關係ヲ絶ツハ不利ナリト信ス英國政府ハ右關係カ非公式ニシテ全ク正式ノ性質ヲ有セサル限り「ロックハート」氏ヲ英國大使館ノ認メタル代表者ニ任命シ過激派官憲ト大使館トノ仲介者トスルモ差支ナシト思惟ス故ニ英國政府ハ不日同氏ノ任命ニ着手スヘシ然シテ英國政府ハ恰度芬蘭、「ウクライイネ」、其ノ他ノ地方ニ於ケル事実上ノ官憲ニ対セルカ如ク「ペトログラード」ニ於ケル事実上ノ官憲ト關係ヲ保ツニ至ルヘシ

右手續ヲ執ラムトスル主タル理由ノ一ハ英國政府ハ公認代表者ヲ設クルノ方法ニ依リ過激派官憲ニ対スル勢力ヲ増進スルヲ得ヘク随テ露國ノ利益ヲ保護シ羅、露兩國ノ国交ヲ改善シ以テ露國ノ利益ノ為ニ該勢力ヲ利用シ得ヘシト信ス

アルガ米國大使ノ意見ニ依レバ勞農政府ハ實際其地歩ヲ固メ来リ今日トナリテハ最早露國ノ De facto Government ト認ムルノ外無ク從テ右ノ請求モ一応尤ナルガ果シテ開催スヘキモノナルヤ各使臣ノ意見ヲ承知シ度シトノ事ニ付仏國大使ハ之ニ対シ逐日勞農政府ノ勢力増加シ De facto Government ニ向ヒツアル事ハ否定ス可カラザルモ今直ニ之ヲ事実上ノ政府ト認メ之ニ対スル從來ノ態度ヲ改ムルコトハ疑問ニシテ少ナクトモ「プレス」ニ於ケル講和談判ノ結果判明スル迄ハ右外交団會議ヲ見合セタシトノ意見ヲ提出シ衆議之ニ一決セリ英國代理大使ハ本件ニ関シ何等意見ヲ發表セザリシモ過日本使ノ問ニ対シ当分到底勞農政府ニ代リ得ベキ勢力ナキヲ以テ同政府ハ姑ク継続スルモノト覚悟セザル可カラザル旨ヲ語りタルコトアリ此意見ハ「ブカナン」大使モ同様ナリキ

二二七 二月十一日 在本邦英國大使館ヨリ
日本外務省宛

英國政府ノ露國過激派政府ニ対スル態度ニ付
羅馬尼亞政府ニ与ヘタル説明通報ノ件

ルニアリ之ト同時ニ右ニ因リ中欧帝國ト過激派政府トノ間ニ单独講和ヲ締結スルヲ防止シ若クハ遅延セシムルノ結果ヲ見ルヘク從テ露國ニ執リ總テノ点ニ於テ有利ナルコト明白ナリトス

註 覚書原文(仏文) ヲ省略シ当時外務省作成ノ仮訳文ヲ採録セリ

二二八 二月十一日 在英國珍田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

羅馬尼亞ノ現情勢、露國ノ新事態等ニ関スルセ
シル卿ノ本多參事官ニ対スル談話報告ノ件
第一三三号 (二月十三日接受)

極秘
往電第一三二号「ウクライイナ」講和成立ニ引續キ羅馬尼亞ニ對スル独逸最後通牒發送ノ報道アリ恰モ二月十一日別用ヲ以テ本使代理トシテ本多ヲ「ロバート・セシル」卿ニ遣シタル機會ヲ以テ右等ノ新發展ニ對シ同卿ノ所感ヲ叩カシメタルニ同卿ノ答話左ノ通り

一、羅馬尼亞ハ此數週來荐リニ其ノ窮狀ヲ吾々ニ懇ヘ居リタ

リ即チ全国ハ一面「ボルシェビック」ノ侵迫ヲ受ケ居ル上ニ他面「ウクライン」ハ何時独塊ト講和センモ計リ難ク其ノ曉ニハ羅馬尼亞更ニ側面ヨリモ敵ノ威嚇ヲ受ケルコトトナリ結局独塊ト和議ヲ行フノ外ナキニ至ルベシトノ申分ニシテ右等羅馬尼亞ノ新局ハ素ヨリ彼ノ懇ヲ俟タズ察スルニ余リアル所トテ吾々ノ方ヨリモ多少援助ノ策ヲ講ジタル次第ナルモ成功之ニ伴ハズ尤モ之ト同時ニ我ノ見ル所ニテハ羅馬尼亞軍ハ猶敵ニ対シ持耐ユル力アルヲ以テ出来得ル限りハ現状ヲ維持スル様勸告シ居ル次第ナルガ一面羅馬尼亞国内ニ於ケル agitation 段々盛トナリ「ブラチカヌ」内閣ハ到底之ヲ支ヘ能ハズトテ遂ニ辞意ヲ呈シ「アベルスコ」將軍新内閣ノ組織ヲ命ゼラルルニ至レリ同將軍ハ先ヅ協商側有力者ノ一ト謂フベキ人物ナルガ新内閣外務大臣ニハ在英羅馬尼亞公使「ミス」氏就職ノコトトナルベキ都合ニ進行中ナリ若シ其ノ通トナレバ協商側ニハ洵ニ都合ヨキコトト存シ居レリ但本件ハ特ニ極秘ニ御含アリタシ（此点「セシル」卿ハ二度迄繰返シ念ヲ推サレタリ）

二、「ウクライン」地方電線切斷ノ為同地方ニ於ケル英國派遣員ヨリハ最近何等通信ナク目下ノ事態ニ関シテハ確カ占領シ置カントスルニアル様認メラル旁此ノ際旁農政府ト講和条約締結ハ独逸ノ欲セサル所ナルヘシ正式ノ平和条約調印ノ上ハ右様ノ画策ハ鳥渡実行シ難キコト、ナルヲ以テナリ要スルニ「トロツキー」ト独塊間ノ経緯ハ大体ニ於テ不得要領ノ現状ヲ継続スルモノト看做スヘキニ似タリ云々在欧米各大使ニ転電セリ

二二九 二月二十二日

在仏国松井大使ヨリ
本野外務大臣宛（電報）

露独講和ノ場合仏国政府ノ態度及滿洲東部西
比利亚ニ於ケル軍需材料ノ敵国ニ入ルヲ防止
スル措置ニ関シ仏国外相ト会谈ノ件

第九三号

（二月二十四日接受）

二月二十一日外務大臣ニ会见「レーニン」「トロツキー」等ハ独乙ニ降伏シタル様子ナルガ露独ノ講和ハ遠カラズ何等カノ形ニ於テ成立スルモノト見テ可然、其場合仏国政府ハ如何ナル態度ヲ採ル積リナルヤ尤一説ニ依レバ「レーニン」「トロツキー」等ハ何レヘカ逃亡シタリトノ風説モアルガ其政府ハ何レ何人ガ代リテ露都ノ政府ヲ引受ク可キヤ不明ナルカ其辺ノ所見ヲ承知シ度シト述ベタルニ「ピシヨ

ナル消息ナキモ同地方穀物其ノ他食糧ニハ差シタル余裕コレナキ丈ケハ先ヅ確カナルモノノ如シ此事丈ケハ今回ノ平和成立ニ関シ協商側ニ取リテノ仕合ト謂フ可シ

(三) 要スルニ自分ノ所見ヲ以テスルニ露国方面ニ於ケル事態最近ノ發展ハ聯合側ニ取リ一ノ「ニュー・シチュエーション」ヲ形成スルモノト云フヘク此ノ当面ノ新時局ニ対シテハ聯合各国ニ於テ最注意ヲ払ハサルヘカラス今ヤ恐ラク聯合側ニ於テ「ニュー・ヨリエンテーション・ヨブ・ポリシー」ヲ行フヘキ時機到来セルモノナルヤニ思考セラル殊ニ日本国ニ取リテハ最注意ヲ要スル新時局ナルヘシト存ス（本多ハ態ト之ヲ聞流シニシ別ニ語ヲ挿ミテ「ブレスト」ニ於ケル「トロツキー」ト独塊側ノ講和談判ハ結局破裂ヲ見ルヘキ兆候ナキヤト尋ネタルニ「セシル」卿曰ク）露国ノ事態ニ付テハ自分ハ由来悲觀ノ見地ヲ以テ之ニ臨ミ居ルモノニシテ「ブレスト」談判ノ如キモ結局「トロツキー」カ独逸ノ意ヲ受ケ八百長談判ヲ行ヒ居ルモノト看做ス方安全ナルヘシト思惟シ居ル次第ナルカ差向キ独逸ノ目的ハ先ヅ露国内各地ニ残存スル軍需品ヲ手ニ入レ一面場合ニ依テハ現在ノ占領地ニ一歩ヲ進メ「レブワール」港位ハ

ン」氏ハ右兩人ノ降伏ニ依リ形勢ニ変更ヲ來ス可シトモ思ハレズ講和成立スルトモ實際ハ今日ト異ナル処ナカル可キニ付仏国ノ態度ニ関シ特ニ考量シ居ラズ又右兩人ハ逃亡セザル可シト答ヘラレタリ依テ本使ハ貴電第七号ニ言及シ滿洲及東部西伯利亚ニ於ケル軍需材料ノ敵国ニ入ル事ヲ防圧スルノ必要ハ申迄モナキ事ナガラ之ニ関スル覚書ヲ本使ニ送ラレタルニハ何等カ特別ノ動機ニテモアリタル事ナルヤ尚同覚書以外ニ確的ナル報道ニ接セラレタル事ナルヤト尋ネタルニ同覚書所載以外特ニ報道ナシト答ヘラレタルニ付本使ハ更ニ話ヲ進メ右材料ノ輸送ヲ防圧センガ為ニハ何等カ有力ナル手段ヲ執ルノ必要アル可シ而シテ之ヲ実行スル上ハ過激派政府ノ反抗ヲ予期セザル可カラズ日本ニテハ其場合現大使館ヲ其儘「ペトログラード」ニ駐在セシムル事不可能ナル可ク又連合与国側ニテモ同様ナル可シ今回ノ談話ニテ閣下ノ意ノ存スル処ハ帝國政府ニテモ承知セラレタルガ尚日本ガ東部西伯利亚滿洲等ニ於テ右ノ如キ断乎タル処置ヲ執ル場合現過激派政府ニ対シ仏国ハ如何ナル政策ヲ執ル積リナルヤト推問シタルニ日本ガ有力ナル処置ヲ執ル場合ニハ可成ハ該地方ノ官憲ナリ人民ナリヲ支持スルト云

フ意味ニテ露国ニ反対スルモノニアラザル事ヲ標榜スルコト緊要ナル可ク然スレバ之ガ為必ズシモ露都ニ於テ過激派ノ復讐アル可シトモ思ハレズ大使館引揚ノ如キハ可成引延シ度キ考ナリト答ヘタルニ付右ハ頗ル六ヶ敷註文ニシテ事実日本ガ東方ニ於テ断乎タル措置ヲ採リ乍ラ西露ニ於テ連合国ガ平然タル事ハ如何アル可キカト述ベタルニ何レ斯ル場合ニハ連合国トモ篤ト相談ヲ遂ゲ決定ヲナスノ外ナカル可シト云ヒ余リ熟シタル意見ナカリシヤニ見受タリ(以下略)

往電第八七号ハ第九〇号往電第九〇号及第九一号ハ第九一号、第九二号ノ誤リ可然御取計相成度シ

二二〇 二月二十二日 在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

過激派政府ノ対独抗戦ヲ援助スル問題ニ付在

露国連合国大使會議ノ模様報告ノ件

第一一五号 (二月二十四日接受)

今二十二日五大国使臣會議要領

過日独逸ガ露国ニ対シ再ヒ開戦スルヤ労農政府ハ之ニ対抗シ神聖戦争ヲ宣言スベシトノ風説行ハレタル際各協商國使

彼ニ向ヒ五大国使臣ト会谈ス可キコトヲ求メタシトノ事ニ付本使ハ之ニ対シ敢テ参加ヲ拒ム訳ニハアラザルモ日本ガ欧洲出兵シ能ハサル事情ハ巴里會議ニ於テ各国ノ諒トセル処ナルガ労農政府援助ノ結果トシテ右出兵ヲ要スル事トモ成ル儀ナレバ本使ハ乍遺憾本件ニ参与シ難ク又「トロツキ」ニ対シ幾何ノ信用ヲ弘ヒ得ベキヤ疑問ニシテ今日ノ場合労農政府ヲ援助スルモ何等ノ効ナク却テ面白カラザル結果ヲ来スコトナキヲ恐ルルモ德義の援助トシテ一同ト共ニ「トロツキ」ニ会见スルハ辞スル処ニアラザル旨ヲ述ヘタル処仏国大使ハ日本出兵ハ別問題トシテ今尚当地在留日本武官ノ援助ヲ得タシトテ其数ヲ尋ネタルニ付何程ノ援助ヲ与ヘ得ルヤ本使一存ニテハ確言シ難キ旨ヲ答ヘタルニ若シ必要アラバ本国政府ニ請訓ノ上可成援助ヲ得タシトノ事ニ付一応請訓ス可キ旨答ヘ置ケリ何分ノ義至急御電訓ヲ請フ

仏国大使ハ最初ヨリ露国引揚ヲ断行シ難キ内情アリ之ヲ諒トセザルニアラザルモ今日労農政府ヲ援ケ(脱)認ハ別問題ナリトノ議論ナルモ実ハ承認トナリ所謂健全分子ニ与フル悪影響ハ意想外ノモノアル可シ尤モ「トロツキ」ノ援

臣ノ之ニ対スル態度ヲ知ランガ為各館ヲ歴訪シタル新聞記者アリ当館ヘモ来リタレドモ程好ク謝絶シタル処仏国大使ハ之ニ対シ若シ労農政府ガ独逸ニ対抗スル場合ニハ同政府ヲ援助スベシト談話セル趣新聞紙上ニ掲載セラレタルコトアリ右ノ行懸ニ由ルモノカ昨夕仏国士官(仏大使ノ内命ニ依リ予テ「トロツキ」ト接触シ居ルモノト云フ)ガ「トロツキ」ニ面会シタル節「トロツキ」ハ仏国ハ果シテ労農政府ノ対独戦争ニ援助ヲ与フルモノナルヤヲ尋ネ該士官ガ之ヲ肯定スルヤ然ラハ其旨仏国大使ヨリ「トロツキ」ニ向ヒ宣言方ヲ依頼シ其結果仏国大使ヨリ直接「トロツキ」ニ電話ヲ以テ援助方ヲ宣言シタル処直チニ内閣會議ヲ開キ一二時間内ニ何等挨拶ニ及ブヘシトノコトナリシモ今日正午迄音沙汰ナキ旨仏国大使ヨリ報告アリ一同ノ協力ヲ求メタリ英代理大使ハ前以テ打合せアリタルモノト見エ格別異議ナク米大使ハ敢テ援助ヲ拒ムニアラザルモ無条件ニテ之ヲ為シ難ク少クトモ彼等ヲシテ他国ノ政府顛覆ヲ企図スルガ如キ煽動の行動ヲ中止セシムル要アリ(仏国大使ハ労農政府ガ羅馬ニ対シ戦闘ヲ中止スルヲ条件トス)就テハ「トロツキ」ヨリ挨拶アリタル節ハ仏国大使ヨリ

助請求モ今夕迄何等返答ナキヲ見レバ閣議ニ容レラレズ自然消滅ニ帰シタルモノトモ思ハル一方日米側出発準備ハ右援助問題ニ頓着ナク進行セシメ居ルモ外務省側ノ係員ト称スルモノ法外ノ汽車賃(一列車約五十万留)ヲ請求セルニ付直ニ之ヲ退ケ他ニ交渉中ナルモ結果未ダ不明免モ角予定ノ通明日出発ハ行ヒ難カル可シ

莫斯科及在欧米各大使ハ転電セリ

二二一 二月二十四日 本野外務大臣ヨリ
在英国珍田大使宛(電報)

露国ノ新事態ニ対スル英国政府ノ態度ニ関シ

当局ニ問合セ回電方訓令ノ件

第一一二号

最近露国ノ事態ニ重大ナル変更ヲ見タルニ関シ何レノ途露国内秩序ノ紛乱ト独国勢力ノ浸染ハ更ニ激甚ノ度ヲ加フヘキニ就テハ帝国政府ハ此際進ンテ同国ニ対スル聯合与国ノ態度ヲ確立スルノ要アリト認ムル処責任国政府ノ露国新事態ニ対スル態度方針等承知シタシ貴官ハ右ニ関シ当局ニ就キ御問合セノ上至急電報アリタシ

本電本大臣訓令トシテ在欧米各大使ニ転電アリタシ

二二三 二月二十七日 本野外務大臣ヨリ
在仏国松井大使宛(電報)

露国過激派政府ノ対独抗戦ニ対スル連合國ノ

援助問題ニ関スル仏国政府ノ見解問合方訓令
ノ件

第一四号

本大臣宛内田大使発電第一五一号ニ関シ在露仏国大使ト「
トロツキー」トノ交渉振ニ就テハ諒解ニ苦ム点アリ第一露
軍崩壊ノ今日果シテ過激派政府ハ真面目ニ対独戦争ヲ復活
シ得ルヤ疑ナキ能ハス殊ニ同政府ノ言動ニハ従来ノ遣口ニ
徴シ到底信ヲ措キ難キモノアリ加之「トロツキー」ハ結局
単独講和ヲ為スノ余地ヲ留保セルノ実情ニ鑑ミ此際輕々シ
ク之カ援助ヲ誓言スルカ如キハ連合國ノ威信上大ニ考慮ヲ
要スルモノアリト思考セラル第二ニ獨軍ノ侵撃ニ対シ露軍
ハ一戦ニ及ハス先ヲ争テ潰走シ露都ノ運命モ既ニ切迫セリ
ト認メラルル今日仏国大使ノ主張スル少数外國武官ノ援助
ノ如キハ何等ノ効果ナシト信ス仍テ帝國政府ハ右武官ノ援
助ハ之ヲ見合ハスコトトシ同盟國代表者トモ打合せ最近ノ

第一九七号

(三月一日接受)

至急極秘

先般「ブレスト」會議ノ結末ニ対シテハ往電第一四五号冒
頭所述ノ如キ有様ニテ當国新聞紙ノ多数ハ概シテ真面目ノ
論議ヲ避ケ居タルガ何分其結果ノ時局ニ及ボス可キ影響ノ
重大ナルハ勿論其際「タイムズ」ノ諷示セルガ如ク実ニ近
東及中東ニ於ケル英國ノ地位ヲ危ウシ延テ印度ノ安全ニモ
累及ス可キ一新事態ノ出現セルモノトシテ(右往電第四九
号参照)一般識者ニ与ヘタル刺戟ハ言論表面ノ鎮靜ニ似
ズ其甚ダ大ニシテ而モ此刺戟ハ其後ニ於ケル獨乙ノ對露
動作ノ着々展開スルニ伴ヒ比例的ニ益々鋭敏ヲ加ヘ西伯利
亞一帶モ歐露ニ引統キ獨乙ノ藜藿中ニ陥ル可キハ其必然ノ
成行ニ付此際宜敷自衛上英國ト同一ノ立場ニ在ル日本ニ依
頼シテ速ニ右防庄ノ為相当ノ軍事的行動ヲ該方面ニ採ラシ
ムルノ外ナシトノ説最近日ニ増シ識者ノ間ニ勢力ヲ得今ヤ
殆ド有力者界ノ輿論トナリツ、アルモノ、如ク往電第一八
〇号「ベルメル・ガゼット」(同紙ハ自由党中「ロイド・
デョーヂ」首相擁護派ノ一領袖株タル「サー・ヘンリー・
ダゼル」ノ所有ナリ)ノ論說ニ引統キ往電第一八六号「デ

機會ヲ捉ヘ予定通り至急露都引揚ノ訓令ヲ在露大使ニ発シ
置キタルカ前述「トロツキー」ノ援助依頼及露都ノ形勢ニ
関シ仏国政府ハ如何ナル見解ヲ有シ今後如何ナル態度ニ出
ツルノ意向ナリヤ將又在露仏国大使ノ最近ノ行動ハ仏国政
府ノ訓令ニ拠ルモノナリヤ又ハ全然同大使一己ノ裁量ニ出
テタルモノトセハ仏国政府ハ将来ニ此態度ヲ支持セラルル
所存ナリヤ若シ然リトスレハ曩ニ貴電第七六号ヲ以テ御報
告ノ本大臣意見ニ対シ同意ヲ表シタル「ピシヨン」氏ノ説
ニ矛盾ノ結果ヲ来スヤニ考ヘラルル処右諸点ニ対スル仏国
外務大臣ノ所見至急御問ヒ合せノ上結果回電アリタシ
本電並ニ貴官回電参考ノ為メ在英米露伊各大使へ転電セラ
レタシ

二二三 二月二十七日

在英國珍田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

独逸勢力ノ西比利亞ヘノ東漸ヲ防止スル為日

本ノ軍事行動ヲ要望スル英國識者間ノ風潮報

告ノ件

別電

同日珍田大使発本野外務大臣宛第一九五号

二月二十七日「タイムズ」社説

「リー・クロニクル」社説(同新聞ハ「ロイド・デョーヂ
」直屬ノ機関ニシテ其主筆ハ最近新設ノ「ミニストリー・
オブ・プロパガンダ」ノ一要地ニアリ)ノ如キ共ニ輿論ノ
趨勢ヲ語ルモノナルト同時ニ右両新聞ガ何レモ其論說中本
件ニ関スル外交ノ緩慢ニ不満ノ情ヲ漏ラシ居レルハ注意ニ
値スル所ナルガ政府部内ニ於ケル本問題ノ消息ハ右等有力
者ノ方面ニハ大体漏レ居ルモノト見エ二月二十三日「タイ
ムズ」主筆宅茶会ニ於テ「スチード」ハ窃ニ本多ニ對シ例
ノ露国問題ニ就テハ未ダ米國ヨリ何等ノ沈沙ナキヤト尋ネ
タルニ付本多ハ「バルフォア」氏ノ本使ニ語ル所ニ由テモ
未タ之ナキ趣ナリト答ヘタルニ「スチード」ハ然ラハ聯合
側ヨリ早速米國政府説附ニ全力ヲ傾注スルコトトセサルハ
カラスト独語ノ体ニテ頻リニ事態緩慢ヲ許ササルコトヲ説
キタルニ依リ本多ハ日本ト他ノ与國間ニハ本問題ニ付政府
間トシテハ未タ何等交渉シ居ラス(脱)ト「バルフォア」
氏ノ会谈モ個人的ノ意見交換ニ過ギサリシモノナリトテ其
辺程能ク内話ノ上本問題ハ英國政府モ先般來頻リニ苦心考
慮中ナリト聞クト述ヘタルニ「スチード」ハ英國政府ハ専ラ
米國ノ意向開示ヲ待受居ルナリト答ヘ尚本多ヨリ露都陥落

モ遠カラサルコトナルヘク其結果ハ日本ノ輿論ニ多大ノ刺戟ヲ与フヘキカ実ハ目下ノ場合日本ニ取リテノ危険ハ寧ロ第二ニシテ英国コソ印度トノ關係上直接当面ノ危険ニ遭遇シ居ル次第ナラスヤ「プレスト」會議ノ結果ニ対スル貴下ノ論説ハ即チ其意味ニ了解セラルト述ヘタルニ「スチード」ハ其通りナリト答ヘ又本多ノ問ヒニ対シ日本カ問題ノ行動ヲ執ルコトハ英国輿論ノ何等異議ナキ所ナルノミナラス實ニ其歡迎スル所ナリト述ヘタル趣ナルカ二月二十六日同氏ハ更ニ本多ニ会见ヲ求メ往電第一九〇号閣議開催ノ件ヲ内報シタル上尙其前日外務当局ト会见シタル結果ニ付内話セルカ当局ハ同氏ニ対シ米國政府ヘノ交渉ハ仏國ヲシテ之ニ当ラシメ居レルカ未タ米國ヨリ何等意向ヲ開示シ来ラス英國政府ハ之ヲ待チツ、アル次第ナリト云ヘルニ付同氏ハ時局（不明）ノ急転ニ鑑ミ殊ニ英國政策ノ将来大局ノ見地ニ照シ此際区々ノ末節ニ拘泥セス速カニ日本ニ行動委任ヲ為スコトニ聯合國間ノ協定ヲ遂クルコト急要ナルヲ痛説シ置キタリトノコトニ之アリ尙其際ノ談ニ本問題ハ元々軍事内閣ニ於テ「イニシアチーフ」ヲ取リタルコトニテ内閣カ先般來頻リニ苦心シ居ル所ナリト云ヘリト云フ本多ハ予メ

二月二十七日在英國珍田大使宛本野外務大臣宛電報第一九五号
二月二十七日「タイムズ」社説

第一九五号
至急

二月二十七日「タイムズ」ハ「伯林、東京」ト題セル
Münchner Neueste Nachrichten 論説要旨ヲ記載シ之ニ
對シ左ノ通り論評ヲ加ヘ居レリ

「ババリア」一新聞ニ現ハレタル右論説ハ独乙ニ於テハ何等カノ形式ニ於テ伯林、東京トモ云フ可キ計画ノ現実ヲ目論ミ居ルコトヲ暴露セルガ右企画ノ目的ハ日本ヲ Hohenzollern chariot Wheels ニ結び付ケ日本ト米國及西歐同盟國トノ間ニ紛議ヲ惹起セシメ聽テハ會テ下之關係約ニ干渉シ將又露國ヲ煽動シテ日本ト戦争ヲ開始セシメタル當時ヨリノ初一念通りニ徐ニ日本ヲ危クセントスルモノナリ過日來本紙ニ連載セル元駐独米國大使ノ信書中独乙皇帝ハ千九百十四年新年ノ「レセプション」ノ際同大使ニ対シ或処ニ日本ノ密偵及將校入込ミ居レリト警告シタリトノ一節アリ独乙ハ蓋シ露國ノ放火器 Bolshewisto トノ单独講和締結並ニ独軍ノ歐露ノ侵略等ヲ以テ何レモ其予テノ陰謀ノ具体的

本使ノ申合メニ依リ極秘ノ内話トシテ日本カ行動ヲ取ルノ場合ニハ国民一致ノ後援ヲ以テセサルヘカラス之カ為メニハ是非トモ日本一個ノ单独行動タラサルヘカラス所以ノ次第ヲ説キタルニ同氏ハ逐一尤モナリトテ之ヲ首肯シ尚本問題ノ消息ニ就テハ此上トモ精々注視ノ上内報ヲ怠ラサルヘシトテ大分熱中ノ体ニ見エシカ今二十七日ノ「タイムズ」ハ別電第一九五号ノ如キ社説ヲ掲ケアリ右様ノ次第ニテ本問題ニ就テハ当國輿論ハ今ヤ日ニ増シ焦リ来リ居ルノ姿ニ之アリ統一派ノ一議員モ天羽官補ニ対シ議院ニテモ同派ノ方ハ是非日本ノ行動ニ依頼セサルヘカラストノ意見ニ大體纏マリ居ルモ労働派党「パシフィスト」ノ反対ヲ挑発スルハ妙ナラサルニ付差向キ議會ノ言論ニ上スヲ避ケ居ル次第ナリト内話セル趣ナルカ「デーリー・クロニクル」外交主筆ハ既ニ前週始メ本多ト会谈ノ際日本ニシテ独逸勢力ノ東漸防庄ノ為メ行動ヲ執ル場合ハ英國國民ハ之ヲ歡迎否寧ロ感謝スヘシト述ヘタリト云フ爾來一般ノ気合益々其方ニ熟シ来リ居レル有様ナルコト前來ノ叙述ニテ御覽ノ通りナリ米、仏、伊ヘ転電セリ

(別電)

復活ノ好機會トシ居ルナランガ由來独乙ノ外交ハ他人ノ主張ヲ閑却スルノ危険アリ即チ本計画ニ関シテモ日本ノ(腕)及ビ其ノ聰明ナル「セルフ、インテレスト」ヲ度外視セリ独乙ハ恐ラク氣付カザル可キモ露國ノ单独講和締結ニ基ク新事態ハ日本政府ニ取リテハ何等意外トスル処ニアラズ露國帝時代同國ノ親独派ガ或ハ独乙ト单独講和ヲ締結スル事アルヤモ計リ難シトノ懸念ハ既ニ一ヶ年前日本当局ヲシテ斯ル事態發生ノ場合採ルヲ要スル行動ニ関シ熟慮スル処アラシメタリ現下ノ形勢ハ一年前ノ時ノ情勢ト同様必ズ日本政治家ノ考慮ニ上リ得ベク開戦以來終始一貫誠実且有力ナル同盟國タル事ヲ表彰セル日本ハ現下ノ事態ニ対シ此際何等逡巡狐疑スルコト無カル可キハ吾人ノ疑ハザル処ナリ聯合与國ガ日本ガ自國並ニ日本ノ与國ノ利益擁護ノ為採ルヲ必要トスルコトアル可キ何等ノ行動ニ対シテモ賛成ヲ与フルニ至ル可キ事ハ遠カラザル事ナル可シ

註 二月二十七日「タイムズ」掲載ノ Münchner Neueste Nachrichten 論説要旨ハ同日珍田大使宛第一九六号電報ヲ以テ報告アルガ省略ス

二三四 三月二日 在仏国松井大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

連合國ノ對過激派政府援助問題、西比利亞ニ
関シ日本ニ行動委任問題等ニ付仏国外相ノ談
話報告ノ件

第一一七号 (三月四日接受)

外務大臣ハ閣議、軍事會議、議會及往電第一一六号ノ大会
ノ為都合附カス今三月二日夕刻会见シタル処在露仏国大使、
同館員並連合國大使ハ露都ヲ引揚ケ昨一日夜「ヘルシング
ホルス」ニ着ノ筈ナル旨同地領事ヨリ電報アリテ今ニモ安
着ノ電報ヲ期待シ居ル旨ヲ語リタルニ付実ハ内田大使露都
ヲ出発セリトノ電報ニ接シ居ラス危急ノ場合ニハ外交団特
別列車ヲ發スル様子ナル旨ヲ語リタルニ或ハ仏国大使ノ一
行中ニアルヤモ知レス判リ次第本使ニ知ラスヘシト答ヘラ
レタリ尋テ本使ハ政府ヨリ訓令アリテ特ニ面会ヲ求メタル
次第ナルカ仏国大使引揚ケノ上ハ最早事新シク述ブル必要
ハナキモ用向ハ斯ク々々ノ次第ナリトテ貴電第一四号ノ趣
ヲ簡單ニ述ヘタルニ右ハ最後ノ手段トシテナシタルコトナ
レトモ到底「トロツキ」輩トハ何事ヲモ談シ得サルハ明

在英米伊大使へ転電セリ

二三五 三月二日 在米国田中臨時代理大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

露国ノ新事態ニ對スル米国政府ノ態度方針ニ
付國務省參事官ニ問合ノ件

第一〇〇号

往電第九二号ニ関シ右会见後新聞紙上種々ノ報道現ハレ居
ル処國務長官ハ一日出發旅行ノ途ニ上リ一週間位ハ不在ナ
ルニ付二日國務省參事官ニ面会シ右國務長官ト会谈ノ要領
ヲ話シ其ノ後米国政府ノ態度ニ何等変更アリタルヤヲ聞キ
タルニ右ハ依然同様ナルモ本件ハ遲滞ヲ許ササルニ付数日
中ニハ決定ニ達シ之ヲ日本政府ニ通告シ得ヘシト予期ス國
務長官ノ不在カ右決定ヲ遲延セシムルカ如キコトナカルヘ
シトノ意ヲ答ヘタリ

在英仏伊大使へ転電セリ

二三六 三月三日 在モスコ熊崎總領事代理ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

露都引揚ノ内田大使ノ「ヴォログダ」ヨリ外

瞭ニテ露都引揚ハ当然ノコトナリト答ヘ更ニ話ヲ進メ極端
派政府ハ其ノ内総テ独逸ノ条件ニ服従スヘキハ疑ナク而シ
テ独逸ハ其ノ内露都ニ入込ミ秩序恢復ヲ計ルヘクサスレハ
極端派ノ運命モ夫レ限トナリ独逸ハ遠カラス帝政克服ヲ宣
言スルナラン西比利亞ニ関シ日本ニ委任スル件ニ付在米仏
國大使ヨリノ電報ニ抛レハ米国政府ノ反対モ段々薄ラキツ
ツアリ同政府ハ日本カ西比利亞滿洲ニ乗出ス上ハ支那ノ運
命如何アルヘキヤヲ氣遣ヒ居ル様子ナルモ是ハ何トカ安心
ヲ与ヘ得ヘク又英國政府ニテモ其ノ亜細亞領土ノ安全ヲ計
ル点ヨリシテ日本ニ依頼スルコトニ余程熱心ノ模様ニテ同
盟國タル英國政府ヨリモ尚一層勸説スルニ於テハ結局米國
政府ニテモ讓歩スルコト疑ナシ目下危急ノ際遷延ハ甚タ遺
憾ナレトモ國際間ノ關係實ニ已ムヲ得ス尚羅馬尼ト四國側
トノ講和談判ニ関シ「アベレスコ」將軍ト四國側委員トノ
会见ハ不得要領ニテ終リ「チェルニン」伯最近羅馬尼國王
ニ謁シ其ノ要求ヲ提出シタルカ特ニ領土ニ関スル分余リニ
不当ニ付其ノ儘ニテ談判中止トナリタリトノ報道ニ接シ居
ルカ大勢上永ク抵抗ヲ許ササルニ付羅國モ何時屈服スヘキ
ヤモ計リ難シト云ハレタリ

務大臣宛電報転電ノ件

第八二号 (三月四日接受)

三月二日在「ヴォログダ」内田大使發電報左ノ通
号外第五号

二月二十八日朝「ヴォログダ」着一応「ペトログラード」
狀況就中英使臣ノ進退如何ヲ確ムル為メ今二日迄当地ニ
止マリタル処英使臣ハ二十八日愈々露都出發芬蘭方面ニ
向ヒ又露獨間ノ平和談判成立セス露都防禦ヲ決シタルコト
確メラレタルニ付本使ハ支那公使一行ト共ニ汽車準備出来
次第今日ニテモ出發ノ筈米大使ハ当初本使ト行動ヲ共ニス
ル考ナリシモ当地案内ニ平穩ニシテ勞兵会側モ便宜ヲ与ヘ
ントスル模様ナルガ当地引揚ノ場合「ムルマン」又ハ「ア
ルハンゲル」ノ方浦塩ヨリモ却テ本國ニ近キ次第ニ付当分
当地ニ滞在シ成行ヲ傍觀シタシトノコトナリ米大使ノ希望
モアリ且全然分離スルモ面白カラサルニ付丸毛、花岡陸海
兩武官外士官三名都合七名ヲ当地ニ残シ上田宮川ハ御訓令
通り莫斯科ニ赴任セシムル筈
以上大臣へ転電アリタシ

二三七 三月五日 本野外務大臣ヨリ
在英國珍田大使宛(電報)

露独講和条約調印ニ依リ聯合國側ハ露国ノ地

位ヲ如何ニ判断スベキヤ任国政府ニ問合方訓

令ノ件

第一二四号

露国政府ハ「ブレスト」露国委員ノ電報ニ基キ同委員カ講和条約ニ調印シ愈三月三日ヨリ其効力ヲ生スル旨ヲ発表セル趣ノ処果シテ事実ナリトセハ各聯合國ニ於テハ今後露国ヲ以テ中立国ト認ムヘキヤ又ハ敵国ト認ムヘキヤ將又右講和ハ聯合國ノ承認セサル過激派政府ノ無効行為ニシテ露国ト聯合國トノ關係ニ何等ノ變更ヲ生セサルモノト認ムヘキヤ右ハ単ニ理論上ノ問題ニ非スシテ聯合國側將來ノ對露方針ニ重大ナル關係ヲ有スルモノト思考セラルルニ依リ貴官ハ可成速ニ任国政府当局者ニ就キ右ノ問題ニ関スル見解ヲ確メ回電アリタシ

右本大臣訓電トシテ在米仏伊各大使へ転電アリタシ

二三八 三月六日 在英國珍田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

二三九 三月九日 在ヴォログダ丸毛参事官ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

露独講和条約成否ノ場合ニ処スル為丸毛参事

官ノ去就ニ付予メ請訓ノ件

丸第一一号

(三月十一日接受)

内田大使当地出発ノ際ハ英仏大使其他協商側使臣ハ尚露都ニ在リ米國大使ハ当分「ヴォログダ」ニ逗留スルコト、ナリ居ルヲ以テ本官ヲ当地ニ殘シ従來聯合國間ニ抱持セラレタル協調ノ形ヲ繼續シ且米國大使其他ト本官トノ接觸ヲ保ツヲ以テ機宜ノ処置ト認メラレタル次第ナルカ近日莫斯科ニ於ケル講和条約批准會議ノ結果ヲ慮リ急ニ処スル為メ予メ左ノ場合ニ関シ請訓ス

(一) 講和条約批准セラレズ独軍再ヒ軍事の行動ヲ起シ「ヴォログダ」地方モ危険ヲ感スルニ至ラハ比較的安全ノ場処ニ移リ尚露国内ニ滞在スヘキヤ米國大使ハ其際ニハ「ラムスク」ニ移ルノ意アリ英仏大使ハ当分(不明)ニ止ルヘク伊太利側ハ過激派政府ニ抑留セラレ今ニ露都ニ在リト云フ
(二) 講和条約批准セラレ戦争熄ム時ハ引続キ当地ニテ形勢ノ推移ヲ注意スヘキヤ米大使ハ多分当地ニ止ルヘク若シ同

露独講和条約調印ニ依リ聯合國ハ露国ノ地位

ヲ如何ニ判断スルヤニ関シ「バルフォア」外

相ノ意見回電ノ件

第二三六号

(三月八日接受)

貴電第一二四号ニ関シ「ブレスト」条約ニ関シ当方面ヘノ報道ハ往電第二一七号以下追々電報ノ通ナルカ貴電末段御来示ノ問題ニ関シテハ三月六日「バルフォア」氏ト会見程能ク質問ニ及ヒタルニ同大臣ハ露国現下ノ事態ハ何分未曾有ノ一変体ニシテ貴問ノ如キ的確ノ觀念ヲ以テ之ヲ律シ難ク英國政府モ何等態度ヲ定メ居ラス或人ハ今日ノ露国ハ単ニ地理上ノ一名目ニ過キスト説キ居ルカ如何ニモ真相ヲ穿テ居ルヤニ存ス要スルニ此ノ際ハ露国其ノモノヨリハ寧ロ露国民ヲ目標トシテ考量セサルヘカラス從テ中立国トカ敵国トカ云フカ如キ「アカデミック」ノ定規ヲ當テハメ得ヘキ場合ニアラス若シ強イテ英國政府ノ意見ヲ云ヘハ露国民ハ之ヲ友人トシテ取扱フノ方針ノミト答ヘラレタリ

在欧米各大使へ転電セリ

大使ニシテ露都ニ還ル場合ニハ之ト行動ヲ共ニスヘキヤ
(二) 若シ過激派政府ニシテ莫斯科其他ニ移リ協商側使臣其他ノ外交官同処ニ移ル場合ニハ如何進退スヘキヤ
過激派本来ノ主義主張ハ頗ル危険ナルモノアルモ英法等ハ独逸ニ對シ戦争ノ必要上之ヲ寛恕シ如何ニシテモ戰鬪繼續ニ利用セントスルモノ、如シ帝國政府ハ之ト同様ノ態度ニ出テラルヘキヤ

二四〇 三月二十日 日本外務省ヨリ
在本邦仏國大使館宛

「ペトログラード」ニ日本ノ臨時代理大使ノ

駐在ヲ必要ト認メザル旨回答ノ件

帝国外務省ハ仏國政府カ大使館参事官ヲ臨時代理大使ノ資格ニテ再ヒ露都ニ駐在セシムルノ件ニ関スル三月九日附仏國大使館ノ覚書ヲ受領閱悉セリ
帝國政府ノ最近接手セル情報ニ拠レハ過激派政府既ニ「ペトログラード」ヨリ莫斯科ニ移転スルコト、ナリタル由ニテ少クトモ目下ノ処「ペトログラード」ハ露国ノ政治的中心タルノ地位ヲ有セサルモノ、如ク又帝國政府ノ関スル限リ莫斯科駐在帝國領事ニ於テ現ニ帝國ノ利益保護ニ任シツ

ツアルヲ以テ此際別ニ大使館参事官ヲ露都ニ駐在セシムルノ必要ナカルヘシト思考ス

大正七年三月二十日

帝国外務省

註 在本邦他国大使館覚書省略

二四一 四月三日

在モスコイ熊崎総領事代理ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

労働政府ノ米國及国内「ブルジョア」勢力ト

ノ接近問題ニ関スル労働政權内部ノ意見ニ関

シ報告ノ件

第一六三号

(四月四日接受)

往電第一六二号ノ外二日「ヨヅネセンスキー」ガ上田ニ語レル要領左ノ通り

(一) 労働政府ハ日本ノ西伯利亚出兵ガ実現セザルハ米國不同意ノ為ナリトテ米國ヲ徳トセリ米國ハ将来露國ニ放資スルノ目的ヲ有スルヲ以テ露國民トノ接近ヲ旨トシ殊ニ近來労働政府ヲ経テ其目的ヲ達セムトセリ昨今露米同盟ノ説アルモ事實ニ非ズ労働兵会本部ニテハ露國ハ米國ト同盟シテ独逸及日本ノ両君主國ト對抗スベシトノ意見アルモ露國ガ米

スル方危険尠シトノ意見ヲ有セリ

在露大使へ電報セリ

二四二 四月三日

在英國珍田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

過激派政府ヲシテ日本ニ西比利亜出兵ヲ依頼

セシムル様同政府ニ勧告シツツアル旨英外相

内話ノ件

第二九三号

(四月五日接受)

極秘

前電談話後本使ハ曩ニ外務大臣ノ希望モアリタルニ付予メ持参セル貴電第一六五号及第一七一号情報要訳ヲ手交シ露國時局ニ談及シタルニ同大臣ハ極秘ノ内話トシテ或ハ其ノ内「ボルシェビック」政府ヨリ日本ノ西比利亜出兵ヲ依頼シ来ルヤモ計リ難シ実ハ「ロツクハルト」(往電第六五号所報英國政府ノ非公式「エージェンツ」ニシテ大使館引揚後モ引続キ残留ス)ヨリ日本ノ西比利亜干涉ハ痛ク露國ノ國民的反感ヲ挑発スヘク大局上不得策ナリトテ頻リニ反対意見ヲ申立来レルニ付先頃同人ニ対シ露國ハ今ヤ自力ヲ以テ独逸ノ勢力浸漸ヲ防遏シ得ス到底外部ノ助力ヲ以テスルノ

國ノ如キ「ブルジョア」民主國ト同盟スルハ不可ナリトノ意見モ尠カラズ

(二) 輓近労働政府内部ニハ「ルナチャルスキー」ノ如ク政府ハ国内ノ「ブルジョア」トノ接近ヲ要スト唱フルモノアルニ至レルガ之主トシテ財政上ヨリ言ヒタルモノニシテ労働政府ハ其主義ヲ枉ゲザル範圍ニ於テ彼等ノ援助ヲ必要トス労働政府ガ「ブルジョア」即銀行家商業家ヲ压迫シタルハ固ヨリ其主義ニ出デタルモノナルモ又「ブルジョア」ガ反革命派ヲ援助シテ労働政府ニ反抗シ従業員ノ同盟罷業ヲ行ハシメタルガ為ニ他ナラズ然ルニ近來一方政府ハ財政上「ブルジョア」ノ支持ヲ要シ又他方「ブルジョア」ハ政府ニ反抗スルノ無益且困難ナルヲ認メタルヲ以テ結局政府ノ方針多少変更スルニ至ルベシ「レーニン」モ或範圍ニ於テ実業家ノ援助ヲ求ムルコトニ反対ニアラズ

(三) 右ノ外「トロツキー」ハ規律アル軍隊ノ必要ヲ認メ之ガ為守旧派タル將軍連ヲ聘シテ其編成ヲナサシメツツアリ連合側ニテハ同軍隊ガ独逸ト戦フ為ナラムコトヲ希望シ居ルモ右ハ其實主トシテ国内ノ鎮圧ニ用ヒラルベキモノトス「トロツキー」ハ「ブルジョア」接近ヨリモ守旧派ト接近

外ナキコト明瞭ナル次第ヲ説示シタル上此際宜ク同人ニ於テ「トロツキー」ヲ説得シ「ボルシェビック」政府ヲシテ自ら進ンテ日本ニ対シ西比利亜出兵ヲ依頼セシムルコトニ取計フヘシト内訓シ置キタルニ最近同人ヨリ回電アリ「ボルシェビック」側ニ於テハ本件考量ノ為向フ十日間ノ猶予ヲ得タシトノ趣申越セリ右電報ニハ「トロツキー」ノ名ヲ掲ケ居ラサルモ無論同人ノ意見ヲ反映シ居ルモノナルヘク結局如何ナル始末トナルヘキヤハ別問題ナリ兎ニ角右ノ成行ニ関シ内密ノ含迄話シ置クト語ラレタリ尚同人(「ロツクハルト」)ハ大分「ボルシェビック」ニ感^{カク}レ居リ往々「ボルシェビック」本位ノ立場ヨリ意見ヲ立ツルコトハ政府モ承知シ居レルモ其ノ含ニテ適宜指揮スルニ於テハ自ら利用ノ効モアルニ付右方針ノ下ニ使用シ居ル次第ナリト内話セラレタリ

註 外務大臣兪珍田大使宛第一六五号ハ「ブラゴエシチェンスク」ノ状況ヲ又第一七一号ハ浦塩及「トムスク」ノ状況ヲ通報セル電報ナリ

二四三 四月四日

在本邦英國大使館ヨリ
日本外務省宛

露國過激派政府ノ聯合國軍ノ援助ヲ欲スルノ事
 並ニ在莫斯科英國總領事ヨリ日本國外務省宛電報
 件通譯ノ件

Aide-Mémoire.

L'agent britannique près le gouvernement maximaliste télégraphie de Moscou à la date du 28 mars.

"Trotsky a fait de nouveau allusion hier à l'envoi possible en Russie, par voie de Sibérie, d'une expédition militaire alliée. Il affirma encore une fois que la Russie, plongée dans une lutte acharnée, accueillerait l'aide des Alliés et verrait même avec satisfaction des troupes socialistes combattre à côté de soldats "impérialistes". Il n'oppose pas d'objections à la participation de troupes japonaises pourvu qu'elles soient accompagnées de contingents européens et que les Puissances alliées offrent certaines garanties.

"Notre conversation, au cours de laquelle Trotsky a confirmé tout ce que le ministre des affaires étrangères a dit, a été très satisfaisante et je ne doute point de la possibilité de trouver une solution de cette question à condition de la traiter avec prudence.

"Trotsky m'a affirmé qu'il jouit du plein appui

de Lenin pour ce qui regarde la peine de mort, la suppression des comités et le rétablissement de la discipline à l'armée, et qu'il est certain de pouvoir réaliser ses désirs sous ce rapport, sans quoi il donnera sa démission.

"Il est possible que Litvinov soit remplacé par un autre et en attendant il a reçu pour instructions d'agir avec tact et d'arrêter toute propagande pacifique.

"Il s'agit de bien se rendre compte du fait que l'attitude des maximalistes envers les alliés s'est complètement changée, comme c'est d'ailleurs naturel étant donné la nécessité de combattre. Il faut prêter tout l'appui possible à Trotsky dans la tâche tellement ardue de créer même une petite force militaire, car une fois la guerre recommencée et des troupes russes, de quelque caractère qu'elles soient, de nouveau opposées aux Allemands, la situation militaire parviendra sous peu à dominer la situation politique.

"La contre-révolution constitue le grand danger et serait la ruine des intérêts alliés, et c'est pourquoi l'intervention japonaise et l'appui prêté à des mouve-

對セサルヘシト謂ヘリ

本官ト「トロツキー」トノ会谈ハ甚タ満足ニ行ハレタルカ
 其ノ間同氏ハ外務大臣^(註1)所言ヲ悉ク確認シタリ本官ハ充分警戒シテ慎重ニ取扱ハハ本問題ノ解決ヲ見得ヘシト確信ス

「トロツキー」ハ死刑、軍隊委員ノ廃止、及軍規ノ恢復ニ
 関シテ「レニン」ノ完全ナル支持ヲ受ケ居ルヲ以テ其ノ希望ヲ実現シ得ルコト確實ナリ若シ失敗セハ辞职スヘシト云
 ヘリ「リトウキノフ」ハ多分更迭スヘシ同氏ハ当分一切ノ

平和鼓吹運動ヲ中止シ適宜行動スヘキ旨ノ訓令ヲ受ケタリ
 聯合國ニ対スル過激派ノ態度全然一変セルノ事実ハ之ヲ重要視セサルヘカラス是レ戦鬪ノ必要ヨリ生シタル自然ノ変化ナリ此ノ際小軍隊ナリト雖之ヲ創設セムトスル「トロツ
 キー」ノ熱心ナル努力ニ対シ出来得ル限り援助ヲ与フルノ
 要アリ蓋シ一度戦鬪再開セラレ軍隊ノ性質如何ヲ問ハス苟
 モ露國軍隊ニシテ独逸ニ對抗スルニ至ランカ軍事ハ主トナ
 リ其ノ形勢如何ハ殆ント全政局ヲ左右スルニ至ルヘキヲ以
 テナリ

反動革命ハ一大危険ヲ醸成スヘク聯合國ノ利益ハ之カ為ニ
 壊滅セラルヘシ是レ日本ノ干渉及極東ニ於ケル各種孤立運

ments isolés en Extrême-Orient entraînent un risque.

Le groupe pro-allié des contre-révolutionnaires-tout aussi opposé, du reste, que les maximalistes eux-mêmes à l'intervention japonaise-se rend également compte de ce dernier péril.

"Il est possible que ce groupe soit prêt à appuyer jusqu'à un certain point les Maximalistes dans leur lutte contre les Allemands."

註 右覚書ハ四月四日在本邦英國大使ヨリ外務次官ニ手交セラレ
 タリ

(右和訳文) (註 仮訳文ナリ)

在露都英國駐在官ノ歐露事情ニ関スル千九百十八年三月二十八日
^(註1)
 附報告ヲ通報スル覚書

過激派政府ノ許ニアル英國駐在官ノ三月二十八日莫斯科発
 電報左ノ如シ

昨日「トロツキー」ハ西比利亜ヲ經テ聯合諸国遠征軍ノ露
 國派遣ノ可能ナルコトヲ再説シ且激烈ナル鬪争ニ陥レル露
 國ハ聯合國ノ援助ヲ歡迎スルノミナラス露國社会党ノ軍隊
 カ他國ノ帝國主義ノ兵士ト相駢テ協賛奮闘スルコトヲモ満
 足ヲ以テ迎ヘムトスル旨再ヒ確信シ日本軍ノ右遠征軍参加
 ト雖歐洲兵ト共ニ來リ且聯合國ノ保障アルニ於テハ之ニ反

動ニ対スル援助ノ一大危険タル所以ナリ聯合側ニ傾ケル反革命派ト雖過激派ト同様日本ノ干渉ニハ反対スルモノニシテ上述ノ危険ヲ憂慮セリ
右反革命派ハ対独戦闘ニ於テハ或ル程度迄過激派ヲ援助セントスルモノノ如シ

- 註 1 同駐在官ハ元英國領事ニシテ英國大使引揚後尚露都ニ止マリ過激派ト聯絡ヲ保チ居ルモノニシテ近来過激派ニ同情ヲ寄セ居ルモノナリトノ評アル人物ナリ
- 2 英國外務大臣ノ所言ノ何タルヤ知ルニ由ナキモ曩ニ同大臣ハ右駐在官ニ過激派ヲシテ日本ノ出兵ヲ請ハシムル様勸説方訓令セルコトアリ右訓令ノ趣旨ヲ指スナルヘシ
- 3 同人ハ過激派政府ノ代表者トシテ倫敦ニ駐在セルモノナリ過激派思想平和促進運動伝播ニ尽力シ英國ニテ評判宜シカラサル人物ナリ

二四四 四月六日 在瑞典内田公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

在露国英米仏三国非公式代表者ガ日本ノ西比利亜出動ハ露国ニ有利ナル旨ヲ過激派政府ニ説ク手筈ナル旨在露国仏国大使ヨリ丸毛臨時代理大使ニ談話ノ件

極秘

四月十一日「バルフォア」氏ト会谈ノ折本使ハ往電第二九三号同大臣談話ノ件ニ付其ノ後「トロツキ」ヨリ何等回答アリシヤト尋ネタルニ同大臣ハ未タ確答ハ之ナキモ「ボログダ」ヨリノ報道ニ依ルニ多少有望ナルモノノ如シト答ヘ其ノ口吻ニ依ルニ何等カ記憶混同シ居ラルルヤニ感セラレタルニ付本使ノ聞カント欲スルハ「ボルシェビック」政府ヨリ日本ニ対シ西比利亜出兵依頼方貴方ヨリノ勧告ニ関シ「トロツキ」ニ於テ考慮ノ結果如何尚「ロックハート」ヨリ報告アリタルヤ否ヤニアリトテ前回ノ会見ニ於ケル同大臣談話ノ次第ヲ覆述シタルニ同大臣曰ク「トロツキ」ニ対スル我等聯合側ノ勧告ハ「ボルシェビック」政府ヨリ独逸ノ西比利亜制御防遏方ニ関シ聯合國全体ニ向テ援助ノ依頼ヲナスヘシト云フニアリ然ルニ「トロツキ」ニ於テハ日本ヲシテ右援助ノ「リーディング・パート」ヲ取ラシムルコトニ反対ヲ唱ヘタルヲ以テ我々ヨリハ露国ノ戦争落伍ノ結果英米仏伊ハ西方戦場ニ其ノ全力ヲ傾注スルノ外ナキニ至リ居ル此ノ際本件援助ハ主トシテ日本ニ待ツノ外ナキ所以ヲ指摘シ其ノ反省ヲ促シ居ル次第ナルカ其ノ結

第一〇五号 (四月七日接受)
五日莞丸毛代理大使ヨリ
第五六号

四月五日仏国大使ハ本官ニ対シ同大使ハ本野外相ノ議會ニ於テ説明セラレタルカ如キ趣意ノ日本出動ヲ絶対ニ必要ナルモノトシ米國大使トモ意見ヲ交換シタル結果英米仏三国ハ各自ノ非公式代表者ヲ以テ過激派政府ニ日本ノ出動ハ露国ノ為ニモ頗ル有利ナルコトヲ説カシメ其回答ハ仏国政府ニ報告スルト共ニ本官ニモ通告スヘキ旨ヲ語ラレタリ尚余談トシテ同大使ハ独逸政府カ過激派政府ノ芬蘭ニ於テ赤軍隊援助ニ対シ過激派政府ニ最後通牒ヲ送レルコトヲ述ヘラレタリ
莫斯科ニ転電セリ

二四五 四月十一日 在英國珍田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

過激派政府ヲシテ日本ニ西比利亜出兵ヲ依頼セシムル問題ニ付其後同政府トノ交渉經過ヲ英外相ニ問合ノ件 (四月十四日接受)
第三〇六号

果ニ付テハ前述「ボログダ」ヨリノ報道ニ依ルモ多少有望ナル様感セラルトノコトニ付本使ハ前回ノ御話ニテハ日本ニ対シテノミノ西比利亜出兵依頼ト云フコトナラサリシヤト述ヘタルニ同大臣ハ事実上ハ結局日本ヨリ依頼ト云フコトニ帰着スヘシト信スト答ヘラレ要スルニ此ノ際ハ先ツ前述ノ筆法ヲ以テ「ボルシェビック」側ヲ説得シ居ル訳ト了解セラレタルニ付本使ハ同大臣ノ説明ヲ諒承スルト同時ニ当初ヨリ屢々申出置キタル如ク帝國政府ハ飽迄日本ノ単独行動ヲ欲スルモノニテ協同的動作ニハ反対ナルコトハ閣下モ御承知ノコトナルヘシト述ヘタルニ同大臣ハ勿論ナリ右日本ノ意向ハ自分ヨリモ從來數次米仏ニ申入アリ其ノ点ニ付誤解アル筈ナシト弁明セラレタリ
往電第二九三号ト共ニ各大使ニ転電ス

二四六 四月十一日 在モスコ熊崎總領事代理ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

日本兵及聯合國軍ノ浦港上陸ニ関スル勞農政府機關紙所報報告ノ件

第一九五号 (四月十四日接受)
勞農政府機關紙所報

四月十一日在莫斯科米國代表者ハ勞農政府ニ對シ在「ヴェログダ」米國大使カ本國政府ヨリ接受セル電報ニ依レハ日本兵ノ浦港上陸ハ加藤少將自己一己ノ責任ニ出タルコト及加藤少將ハ事件後漸ク之ヲ英米提督及領事ニ通知シ且右ハ日本臣民ノ生命財産ヲ保護スル為メナリトノ声明ヲナセリトノ旨ヲ通告セリ又在莫斯科英國代表者「ロックハート」ハ勞農政府外務部宛書面ヲ以テ英國政府ノ命ニ依リ聯合國軍隊ノ浦港上陸ハ単ニ外國臣民ノ生命財産ヲ保護スル為メニ行ハレタルモノナルコトヲ露國政府ニ証言スト通告セリ在露代理大使へ郵報セリ

二四七 四月十二日 在モスコイ熊崎總領事代理ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

聯合國軍ノ浦港上陸ヲ勞農政府ニ承諾セシム
ル必要等ニ関スル在露英國非公式代表者「ロ
ックハート」ノ談話報告ノ件

第二〇二号 (四月十六日接受)

往電第一九五号ニ関シ十一月日本官英國非公式代表者「ロックハート」ニ面会シ其実否ヲ確メタル処同氏ハ其事実アルコト竝新聞ニ現ハレタル文言カ同氏ノ交付セル文書ト同意
慄悍血氣ノ一人物ニ過キス敢テ主義信念アルニアラス反過激派運動ニハ「コロニロフ」サヘ失敗シタルニ「セメノフ」ハ到底見込ナカルヘク其僅カニ殘命ヲ保ツヲ得タルハ支那内地ニ逃レタル故ニ外ナラサルヘシ)

二、聯合側ノ干渉ヲ勞農政府ニ承諾セシメ得ベキヤ否ヤニ付テハ未ダ充分ノ見込ミ立タズ同政府当局ハ今日トナリテハ独逸ヨリ多クヲ期シ難キヲ自覚シ從テ敢テ親獨のニハ非ルモ頗利己的ナルヲ以テ前記ノ提議ヲ承認ス可キヤ否ヤハ是レ自家ノ立場ニ有利ナルヤ否ヤニ関スル彼等ノ判斷ニ懸ル可シ又一面聯合側ニ於テモ自分ノ知ル限り本件ニ関シ充分意見ノ一致ヲ見ザルガ如ク從テ聯合側打揃テ何等カ具體的ノ案ヲ勞農政府ニ提出シ得ザル困難アリ現ニ英仏米三國ノ代表者同時ニ勞農政府當局ト応接シタルコトナク今回ノ浦潮事件ニ付テモ一面勞農政府ヨリ各別ニ呼バレタル故モアレド共同ニ応接セザリキ

三、浦潮事件ニ付テハ勞農政府當局ハ頻ニ声ヲ大ニシ盛ニ激昂ノ状ヲ示シ居ルモコレ主トシテ自家ノ政争上ニ利用セントスルモノニ過ギズ此儘格別ノ事ナカル可シト思考ス
四、非公式代表者ノ地位ニ付テハ仏國ノ「サドウル」(前

義ナルヲ述ヘタリ尚右会见ノ際ニ於ケル同氏内話左ノ通り
一、目下自分ハ勞農政府ヲシテ聯合側ノ干渉ヲ承諾セシメントニ尽力中ナリ反過激派運動悉ク失敗セル今日勞農政府カ現在全露西亞ノ主人タルハ争フヘカラス從テ愈々聯合國ニシテ露國領土ニ出兵スルニ當リ勞農政府ヨリ反抗ヲ受クルニ於テハ不都合少カラサルヘシ之ヲ極東ヨリ出兵ノ場合ニ就テ云ヘハ若シ日本軍出動ノ場合ニ於テ過激派側カ多大ノ抵抗ヲ為シ得ストスルモ西比利亞鐵道ノ橋梁ニテモ破壊スルニ於テハ軍隊輸送上多大ノ困難ヲ感スヘシサレハ勞農政府カ永統スヘキモノトハ思ハレサルモ兎ニ角彼等ヲ納得セシメ妨害ヲ与ヘサル様工夫シ居ル次第ナリ此点ヨリ云ヘハ彼ノ北滿ニ於テ「セメノフ」隊ニ聯合側ニテ援助ヲ与ヘツツアリト云フ事実ハ其真相ヲ知ラサルモ当地ニ於ケル自分ノ目的遂行上ニハ不利益ナリ蓋シ過激派反對ト云フカ如キ露國內部ノ既成ノ政治的争鬭ニ加担スルトキハ夫レ丈ケ同様ノ反感抵抗等ヲ自身ニ引受ケサルヘカラス寧ロ「フリーハンド」ヲ以テ從來ノ因縁ニ關係ナク自己ノ目的丈ケヲ達スルヲ得策トスヘケレハナリ(因ニ「ロクハート」ハ「セメノフ」ニ付左ノ如ク附言セリ聞ク所ニ依レハ同人ハ

電「セドウル」ハ誤リ)ハ軍人ニシテ米國ノ「ロピンス」ハ赤十字社代表者ナルモ自分ハ何等公式ノ資格ナシ尤モ勞農政府ヨリハ差当リ外交官以上トモ云フ可キ便宜ヲ許容セラレ居リ本國トノ通信等ハ勿論万事頗好都合ナリ但シ勞農政府ハ絶エズ代表者ヲ操縦セントシ前述ノ通り同時ニ応接シタルコト無キノミナラズ一國代表者引見ノ際ハ他國ヲ嘲笑スルヲ常トシ自分ニ對シテハ屢米國ノ悪口ヲ述ベタリ云々

二四八 四月十九日 幣原外務次官
在本邦英國大使 會議

英國政府ノ勞農政府援助ノ意向ニ関スル件

附屬書 四月十七日附英國外務省発在露英國非公式代表者宛電報写

勞農政府援助方ニ関スル大正七年四月十九日
外務次官ト在本邦英國大使トノ会谈要領

四月十九日在本邦英國大使ハ外務次官ヲ訪問シ別紙英國外務省ヨリ「ロックハート」ニ宛テタル四月十七日附電報ヲ手交シタリ

外務次官ハ右電報ノ冒頭ニアル「英國海軍省ハ黒海艦隊ノ

改造ニ援助ヲ与フルコトヲ快諾スヘシ」トアルノ文句ヲ指
摘シ英國政府ハ果シテ如何ナル方法ニヨリ如何ナル程度ニ
於テ黑海艦隊ノ改造ヲ援助セラレントスル意圖ナリヤヲ尋
ネタルニ

英國大使ハ右ニ関シテハ本国政府ヨリ何等報道ニ接セサレ
ハ返答シ難キモ分明次第御通知スヘシト答ヘタリ

外務次官ハ更ニ進ンテ英國政府ハ露国ヲシテ聯合國側ト同
一步調ニ出テシメ対独戦争ヲ再開セシムルコトニ関シ労働
政府ニ対シ多大ノ望ヲ囑シ居ルカ如ク思料セラルルカ主義
上ノ問題トシテ若シ真実労働政府カ聯合國側ニ与シ対独戦
争ヲ再開スルノ意圖ヲ有スルニ於テハ労働政府ヲ援助スル
ハ確カニ一策ナルヘシト思考スルモ実際問題トシテハ労働
政府ニ果シテ其誠意アリヤ否ヤハ大ニ疑問ナリ斯ル際ニ於
テ進ンテ援助ヲ与フルトキハ却テ敵ヲ利スルノ危険ナキヤ
現ニ聯合國力供与シタル軍需品其他ノ物資カ独逸ノ手中ニ
落チタリトノ事実モ尠カラスサレハ英國政府ハ如何ナル根
拠ニ依リテ労働政府乃至「トロッキー」ノ誠意ニ望ヲ囑セ
ラルルヤ此際承知シ置キ度シト述ヘタル処

英國大使ハ此点ニ関シテハ自分ハ特ニ報道ヲ有セス思フニ

district by every means in his power.

British Embassy,

Tokyo.

April 19th, 1918.

(右和訳文) (註 仮訳文ナリ)

英國外務省ヨリ「ロックハート」氏ニ宛テタル千九
百十八年四月十七日附電報

英國海軍省ニ於テハ黑海艦隊ノ改造ニ関シ援助ヲ与フルコ
トヲ快諾スヘキハ本大臣ノ信シテ疑ハサル処ナル旨ヲ「ト
ロツキー」氏ニ通報セラレ度シ又同省ハ在「ムルマンスク
」英國海軍提督ニ対シ聯合國ハ浦潮斯德又ハ其他露国ノ何
地ヲモ併合セントスルノ企圖ヲ有シタルコト未タ曾テ無之
コト竝ニ不凍港タル白海諸港カ露国領土ヨリ分離セラルル
コトアラハ英國ハ断乎トシテ之ニ反対スヘキコトヲ周知セ
シムヘキ旨訓令シタリ尚又同省ハ右提督ニ対シ「ムルマン
スク」港竝ニ其隣接地方ニ対スル外部ノ侵略ヲアラユル手
段ヲ以テ防衛スル為地方官憲ト友好的ニ協力スヘキ旨訓令
シタリ

千九百十八年四月十九日

英國政府ノ意見ハ此際一応労働政府ヲシテ聯合國側ト行動
ヲ共ニセシムル様最善ノ努力ヲナサムトスルニ在ルヘク到
底其望ナキコト判明スルニ於テハ断然方向ノ一変スルニ躊
躇セサルヘシト答ヘタリ

(附屬書)

四月十七日附英國外務省發在露英國非公式代表者宛電報寫

April 17th, 1918.

Telegram from the Foreign Office to

Mr. Lockhart.

Please inform Mr. Trotsky that I believe the
British Admiralty to be quite prepared to assist in
the re-organization of the Black Sea Fleet. They are
instructing the Admiral at Murmansk to make known
publicly that the Allies have never had any desire
to annex any part of Russia, either at Vladivostok
or elsewhere, and that any severance from Russian
territory of the White Sea ports which are ice-free
would meet with their strongest disapproval.

The Admiral has further received instructions to
cooperate in a friendly manner with the local author-
ities with a view to protect against external aggression
both the port of Murmansk and the neighbouring

東京 英國大使館

二四九 四月二十日

在モスコ熊崎總領事代理ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

在莫斯科米國非公式代表「ロビンズ」ノ親訪
農政府的言動ニ関スル「サマーズ」米國總領
事ノ内話報告ノ件

第二三六号

(四月二十二日接受)

近来労働政府側ガ頻ニ日本ト連合側殊ニ米國トノ離間ヲ伝
ヘ又米國ト労働政府トノ關係特ニ良好ナルカ如キ言説ヲナ
スハ予テ電報ノ通ニシテ本官ノ注意怠ラサル所ナルカ本官
ハ之ニ関シ米國政府ノ非公式代表者ナリト云フ「ロビンズ」
(当地ニ於テ正式ノ資格ハ米國赤十字社代表者)ニ近ヅキ
トナリ置クヲ有利ト認メ此ノ程米國總領事ニ紹介ヲ依頼シ
タルニ同官ハ敢テ之ヲ拒マサリシモ「ロビンズ」ハ頗ル過
激派眞眞ナルニ依リ面会ノ際ハ警戒ヲ要ストノコトナリシ
ニ付本官ハ其ノ詳細ヲ尋ネタルニ過般浦塩事件起リシ際自
分(總領事)ハ恰モ「ウォログダ」ニ出張中ナリシガ「ロビ
ンス」ハ米國ノ非公式代表者トシテ外務委員ニ面会シ米國
政府ハ日本ノ西比利亜ニ入ルニ反対ナリト断言(往電第一

七四号)セリ自分ノ在露米國大使ヨリ聞ク所ニ依レハ連合
 國ハ露國ニ対スル出動ニ付意見全ク一致シ居リトノコト
 ナリ(在露代理大使發閣下宛第五七号所載米國大使ノ言ト
 符合ス但シ貴電第二九号在本邦米國大使ノ申出トハ少シク
 異ナル)故ニ「ロビンス」前記ノ言ハ如何ナル根拠ニ依ル
 モノナルヤ自分トノ權限關係モアリ目下本國政府ニ請訓中
 ナル程ニテ「ロビンス」ガ愛國ノ士ナルコトハ之ヲ認ムル
 モ右意見ノ相違ヨリ自分トノ關係円滑ヲ欠クニ至レリトテ
 本官限内密ノ含トシテ打明ケタリ依テ本官ハ強イテ「ロビ
 ンス」ニ紹介ヲ望マス差控ヘタルモ右事實及予テ總領事ヨ
 リ聞キタル「ロビンス」ガ「レーニン」「トロツキー」ト
 私交アリトノ關係又過般勞兵會大会ニ米國大統領ガ宣言ヲ
 寄セタルハ米國赤十字社側ノ進言ニ依リタリトノ同總領事
 談話(往電第一一五号)ヨリ察スルニ「ロビンス」ト勞農
 政府トノ關係ハ頗ル密接ニシテ或ハ勞農政府ヲシテ米國ハ
 特ニ同政府ニ友好的ナリトノ感ヲ抱カシムル言動ヲナスト
 同時ニ本國政府トノ關係ニ於テ当地米國總領事乃至在露米
 國大使(因ミ二十九日勞農政府機關紙ハ同大使ハ勞農政府
 トノ關係惡キヲ以テ近々其ノ職ヲ去ルヘシトノ報道ヲ揭ケ

居レリ)ト十分ノ連絡ヲ欠クカ如キコトアルヤモ計ラレス
 ト存ス右ハ引続キ精査ノ上確報致スヘキモ不取敢御參考迄
 尚当地米國總領事「サンマース」ハ當館ニ対シ大ニ好意ヲ
 有シ情報ノ交換等多大ノ便宜ヲ供給シ呉ルル間柄ナル処十
 九日面會ノ際過日本官ガ日米ノ間ニ葛藤アルカ如キ風説伝
 ヘラレ人心ニ惡影響ヲ与フヤヤ虞ルト語リタル(往電第二
 二二号)ヲ引用シ其ノ趣旨ヲ敷衍シ斯ル形勢ヲ放置スルノ
 不利ナル所以ニ付本國政府ノ注意ヲ喚起スル電報ヲ發スル
 所ナリトテ之ヲ諒上ゲテ本官ノ意見ヲ聞キタルニ付本官ハ
 之ニ対シ贊意ヲ表シ置キタリ
 追テ本電前段總領事内話ハ同官一身ノ為特ニ内密ノ御取扱
 アリタシ為念
 在米仏伊大使へ転電シ在露大使へ郵報セリ

二五〇 四月二十一日 在モスコイ熊崎總領事代理ヨリ
 本野外務大臣宛(電報)

勞農政府ヲシテ聯合國ノ露國出兵ヲ依頼セシ
 ムルコトニ關スル交渉ノ經過ヲ在露英國非公
 式代表ニ問訊シ報告ノ件

第二四一号

(四月二十三日接受)

往電第二〇二号ニ關シテハ其後貴電第五一号御來訓ノ次第
 モアリタルニ付更ニ二十日「ロツクハート」ニ面會シ勞農
 政府ヲシテ聯合側ニ出兵ヲ依頼セシムルコトニ關スル交渉
 ノ經過ヲ尋ネタル処其後格別發展ナク引続キ尽力中ナル趣
 ヲ語レルカ其際同氏ハ交渉頗ル困難ナル旨繰返シタルヲ以
 テ本官ハ然ラハ殆ド見込ナキモノナルヤト聞キタルニ同氏
 ハ敢テ然ルニ非ラス或ハ一週間乃至十日後ニハ何等カ纏リ
 タル結果ヲ得ルヤモ知レスト答ヘタルモ別ニ確実ナル目算
 アルカ如キ口吻ニハ非サリキ又本官ハ勞農政府ト米國トノ
 關係ニ付同氏ノ意見ヲ尋ネタルニ同氏ハ「ロビンス」ノ交
 渉ヲ詳ニセサル旨ヲ述ヘタルモ勞農政府カ頻ニ米國ニ倚ラ
 ムトスルノ事實ナルヲ認メ居リ從テ前記出兵交渉ニ關シテ
 モ是非米國ヲシテ同一歩調ヲトラシムルノ必要アル旨屢々
 本國政府ニ電報セル由ニテ浦潮事件ニ關シ米國ノミ兵ヲ上
 陸セシメサリシハ日英ト歩調ヲ異ニセルモ前記出兵交渉ノ
 見地ヨリ言ヘハ米國カ夫等ノ事情ニテ勞農政府ノ信賴ヲ享
 有スルコト多キハ聯合側ニトリ有利ナラストセス若シ此際
 米國モ愈他ノ聯合諸國ト同一態度ニ出ツルコトトナラハ勞

農政府ニ対シ聯合側ノ要求ハ一層ノ重ミヲ加フルニ至ルヘ
 シト附言セリ其後雜話ノ際「ロツクハート」ハ勞農政府當
 局ト接觸ノ状況ヲ語レルカ「トロツキー」トハ殆毎日ノ如
 ク「レーニン」トハ一週一回位面會シ居ル趣ニテ「トロツ
 キー」ハ格別ノ操守ナク勘カラス人氣ヲ構フ風ナルニ依リ
 説得ノ余地多キモ「レーニン」ニ至リテハ所信ヲ守ルコト
 難ク又冷静ニシテ殆激昂ノ情ヲ示シタルコトナク話合仲々
 困難ナリ自分ノ見ルトコロニテハ同人ハ其主義ニ忠実ナル
 理想家トシカ見エス目下ノ難局ニ際シテモ更ニ屈スルノ色
 ナシ云々ト述ヘ尚浦潮事件ニ關シテハ先頃同氏英國政府ニ
 対スル抗議書ヲ受取レルモ其後勞農政府當局ハ之ヲ忘レタ
 ルカ如ク最早問題トシ居ラサル模様ナリト言ヘリ

註 四月十五日外務大臣熊崎總領事代理宛第五一号省略セルガ
 該電ハ前出珍田大使ノ第二九三号第三〇六号電報及前出四月
 四日在本邦英國大使ノ通報ニ基キ勞農政府ヲシテ日本ニ西比
 利亚出兵ヲ依頼セシムル様英國政府ガ努力シツツアル事報ヲ
 通報シ熊崎總領事代理ニ於テ何等カ聞込アラバ其都度電報ス
 ベキ旨訓令セルモノナリ

二五一 四月二十二日 在ヴォログダ丸毛臨時代理大使ヨリ
 本野外務大臣宛(電報)

勞農政府ノ協商列國ニ対スル態度、勞農政府

ノ日本ノ政策ニ対スル疑惑等ノ情報報告ノ件

托電第五号

(四月二十五日參謀本部接受)

其一、最近莫斯科及露都ニ出張セル塞爾比公使ノ言トシテ露都新聞ノ記スル所ニ依レハ同公使ハ最近協商列國使臣ノ勞農政府ニ対スル關係變化シテ露国新軍隊ト接近スルカ如キ諸風説ノ全然根拠ナキヲ述ヘ勞農政府ノ行為カ何等近時協商列國ノ接近ヲ促ス所ナキノミナラス却テ不良ニ赴キタルヲ唱ヘ独逸勢力ノ侵蝕今ヤ益々甚シク独逸大使等ノ露国到着ト共ニ露国政府ハ其膝下ニ圧迫サレ早晚協商國使臣ハ露ヲ敵トスルノ已ムナキ情況ニ至ルヘシト説ケリ

其二、捕虜交換事務ニ関シ六十名ヨリ成ル独逸赤十字委員莫斯哥ニ到着スヘク其ノ一部ハ既ニ露都ニ着セリ或ハ托電第三号ノ百十五名ノ委員等ニ関スル情報ト同一ノモノナラシカ、而シテ前記委員ハ露国内各地ニ多数ノ事務所ヲ開設スヘシト云フ

其三、此度上田カ新ニ領事トシテ披露的ニ外務省「カラハン」ト会见シ且御訓示ノ次第ヲ述ベタルモノト思考セラルル処昨今勞農政府機關紙ハ当方ヨリノ宣言ノ主旨ヲ諒解セ

今二十四日「ヨズネ」ハ上田ニ左ノ談話ヲナシタリ

勞農政府ハ誠意日露兩國間ノ紛議ヲ一掃シタキ希望ヲ有スルモ浦塩及「イルクーツク」勞兵会ヨリ政府ニ達スル報道ニ依レハ西比利亞及滿洲ニ在ル日本官憲ハ政府反對派ヲ支持シテ勞農政府ニ對抗シ現ニ数名ノ日本教官ハ「セメノフ」軍ニ加ハリテ之ヲ援助シ又日本領事ハ「イルクーツク」及「チタ」ニ在リテ反過激派ト接触シテ同派ノ運動ヲ援助シツツアルヲ以テ政府ハ之ヲ拘引スルヤモ計ラレス又「チチェリン」ハ浦塩事件ニ関シ日本ガ上陸兵ヲ撤退セサル以上ハ紛議ノ解決到底不可能ナリトノ意見ヲ有(脱)「チチェリン」ハ仏國大使ノ談話(往電第二四九号)ニ関シテハ事実ノ真相ヲ究メスシテ不謹慎ノ言辭ニ出ツル人ナリトシテ同大使ニ惡感ヲ懷ケリ云々

尚右談話トハ別ニ同日午後「ヨズネ」ハ上田ニ対シ十七日「イルクーツク」ニ於テ日本臣民二名「セメノフ」隊援助ノ廉ヲ以テ拘引セラレタル旨同地勞兵会ヨリ報告アリタル由往電第二二五号ノ通内話シ本件ニ関シテハ何レ「カラハン」ヨリ更メ申出ツル所アルヘシト語リタリ
在歐米各大使、哈爾賓、浦塩へ電報セリ

ズ却テ日本カ近ク勞農政府ヲ承認スルノ下心アルヲ揣摩シ「インシデント」ノ解決ハ浦潮上陸兵ノ撤退後始メテ之ヲ認ムヘク却テ世人ヲシテ日本ハ多大ノ讓歩ヲ為シタルノ感ヲ懷カシメント努ムル他一方ニ依然トシテ日本ノ政策ヲ疑フノ感シヲ持チ「セメノフ」支隊内ニアル日本ノ派遣者等ヲ撤去セラレサル間ハ日本ノ態度信シ難シト述ヘ「プロレタリー」ノ機關紙ハ侵略的企圖アル他國ノ行動ニ対シ決シテ沈黙ヲ守ルモノニアラスト称シ居レリ、右ハ元ヨリ勞農政府一流ノ術策ナリト察セラレ目下真相相確メ中ニテ又上田ニ於テモ相当ノ措置ヲ執ルコトト思考セラルルモノ一応參考迄ニ

註 大正七年四月二十三日日本野一郎外務大臣ヲ辞シ後藤新平外務大臣ニ任ゼラル

二五二 四月二十四日

在モスコイ熊崎總領事代理ヨリ後藤外務大臣宛(電報)

亞細亞課長「ウオズネセンスキー」上田領事

ニ対シ日本官憲ノ反過激派援助ノ事実ヲ指摘

ノ件

第二五六号

(五月四日接受)



二五三 四月二十六日

在モスコイ熊崎總領事代理ヨリ後藤外務大臣宛(電報)

蘇聯邦ニ於ケル反政府運動ヲ日本政府ハ支持

スル意向ナリヤ勞農政府ヨリ日本政府ヘ問合

ヲ発セリトノ新聞報道報告ノ件

第二五九号

(四月二十八日接受)

四月二十六日新聞報

四月二十五日勞農政府臨時外務委員ハ日本代表者ニ対シ左ノ書面ヲ送レリ

左ノ件貴官ヨリ東京政府へ御伝達相成度別紙在西比利亞日本領事 (agents consulaires) 及官人 (personnes officielles) 數員ノ行動ニ関スル公報ヲ添ヘ此段依頼ス

在「ペトログラード」日本大使館並在莫斯科日本正式代表者等殊ニ領事上田仙太郎氏ハ屢々日本政府ガ露国ノ内政ニ干渉スルノ意圖ナキヲ証言セラレタルガ我方ニ於テハ右ノ如キ声明アルニ拘ハラズ日本人而カモ官人ガ多數露西亞「ソビエツト」連邦共和国政府ニ反對ナル革命分子ニ加担シ直接内乱ニ参加シ居ルコトヲ屢々日本代表

者ニ指摘セリ最近我方ハ日本代表者ニ対シ有名ナル匪賊「セメノフ」隊中ニ日本砲兵及日本大砲ノアル旨ヲ注意スルト共ニ在浦塩日本領事カ革命裁判ノ事ニ容喙スルノ許スヘカラサルヲ指摘セリ発表ノ公報ハ日本政府ノ各員(Agents du Gouvernement)カ露西亜政府ニ反対ナル反革命運動ニ多数参加シ居ルコトヲ確認ス

日本ノ斯ル行動ハ我方ヲシテ東京政府カ今直ニ何等疑ヲ挾ム余地ナキ形式ニ於テ其ノ露西亜連邦共和国ニ対スル態度殊ニ日本政府ハ将来露西亜ニ於ケル反革命分子ヲ支持スル意ナリヤ若ハ其ノ派遣員中ノ或者ノ行動ニ関シ公開ノ取調ヲナシ明カニ犯跡アルモノハ之ヲ召還シ其ノ他ノ者ニハ然ルヘク訓令ヲ発セラルル考ナルヤヲ闡明スルノ必要ヲ感セシム然ラサルニ於テハ露西亜連邦共和国政府ハ斯ル派遣員ニ対シ露国人ノ反革命者ニ対スルト同様ノ処置ヲ執ラサルヲ得サルニ至ルヘシ(終)
在欧米各大使、浦塩、哈爾濱へ転電セリ

二五四 四月二十六日 在モスコイ熊崎総領事代理ヨリ 後藤外務大臣宛(電報)

ス趣旨ニ於テ浦塩ヨリ接シタル電報ニ依レハ我陸戦隊増加及機関砲ヲ棧橋ニ据付ケ云々又加藤司令官ノ労兵会代表者引見拒絶等ハ事実無根ナルコトヲ指摘シタリ右ハ単ニ一片ノ坐談ナリシ処右後段ノ談話ハ労農政府側ニ於テ二十八日新聞紙上ニ多少自己ニ好都合ナル形ニ變へ發展シ居ルヲ以テ為急報告ス尚右会见ノ際上田ハ「カラハン」ニ対シ往電第二六一号ノ労農政府照会ニ関シ何故ニ斯ル矯激挑発の公文ヲ発セルヤヲ質問シタルニ「カラハン」ハ斯ル公文ハ貴国ノミニ送リタルニアラスシテ英仏米ニモ送リタル次第ナリ労農政府ハ外国政府ノ代表者カ露国内ニ労農政府ノ敵タル反革命派ヲ支持援助スルコトハ一日モ黙過スルヲ得サルナリト答ヘタリ

二五六 四月二十八日 在モスコイ熊崎総領事代理ヨリ 後藤外務大臣宛(電報)

日本政府ハ反過激派ヲ支持スル意向ナリヤト
ノ労農政府ノ問合ニ対スル回答及我方ノ対露態度宣明ニ関シ意見稟申ノ件

第二七一号

(五月四日接受)

往電第二六一号ニ関シ労農政府照会ハ其ノ儘ニ致シ居ル処

日本政府ハ反過激派ヲ支持スル意向ナリヤト
ノ労農政府ヨリノ問合接受ノ件

第二六一号

往電第二五六号ニ関シ往電第二六三号記事二十五日新聞ニ掲載セラレタルガ労農政府ハ同電ノ記事切抜ヲ発表セラレタル公報トシテ添付シ臨時外務委員ニ代リ「カラハン」署名シ本官ニ宛テタル往電第二五九号ニ掲載セルト同文ノ書面ヲ送り越シタリ
在欧米各大使、浦潮総領事、哈爾濱へ電報セリ

二五五 四月二十八日 在モスコイ熊崎総領事代理ヨリ 後藤外務大臣宛(電報)

労農政府ノ対日抗議ニ関スル「カラハン」ノ
談話ニツキ報告ノ件

第二七〇号

(五月五日接受)

往電第二四六号ニ関シ二十七日上田他ノ用務ニテ外務部ニ「ヲズネ」訪問ノ際偶々「カラハン」ニ面会シタル処同人ハ前記拙電記載ノ事項ニ付返事ナキヤト尋ネタルニ付上田ハ無之旨答へ又「カラハン」ハ加藤司令官ノ態度ニ付云為シタルヲ以テ上田ハ労農政府側ノ報道力不確ナル例証ヲ示

之ニ関スル卑見左ノ通ニ付御参照ノ上何分ノ御回訓ヲ請フ一、今回ノ労農政府照会ハ同政府カ連日各方面ニ向ヒ連発シツツアル照会文ノ一ニシテ特ニ重要ノ意義アルモノニアラス其ノ目的トスル所ハ主トシテ国内ニ於ケル政事の効果ニアリ殊ニ此ノ場合ニ於テハ中央西比利亞労兵会等ニ対スル義理合ニ出テタルモノト察セラルルモ同照会后段ノ所謂反革命運動ニ対スル帝国政府ノ態度如何ノ質問ハ事労農政府ノ存立ニ重大ナル關係アルモノニ付同政府当局ニ於テモ相当真面目ニ考ヘ居ルモノト見ルヲ得ヘシ

二、故ニ帝国政府ニ於テ若シ目下主トシテ英国政府ガ「ロクハート」ヲ以テ労農政府ニ要求中ナル露国ニ対スル連合軍共同出兵ニ御同意ニテ之カ実行ヲ期セラルルニ於テハ相当ノ程度ニ於テ労農政府ニ満足ヲ与フルコト必要ナルヘク若シ連合側ニシテ一面労農政府ニ出兵ノ承認ヲ求メナカラ他面同政府ニ反対ナル運動ニ幫助ヲ与ヘ居ルヤノ疑ヲ同政府ニ懷カシムルノ不利ナルハ申迄モナカルヘシ

三、右ノ趣旨ニ依リ労農政府ニ回答ヲ与フルトセハ同政府照会ノ独断のニテ言辭矯激ナルハ多ク之ヲ咎メス大体左ノ二項ヲ回答スルコトトシ(ウ)ノ声明ニハ多少角立チタル形式

ヲ与フルコトトセハ可ナルヘシト存ス

(イ) 勞農政府ノ所謂日本人ノ反革命運動關係者ニ付テハ同政府ノ希望通り取調ヲナスコトトシ当方ニ於テ適當ト認ムル方法ヲ講スヘキコト

(ロ) 露西亜共和国及所謂反革命運動ニ対スル態度ニ関スル質問ニ対シテハ我ニ於テ露国民ニ対シ敵意ヲ有セス又露国内政ニ干渉スルノ意図ナキコトハ帝國政府ニ於テ予テ声明ノ通ニシテ勞農政府ノ所謂反革命運動ナルモノニ関シテモ素ヨリ無關係ノ地位ニアルコト

四、右ハ勞農政府ノ要求ヲ容ルルニ付テノ綱領ナルモ右ノ満足ヲ与フルニ付テハ此ノ際連合側ニ於テ予テ要求中ナル出兵ニ対スル承諾ヲ急速ニ求ムルコト機宜ヲ得タルモノナルヘシニ十七日「ロクハート」ヨリ聞ク所ニ依レハ勞農政府ハ二十六日更ニ書面ヲ送越シ反革命運動ニ対スル連合側ノ態度明ニセラルルコトガ速ナランコトヲ希望スル旨ヲ前回ノ文章(往電第二六二号)ヨリ遙ニ穩ナル口調ニテ述ヘタル後參考ノ為トシテ勞農政府カ独逸ニ対シ「ブレスト」条約ヲ遵守セス依然軍事行動ヲナスヲ責メ独逸政府ハ新ニ何ヲ欲スルヤ明答ヲ与フヘキ旨ヲ要求スル趣旨ノ無線電報

六、今上記ノ見地ヨリ今後相当ノ期間ニ連合側ノ一致ヲ見サル場合ニ執ルヘキ我措置ヲ考フルニ前記ノ通我ニ於テハ露国ニ対シテ他意ヲ有セス又其ノ内政ニ干渉シ或ハ其ノ領土ヲ侵略スルノ意図ナキモ露国ガ無力ナル為独逸勢力浸漸シ帝國ノ安全又ハ緊切ナル利益ヲ危クセラルルニ於テハ帝國ハ袖手傍觀シ難シトスルノ趣旨ニ基キ勞農政府ニ対シ今後戦局如何ニ長引クモ將又勞農政府ガ如何ニ独逸勢力ノ支配下ニ歸スル場合ニモ帝國ノ安全及東洋平和ガ脅カサルコトナキ程度ニ具体的ナル保障ヲ要求シ断乎タル決心ヲ以テ之ヲ貫徹スルニアルヘシ

七、従来露国ニ対スル我真意ナルモノニ付テハ内外ニ無用ノ疑惑ヲ醸シタル嫌ナキニアラス然ルニ今後若シ右ノ要求ニ依リ我趣意ヲ明ニシ我公明ナル立場ヲ中外ニ徹底セシムルニ於テハ人ヲシテ自ラ適從スル所アラシメ連合側竝ニ露国民ヲシテ我地位ヲ明確ニ諒得セシムルト共ニ勞農政府ニ対シテハ其ノ横暴不法ヲ抑制スルト同時ニ進ンテ未タ承認ナキ故ヲ以テ其ノ行為ニ対シ責任ヲ問ハサリシモ今日ノ場合ニ至リテハ承認ノ有無ナル形式問題ノ為現実ノ害悪ヲ忍フヘキニアラス正式ノ承認ハ之ヲ別問題トシテ先ツ我必要

(二十六日發) 写ヲ添ヘタル趣ニテ「ロクハート」ハ之ヲ以テ目下独逸大使モ来着セルコトニ付勞農政府ハ独逸トノ關係ニ何等カ新變化ヲ来シ勞農政府ハ急ニ連合側ニ倚頼スルノ必要ヲ感シタルニ因ルモノナルヤモ計ラレストシ其ノ趣旨ニ於テ本日政府ニ対シ此ノ際他連合各国ノ議ヲ纏メ勞農政府ニ対シ断然最後ノ決定ノ回答ヲ要求スルノ得策ナルヘキ旨進言スヘキ考ナリト語レリ

五、右連合側協同ノ行動ハ望マシキコトナルモ従来ノ例ニ依ルニ連合側間ノ一致ハ頗ル困難ノ事ナルヲ以テ今回ノ場合ニ於テモ徒ラニ協議上時日ヲ空過スルノ虞ナシトセス然ルニ独逸大使モ既ニ来着セル今日露国ハ日ヲ逐フテ独逸勢力ノ支配下ニ歸スヘキハ疑ヲ容レス故ニ將來連合側希望ノ如ク勞農政府カ終ニ連合側ノ意ニ從フヘク決心スル時機来ルトスルモ其ノ時ハ既ニ時機晚クシテ連合側所期ノ目的ヲ達スルコト更ニ至難トナルノミナラス其ノ場合ニ於テハ帝國負担ハ徒ラニ加重スルニ至ルノ虞ナキニアラス故ニ我トシテハ此ノ際對露国乃至連合側ノ關係上多少ノ不円滑ヲ賭シテモ露国ニ対スル我關係ヲ明定シ置クコト(脱)ナルヘキカト存ス

トスル要求ヲ貫徹スルヲ急務トスヘシ

八、右ハ或ハ直ニ連合側ノ利益ト背馳セル行動ニ出ツルカ如キ感アルヘキモ然ラス我单独要求ハ直ニ之ヲナスヘキニアラスシテ連合側ガ一致ヲ欠キタル場合ニ始メテ其ノ実行ヲ見ルヘキハ前記ノ通ナルノミナラス此ノ要求貫徹ニ依リ帝國ノ地位鞏固ヲ致スハ將來帝國ノ協力ヲ期待スルコト多キ連合側ニ取リテモ有利ナルヘシ之ヲ要スルニ我ニ在リテハ今回ノ要求アリタルヲ機トシテ単ニ当面ノ一事件ヲ解決スルニ止マラス進ンテ將來ノ戦局及國際關係ニ対スル我地位ヲ明定シ我ハ積極的地位ニ立チテ自発的ニ形勢ニ作用スルノ策ヲ講スルコト得策ナルヘキカト愚考ス

二五七 四月三十日

在ヴオログダ丸毛臨時代理大使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

在露米國大使ト米國政府トノ意見衝突ストノ

露國新聞記事ニ対シ同大使ノ發表セル声明ニ

付報告ノ件

第七七号

(五月二日接受)

最近華盛頓政府ト「フランシス」大使トノ間ニ意見ノ衝突

アリタル旨当国新聞紙ニ記載セラレタルニ対シ四月二十八日左ノ声明ヲ為シタル趣ナリ

本使ハ最近三週間米國大使及本使自身ニ関シ各種虚報ノ伝ヘラルルヲ敢テ意トセス唯其出所及目的ノ如何ナルヤニ注意セリ本使ハ余ト本國政府間ニ意見ノ衝突アリテ余カ帰國又ハ「ヴォログダ」ヲ出發ス可キノ記事アリシヲ知ル本使ノ意見ニ依レハ斯ノ如キ虚報ハ米國又ハ露國ニ対スル友誼若ハ米露兩國間ニ友好關係ヲ増進スルヲ欲スルモノノ言ニアラスト信ス本使ハ該風説中ニ在露米國赤十字社派遣隊長「ロビンス」大佐ノ名アルニ注意セリ余ト「ロビンス」大佐ハ親友ニシテ何等意見ノ扞格ナシ相共ニ同一ノ目的タル民主々義ノ發展ニ努力シ是カ為メニハ是非独逸ヲ撃破セサル可カラスト云フニ一致シ居レリ露國ニ於テ米國ノ政策ヲ公然ニ声明シ得ルハ本使一人ノミナルハ説明ヲ要セサル可シ本使カ二月二十八日「ヴォログダ」ニ到来セシ以來公然ノ声明ヲ為シタルハ今回ヲ併セテ第五回目ナリ第一回ハ「ブレスト」単独講和条約ヲ承認セサルコト第二回ハ日英陸戰隊ノ浦潮上陸ニ関スル事第三回ハ同事件詳細第四回ハ米國力独逸ヲ撃破スルニ準備ヲ着々進捗シツ、アルコトヲ露

國々民ニ注意セルコトヲ宣言セルモノナリ其他世間ニ伝ヘラル、モノハ悉ク虚報ナリ

二五八 四月三十日

在莫斯科熊崎總領事代理ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

在莫斯科米國非公式代表「ロビンス」ノ過激
派政權ニ関スル観測、之ニ対シ聯合國ノ執ル
ベキ政策等ニ関スル談話報告ノ件

第二七八号

(五月四日接受)

往電第二三六号ニ関シ二十六日英米仏三国代表者会合ノ際(往電第二六四号)本官「ロビンス」ト近附キトナレルヲ以テ翌二十七日同氏ヲ訪問シタルガ其談話要領左ノ通一、昨年十一月過激派ノ革命アルヤ余ハ其ノ政權意外ニ永續スヘキヲ信シタルガ果シテ然リ是レ蓋シ彼等ノ唱フル「ソビエツト」主義ガ「ミール」制度ヲ有セル露國々民性ニ合致スルモノナレハナルヘシ勿論過激派ガ現今唱ヘ居ル社会主義的各種ノ形式狂ナルモノアルモ之レ一時ノ勢ニ驅ラレテ唱ヘ居ルモノニシテ少数ノ熱狂者ヲ除ク外到底永ク之ヲ支持シ得サルヘク彼等ノ政權ニシテ永續スルモノトセハ其主張政策ハ一般民衆ノ生命財産安固ニシテ生活安易ナル

大調和的ニ変化セラレサルヲ得サルヘシ

二、サレバ過激派現在ノ主張ハ多ク顧慮スルヲ要セス只彼等ガ目下民衆ノ心ヲ支配シ居ル点ニ着目スルヲ要ス連合側ニシテ永ク露國民ヲ友トシ其ノ独逸勢力ノ支配下ニ歸スルヲ防ガサルヘカラストセハ勞農政府ニ逆フハ不可ナリ若シ彼等ニ圧迫ヲ加(脱)彼等ヲ驅リテ独逸ニ赴カシメ終ニ露國民ヲシテ其ノ爪牙トナリ了ラシムルノ結果ヲ来スヘシ故ニ連合側ハ出来得ル限り懐柔ノ方針ニ出テ過激派政府ト平和關係ヲ維持シ連合國代表者等ノ露國ニ滞在スルコトヲ可能ナラシメ以テ各種ノ資源カ独逸ノ手ニ歸スルヲ防ク等ノ方策ヲ講セサルヘカラスト

三、人或ハ過激派ト斯ノ如キ關係ヲ持續スルコトカ終ニ連合側ノ内政ニ迄悪影響ヲ及ホスヘキヲ恐ルル者アルモ是レ誤ナリ過激派主義ノ宣伝ヲ恐ルヘキハ数百万ノ社会民主党員ヲ有スル独塊ナラサルヘカラスト連合側少クトモ「アングロサクソン」國ハ個人主義ヲ以テ立テル國民ナルニ依リ社会主義ハ其ノ国民性ニ適セス過激派主義ハ恐ルルニ足ラサルナリ

四、連合側ノ露國出兵問題ニ関シテハ露國援助ノ趣旨ニ依

リ之ヲナスコト最賛成ニシテ之カ為自分ハ勞農政府当局説得ニ努メ独逸ノ圧迫益々加ハルコトニ付尚二ヶ月モ経過セハ終ニ彼等ヲシテ右出兵ヲ承認セシメ得ヘシトノ見込ヲ立テ居レリ然ルニ米國政府ハ右出兵ニ不同意ニテ自分ノ建議ハ未タ容レラルルニ至ラス

五、西比利亞ニ於ケル独逸ノ軍事行動ノ為日本ガ危害ヲ感スルカ如キコトハ其ノ隔離セル地理的關係ニ見テ有リ得ヘキコトト信セス西比利亞俘虜ノ武装問題モ「ロクハート」及自分ヨリ派遣セル調査員ノ報告ニ依レハ何等重要視スルノ価値ナシ
尚「ロビンス」ト勞農政府主要人物トノ關係ニ付テハ同氏ハ敢テ彼等ニ対シ過激派主義ノ信仰者タルヲ装ハス同氏カ米國ノ資産家ナルコトモ彼等ニ知レ居ルモ彼等ハ別ニ反感ヲ有スル模様ナシトノコトナルガ是レ同氏ノ態度ガ前記ノ通ナルニ因ルヘク又同氏ハ元來「アラスカ」鋳山業ノ出身ナル由ニテ夫レ等ノ關係上米國勞働組合 I. W. W. 黨員ト接觸ノ經驗モアリト語り過激派ノ取扱モ大ニ心得顔ニ見受ケラレタリ

在欧米各大使ヘ電報セリ

註 熊崎總領事代理ノ第二六四号ヲ省略セリ

該電ハ勞農政府ヨリ英米仏ハ反勞農政府陰謀ニ關係シツツアル旨ヲ英米仏代表者ニ抗議シ来レル件ニ関シ三国代表者等(熊崎總領事代理モ中途ヨリ臨席)ガ協議セル模様ヲ報告セルモノナリ

二五九 五月一日 在ウオログダ丸毛臨時代理大使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

独逸士官ガ露国新軍隊ヲ指揮スル場合在露仏
国將校及仏国大使ノ去就、「ロピンス」ノ帰
国予定等ニ関スル在「ウオログダ」仏国大使
ノ談話ノ件

第七九号 (五月四日接受)

五月一日仏国大使ノ本官ニ内話セル所左ノ通

(一)英国非公式代表者「ロックハート」ノ言ニ依レハ独逸ハ過激派政府ニ対シ「ムルマン」及「アルハンゲル」ノ引渡ヲ請求シ其ノ聞カレザル場合ハ独逸軍ハ露国内ニ於ケル進軍ヲ中止セズト申込メルト共ニ露国新軍隊ノ訓練ヲ独逸士官ニ委任ス可キコトヲモ要求セリトノ事ニシテ其真偽未ダ確ナラザルモ若シ独逸士官ガ新軍隊ヲ指揮スルニ至ラバ仏国政府ハ在露仏国將校ヲ召還シテ内若干ノミヲ「アルハン

二六〇 五月二日 後藤外務大臣ヨリ
在モスコウ熊崎總領事代理宛(電報)

勞農政府ハ永続セズト断定スル根拠及露国地
方村落二百姓一揆始マルベシトノ観測ノ根拠
ヲ上田領事ニ問合ノ件

第七九号

上田へ

在莫斯科總領事代理発電報第二二一号御意見中勞農政府ハ危険分子ノ集合体ニシテ而カモ其命脈ニ限りアルヲ以テ云々トアル処貴官ガ勞農政府ガ永ク存続セズト断定セルハ如何ナル論拠ニ基ク次第ナリヤ今日既ニ具体的ニ右ノ徵候現レツ、アル次第ナリヤ又右電報中近日地方村落ニハ百姓一揆始マルベキコト云々トアルハ如何ナル事実ヲ根拠トスル觀察ナリヤ右諸点慎重御攻究ノ上詳細電報アリタシ

註 熊崎總領事代理四月十五日發第二二一号ハ後出シベリヤ出兵關係一件ニ採録シアリ

二六一 五月八日 後藤外務大臣ヨリ
在モスコウ熊崎總領事代理宛(電報)

日本政府ハ反過激派ヲ支持スル意向ナリヤト
ノ勞農政府ノ問合ニ対シテハ当分其儘トシ置

ゲリスク」及「ムルマン」ニ留ムル事ナルベシ(二)米国非公式代表者「ロピンス」大佐ハ五月二日莫斯科ヨリ「ウオログダ」ニ来リ婦国ノ途ニ就ク可シトノ事ナリ右ハ米国大使ト行違トナル可シ(三)仏国政府ハ過激派政府ノ請求アリシモ本使ヲ召還スル事無カルヘシ本使ハ事態忍ビ難キニ至ラハ「ウオログダ」ヲ去ル可キモ元來吾人ノ敵ハ露国ニ非ズシテ単ニ過激派ナルヲ以テ本使ハ「ムルマン」又ハ「アルハンゲリスク」ニ留リ同地ヲ根拠地トシ武力ノ援助ヲ得テ日本ノ出動ト相待チテ活動ス可ク極東方面ニ赴クノ意志無キニ非ザルモ之過激派ノ承認セザル所ナルヘシ

尚前記第三ニ関シ仏国大使ハ米国大使ヲモ「アルハンゲリスク」地方ニ同伴セントスルノ意向アルモノノ如シ米国大使ガ之ニ応シ同行ス可キヤ或ハ仏ハ北ニ米ハ東ニ別ル事アルヤ未ダ判明セザルモ当地ノ外交団移動ノ徵アルニ於テ本官ノ進退及在莫斯科領事館ヘノ注意ニ関シ心得置ク可キ点アラバ折返シ御回電アリ度シ
仏及莫斯科ニ転電セリ

ク様回訓ノ件

第八六号

帝國政府ノ勞農政府ニ対スル關係乃至西比利亜出兵問題ハ各方面ヨリ慎重ナル攻究ヲ遂クルノ要アルヲ以テ差当リ未タ決定ヲ為スノ運ヒニ至ラス從テ貴電第二七一号ヲ以テ稟議ニ係ル回答ハ当分其ノ儘ト為シ何等ノ措置ヲ執ラレサル様致シタシ

本電參考トシテ在欧米各大使ニ転電アレ
浦塩哈爾賓ハ当方ヨリ転電スミ

二六二 五月九日 在モスコウ熊崎總領事代理ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

勞農政府ハ永続セズト断定スル根拠及露国地
方村落二百姓一揆始マルベシトノ観測ノ根拠
ヲ上田領事ヨリ回電ノ件

第二九九号 (五月十二日接受)

上田ヨリ

熊崎宛貴電第七九号ニ関シ

第一 本官ガ勞農政府ハ永ク存続セズト断言セルハ左ノ論拠ニ基ケリ

労農政府ハ無識無産ノ賤民階級ヲ有識有産ノ「ブルジョア」階級ノ上位セシメ以テ世界資本界ニ大恐慌ヲ来サシムルヲ目的トスルト同時ニ同政府ノ社会共産主義ハ現代ニ於ケル欧米諸国ノ国家制度及社会組織ニ背反シテ其帝國主義ト全然相容ル可カラサルモノアリ労農政府ノ主義目的ハ固ヨリ内外ノ賤民階級ニハ有利ナル可キモ「ブルジョア」階級ニハ勿論又穩和社会派ニ対シテモ不利ナルヲ以テ「ブルジョア」ハ同派ト共ニ極力右主義目的ノ実現ヲ妨ケテ自己ノ主義目的ヲ貫クコトヲ期スルニ至ル可シ露国ニ於テハ「ブルジョア」及穩和社会派無力ナルカ為メ労農政府ノ主義目的ハ今日容易ニ実現シツツアリト雖モ欧米諸国ニ於テハ斯ル主義目的ハ遠キ将来ハ兎モ角現代ニアリテハ容易ニ実現スルコトナカルヘシ故ヲ以テ露国「ブルジョア」階級及穩和社会派力無力ノ為メ縱令今日労農政府ヲ倒スヲ得ストシテモ同階級又ハ同派ヲ中心トスル欧米諸国ハ单独又ハ協同シテ露国ノ内政ニ干渉シテ以テ諸国共同ノ敵タル労農政府ヲ倒スニ至ル可シ乍然石諸国ノ重ナルモノハ現在交戦關係ニアリテ而カモ互ニ奮闘シテ雌雄ヲ争ヒツツアルヲ以テ今日両交戦國ハ協同ニテハ勿論又单独ニテモ之ヲ倒スニ

至ラサルノミナラス反対ニ目前ノ急務ニ驅ラレ敵ニ対シ勝利ヲ制スルノ必要上労農政府ヲ利用シ又ハ之ヲ利用セントシツツアリ現ニ独逸ノ如キハ之ヲ利用シテ露ト单独講和ヲ締結スルヲ得タリ斯クノ如ク両交戦國ハ同政府ヲ利用シ又ハ利用セント欲スルト雖モ元來同政府ハ其ノ共同ノ敵ナルヲ以テ両交戦國ハ各々之ヲ利用スルノ必要ナキニ至レハ戰爭中ナレハ单独ニテ又平和締結後ナレハ協同ニテ労農政府ヲ倒スニ至ルヘシ此事タルヤ労農政府カ夙ニ自ラ予期スル所ナリ同政府ハ始メヨリ自己ノ永久的存続ヲ期スルコトナクシテ縱令内敵ノ為メニ倒サルルコトナシトシテモ戰爭中ニ必ス両交戦國ノ一方ノ為メ倒サルルニ至ル可キヲ覚悟シ敢テ今日ノ久シキニ至ル迄モ自己ノ存続ヲ全クスルモノトハ予期セサリシト云フ抑々労農政府ハ各々異リタル目的ヲ有スル異分子ヨリ成リテ此内ニハ確ニ一種ノ「プロボカートル」含マルルト雖モ少クトモ其真髓分子ノ目的ハ社会共産主義ヲ世界ニ実現セントスルニアリテ頗ル遠大ナリ是等真髓分子ハ其主義ノ実現ヲ強イテ今日ニ求メスシテ寧ロ之ヲ将来二期今日ハ単ニ出来得ル丈ケ将来同主義ノ完全ナル実現ニ必要ナル基礎ヲ作ルコトヲ旨トシ是カ為メ労農政

府ハ政權ヲ有シ居ル期間ニ其機會ヲ利用シテ後世ノ為メ自己ノ主義目的ヲ法律トシテ發布スルコトニ決シ是即チ今日實際ニ勵行シ難キ幾多ノ空想理論的「デクレレー」ガ増加シタル所以ナリ然ルニ内ニアリテハ政府反対派ノ勢力ハ意外ニ弱カリシニ加ヘ又外ニアリテハ両交戦國ハ何レモ露国ノ内政ニ干渉ヲ為サリシカ為メ労農政府ハ案外ニ永ク存続シ茲ニ於テ政府部内ノ実利派ハ政權ニ慾ガ付キ其結果自家ノ主義ヲ枉ケテ有識有産階級ト接近シ以テ労農政府ノ繁榮ヲ計ル可シト主張スルニ至レリ然レトモ理想家ハ其主義ヲ枉クルコトヲ非トシテ是ニ反対セリ以上兩說中内外關係殊ニ(脱)現在実利派說ノ一部(不明)ナリト雖モ大体ニ於テハ未タ理想派ノ說全部行ハレツツアリ労農政府ノ本色ハ同政府カ理想派ノ主張ヲ固執スルノ点ニアルヲ以テ若シ同政府ニシテ之ヲ固執セスシテ全部実利派ノ主張ヲ容レタル場合ニハ労農政府ハ全ク其本色ヲ失ヒ居ルモノナルヲ以テ縱令同政府カ永ク存続シタリトシテモ之ヲ以テ労農政府ノ存続ト見ルヲ得サルナリ乍然今日迄ノ処ニテハ大体ニ於テ労農政府ハ未タ其本色ヲ失ハス「ブレस्त」条約調印後労農政府ノ基礎薄弱トナリタリト雖モ「ブルジョア」及穩

和社会派ハ依然無力ニシテ外國ノ干渉ナシニハ労農政府ヲ倒スヲ得サリシカ今日猶之ヲ倒スヲ得サルナリ然シ其後無ルヲ同政府ハ之ニ対シ打撃ヲ加ヘテ其勢力ヲ殺キタリ故ヲ以テ今日国内ニ於テハ労農政府ヲ倒シ得ルノ勢力無クシテ今ヤ之ヲ倒シ得ルモノハ両交戦國ニ限ルコトナレリ然レトモ連合國ハ対露政策ヲ誤リタル結果トシテ容易ニ之ヲ倒シ得ルノ地位ニアルヲ得スシテ若シ連合國力之ヲ倒サントスレハ労農政府ハ独逸ヨリ援助ヲ得テ却テ其命脈ヲ延スコトヲ得ルノ状態トナリタリ然シ独逸ハ労農政府ノ急所ヲ押ヘ居ルヲ以テ同政府カ自己ノ為メ有利ナル間ハ之ヲ利用スルモ復利用スルノ必要ナキニ至ラハ之ヲ倒スニ至ル可シ此ノ如ク労農政府ノ運命ハ一ニ独逸ノ意思如何ニ關係シ同政府カ独逸ニ利用セラレ居ル間ハ同政府ノ存続(脱)其前ニハ百姓一揆猶太人征伐(ボグローム)饑饉騷動等ノ事變發生シタル場合ハ例外トシテ斯ル場合ニハ労農政府ノ運命ハ無論独逸ノ意思如何ニ關係セサル可キモ其内ニ独逸ハ西部戦線ニ於テ確實ニ優勝ノ地位ヲ占ムレハ占ムル程独逸ハ労農政府ニ苛酷ノ要求ヲ提起シ而シテ同政府力之ヲ容レサル

場合ニハ直ニ之ヲ倒シテ自己ノ為メ有利ナル政府ヲ露国ニ組織セシムルニ至ル可シ

第二 労農政府カ永ク存続セサルノ徵候ハ裏面ニ蟠リテ之ヲ枚挙ニ違アラサルモ敢テ必スシモ昨今具体的ニ目前ニ顯レツツアル次第ニモアラサルナリ然レトモ過去ニアリテハ再々其徵候目前ニ顯レテ政府ノ命脈將ニ尽キントシタルコトアルヲ以テ近キ將來ニ於テモ亦同様ノ徵候目前ニ顯ルルニ至ル可シ現ニ「ブレスト」平和条約批准ニ関シ政府部内ニ意見ノ衝突起リ此事カ原因トナリテ社会革命党左派大臣拳ツテ其職ヲ去リ而カモ同派カ批准ニ反対ノ余リ独逸ニ対シ「バルチザン」戦争ヲ布告シタル当時ニ於テハ独逸ハ之ヲ機トシテ將ニ労農政府ヲ倒サントシタリ然ルニ其後同派ノ運動計画カ不成功ニ終ルニ至ルヤ独逸ハ連合国力労農政府ヲ承認セサルニ反シ之ヲ承認シ裏面ニハ露国ヲ劣国視スルモ表面対等国視シテ労農政府ニ恩ヲ売ルト同時ニ諸般ノ要求ヲ提起シテ威ヲ示シ同政府ヲ屈服セシメ以テ同政府ヲシテ連合国内全ク關係ヲ断タシムルノ方法ヲ講シタリ其結果労農政府ハ昨今連合国内對シ特ニ強硬ノ態度ヲ執リ現ニ仏国大使召還要求ノ如キモ直接又ハ間接ニ独逸ノ指図ニ出

主トシテ同政府ニ對スル両交戦国就中独逸ノ態度如何ニ關係スト見テ可ナルヘシ

第三 近々地方村落ニ百姓一揆始マルヘシトノ本官ノ觀察ハ既ニ發布セラレタル土地国有法実施ニ関シ全地方村落ニ騒動紛議發生スヘキ事實ヲ根拠トシタルモノニシテ現ニ地方村落ニハ早ヤ既ニ紛議發生シ到ル処ニ所謂農民戦争予期セラレ或ル村落ニハ百姓一揆實現シテ死傷者ヲ來シタルノ事實アリ露国ニ於テハ右法律ニ依リ原則上土地ハ悉ク國民有トナリテ土地ノ所有權ハ廢セラレタリト雖モ之カ分配ノ方法ニ関シテハ政府ヨリ未タ何等ノ方針ヲ示スニ至ラス土地分配ノ方法分配ヲ受クル者分配ノ面積等ニ関スル難問ハ本春迄ニ之ヲ解決スルノ必要アリト雖モ之カ解決宜シキヲ得サル場合ニハ百姓一揆發生スル危険アルヲ以テ当局者ハ大ニ苦心シ居レリト云フ昨今地方ヨリノ電報ニ依レハ或ル県ニ於テハ右一揆ノ發生ヲ危険トシテ本年之カ分配ヲ行ハスシテ之ヲ延期スルコトニ決定シタル趣ナルモ又或県ニ於テハ本春是非トモ之カ分配ノ断行ヲ必要トセリ若シ延期説カ勝利ヲ制スル場合ニハ地方ハ無事ナルヘキモ断行説カ勝利ヲ得ルノ曉ニハ百姓一揆ハ免ルヘカラサルヘシ尤モ一部

タルモノナリトノ説アリ斯ノ如ク現在労農政府ニ對シテハ独逸ノ恩威並行ハルルヲ以テ從テ同政府ノ命脈昨今多少延ヒタルノ觀アリト雖モ独逸カ西部戦線ニ於ケル自己ノ優勝ナル地位ヲ機トシ「ブレスト」平和条約ノ履行ヲ名トシ労農政府ニ苛酷過重ノ要求ヲ次第ニ提起シ遂ニハ労農政府カ主義履行上到底同意シ難キ要求ヲ提起シ又ハ内政ニ干渉シテ同政府ヲ倒スノ日案外近キニアルヤモ計リ難シ「オズネ」カ本官ニ内話シタル所ニ依レハ「ウクライナ」方面ニ勢力ヲ延シタル独逸ハ高加索「トルキスタン」ヲ經テ彼斯「アフガニスタン」ニ出テ印度ヲ脅カスノ目的ヲ有スルヲ以テ労農政府ハ独逸カ早晚露国ニ高加索及「トルキスタン」ニ於テ通路ヲ要求スヘキヲ予期シ場合ニ依リテハ同政府ハ之カ要求ヲ容ルルニ至ルヘシト云フ独逸カ西比利亞ヲ經テ極東ニ出ヅルノ通路ヲ露国ニ要求シタル場合ニ労農政府ハ之ニ応スヘキヤ否ヤトノ本官ノ質問ニ對シ同人ハ独逸ハ斯ル要求ニ出デサルヘキノミナラスヨシヤ之ヲ要求シタリトシテモ労農政府ハ断シテ西比利亞地帯ヲ独逸ニ与フルノ要求ニ応スルコトナカルヘシト答ヘタリ要スルニ労農政府カ永ク存続セサル徵候カ近キ未來ニ於テ目前ニ見ルト否トハ

断行説ト全部断行説トノ別アリテ一部断行ノ場合ニハ大ナル騒動ヲ見ルニ至ラサルヘキモ全部断行ノ場合ニハ必然騒動發生スルニ至ルヘシ右ノ外地方村落ニ於テハ穀物不足ニ伴ヒ種物ニ欠乏シ春播季節ニ近キモ種物ナキ為メ植付ノ出來サル地方少ナカラサルト同時ニ農具馬匹不足ノ為メ農作ノ出來サル地方多キヲ以テ此点ヨリモ百姓一揆發生ノ危険ナシトセス加之土地ヲ沒収セラレタル貴族地主ハ土地國民有ニ反對シ機會アレハ土地所有權ノ制度ヲ復活セシムルノ運動ヲ試ミルヘキノミナラス又百姓地主モ之カ制度ノ復活ヲ希望シテ貴族地主ト氣脈ヲ通スルモノアリト稱セラル故ヲ以テ若シ独逸カ労農政府ヲ倒ス場合ニハ此等地主ハ土地所有權復活運動ヲ始メ茲ニ於テ農民ト地主トノ戦争發生シ而シテ此場合ニ独逸ハ政治及經濟上露国ノ地主ト密接ナル利害共通關係ヲ有スルヲ以テ地主ヲ支持スルニ至ルヘシ此等ノ事情ヨリシテ現在独逸ハ露国ニ於テ土地ノ買収ヲ始メ此間伯林ニ於テハ右土地買収ノ目的ヲ以テ委員会ハ既ニ「タンボフ」県ニ於テ私有地ノ買入ニ着手シタリト云フ之ヲ要スルニ露国ニ於テハ國民有地分配ニ関シ甲村ノ農民ト乙村ノ農民ト紛議發生ノ事實アルノミナラス又農村飢饉ハ農

民一揆ヲ喚起スルノ危険アリテ且又場合ニ依リテハ近キ將來ニ於テ地主ト農民トノ間ニ紛議發生ノ危険アリ加フルニ猶太人ニ対スル露人ノ反感ハ大ナルモノアルヲ以テ労働政府倒レタル場合ニハ所謂「ボグローム」実現セララルルニ至ルヘシ今最近新聞電報ニ依リ近々地方村落ニ百姓一揆始マルヘシトノ觀察ノ根拠タルヘキ事実ノ二三ヲ枚挙スレハ左ノ如シ

「モギレフ」県ニ於テハ農民ハ近々百姓一揆ノ發生ヲ予期シ速射砲準備中ナリ「クールスク」県ニ於テハ今春農民戰爭アルヘシトシテ特ニ赤近衛兵隊編成セラレタリ「サラトフ」県「ウォリスキー」郡内ニ於テハ「オルロフデニソフ」公ノ地面五万五千「デシヤチン」分配ニ関シ農民戰爭準備セラレ又「サラトフ」郡ニ於テハ国民有ト成リタル土地分配ニ関シ農民間ニ武装の衝突起リタリ又同県内ニ於テハ土地分配ニ関シ(脱)居タル処既ニ無政府状態始マレリ「タンボフ」県ニ於テハ各村ハ土地ヲ奪合ヒ居レハ今春迄ニハ農村間ニハ一大衝突起ル可シ又同県内ノ農民ハ県及郡土地委員会ヲ否認シ別ニ村民委員会ヲ設ケタリ又同県内ノ農民ハ貴族大地主ノ土地ハ最早既ニ之ヲ奪ヒタルヲ以テ今ヤ

百姓地主ヨリ土地ヲ没収セントセリ「リヤザン」県内ニ於テハ近々土地分配行ハル可キヲ以テ其際騒動予期セラル「ペンザ」県内ニ於テ地主カ土地所有權ヲ実行スルノ危険アリトシ全地主ハ悉ク拘引セラル可シ「コストロマ」県ニ於テハ県土地委員会ハ土地分配ニ関シ騒動發生ノ危険アルヲ以テ土地分配ニ関スル準備成ル迄土地分配ノ実行ヲ中止スルコトニ決セリ(終)

代理大使へ郵報セリ

二六三 五月九日 在ヴォログダ丸毛臨時代理大使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

花岡書記官露都へ出張、露都状況及同地要人

ノ時局談ヲ帰館報告ノ件

第六九号 (五月十二日接受)

花岡露都出張報告

四月十七日当地発同二十四日帰館、過激派政府莫斯科移転後ノ露都ハ概シテ平靜ニシテ電車電話及電燈等従前ヨリ整頓シ夜間街上亦人出比較的多キモ糧食問題ハ益々宜シカラス特別高価ヲ払ハサル限り穀類及肉類等ヲ入手シ難ク馬匹ノ使用困難ノ為メ馬車賃法外ニ騰貴セリ而シテ一方ニ於テ

ハ前首相「ガリチン」ノ長子ハ飲食店ヲ開キ參謀本部々員タリシ將校連カ古道具屋ヲ営ムモノアル他方ニハ戰爭ノ結果民間ニ金ノ落チタル為メニヤ芝居及寄席等ハ常ニ満員ニシテ仕立屋(脱)過激派政府ノ下ニ種々ノ制限ヲ受クルニ反シ独逸捕虜ハ其制限ニテ市内ヲ横行シ居レリ
二三会谈者ノ時局談左ノ通り

(一) 和蘭公使 「ウクライン」駐劄独逸大使「ム、」ハ戰時中独逸外務省内ニ設置サレシ經濟委員會會長タリシヲ以テ同氏ノ任命ハ政治的ヨリハ寧ろ經濟的ニ活動シ「ウクライン」ノ穀類其他ヲ独逸ニ買取り独逸ノ工業品ヲ売込マントスルコトニアル可シ然レトモ独逸ハ既ニ一大使ヲ莫斯科ニ送り其他種々ノ委員ヲ派遣シ彼等ハ露国各地ニ散在スル捕虜ヲ利用シ各方面ニ活動スルヲ以テ要スルニ独逸ハ露国ヲ其思フ儘ニ左右スルニ至ランカト思ハル

(二) 英国領事 最近過激派政府ハ協商諸国間ニ不和ヲ生セシメンカ為メ人ヲ極東ニ派シ協商側ニ不愉快ナル事件ノ發生ニ努力シツツアリ余ハ之ニ関シ書類ヲ入手シ英国政府ニ報告セリ余ノ信スル所ニ依レハ露国人殊ニ過激派ニ対シテハ言辞又ハ「セレモニー」ヲ以テハ何事モ出来ス現ニ独逸側

ハ忌憚無く其目的ニ邁進シツツアルニアラスヤ而シテ協商側ハ今猶「セレモニー」ニ従事シツツアリ余ハ外交官ニアラサルヲ以テ善ク知ラサルモ過激派ト行動ヲ共ニス可キヤ否ヤハ久シキ以前ニ決ス可カリシ問題ニシテ而カモ猶決セス我政府ハ「ロクハルト」ヲ非公式代表者トシ莫斯科ニ派遣シアリ若シ夫レ独逸領事当地ニ來ルモ余ハ露都ニ止マル可キヤニ付テハ余ハ当地カ中立ナルコト並ニ領事ノ不可侵ナルニ依リ軍人及軍役年齢者ノミヲ出発セシメ自分ハ残留老人及婦女英人保護ノ為メ捕虜ノ如キ有様ニテ当地ニ残留考ナリ

(三) 露都軍医学校校長及教授二名 過激派政府ノ編成セル赤軍隊ノ目的ハ一ニ其ノ政權維持ニ在リ現ニ「プレス」講和条約調印ノ際委員ノ受ケタル訓令ハ如何ナル条件ニ調印スルモ差支ナキモ只過激派政府打破ヲ目的トスル条件ハ断シテ承認スヘカラスト云フニ在リシヲ以テ見ルモ彼等ノ念トスル所ハ只其ノ政權維持ニアリ従テ之ヲ驅テ独逸軍ニ對抗セシムルカ如キハ思ヒモ寄ラサルコトナリ若シ独逸軍ニ對抗ストセハ独逸ガ過激派ヲ打破セントスルトキノミ協商側ニ対スル亦同シ然レトモ其ノ兵力ノ如キ素ヨリ兇戯ニ資

シト云フヘシ又露国ガ秩序ヲ回復シ協商側ノ一員タル地位ニ復歸スルハ露国内部ノ力ヲ以テハ不可能ニシテ外部ノ援助ニ依ルノ外ナキハ露国一般ノ認ムル所ナリ然ルニ協商側ニ於テハ他国ノ内政干渉ヲセサル主義ニシテ先般浦塩事件ノ如キ一時ハ莫斯科政府ヲ動揺セシメタルニ間モナク協商側ニ於テ弁解的態度ヲ執リタル結果ハ却テ過激派政府ノ威力ヲ鞏固ナラシメタルガ内政不干渉主義ノ理論ハ立派ナルモ過激派ノ如キハ一種ノ強奪者ニ過キス而カモ其ノ政策条理ヲ以テ律シ難ク吾人ノ生命及財産ハ明日ヲモ期シ難キ有様ナルヲ以テ協商側ニ於テ依然遲疑逡巡ノ態度ヲ繼續セラールニ於テハ露国ノ人心ハ右等過激派政府ト接觸シ之ト講和条約ヲ締結シ大使ヲ交換スルト共ニ漫リニ威力ヲ示シ最後通牒ニ次クニ最後通牒ヲ以テシ過激派ヲ圧迫シツツアル独逸ニ向フニ至ルヘシ之ヲ要スルニ最近露国ニ於ケル独逸側ト協商側ノ遺口ヲ見ルニ前者ノ露国通ニシテ果斷ナルニ反シ後者ノ理屈のニシテ因循ナルハ甚ダシク露国ノ人心ヲシテ協商側ヲ離レ独逸側ニ近ヅカシメタリ殊ニ米國ノ態度ハ一般ノ不滿ヲ招キ「ウィルソン」大統領ノ電報ノ如キ少ナカラズ悪感情ヲ与ヘタリト云フ現ニ今日迄ハ如何ニ懇意

ニシテ私的談話ノ際ニモ独逸同盟ヲ協商側ノ人ニ對シテ説ケルヲ聞カザルモ今回ハ日露独同盟説ヲ公言セルモノニ一再ナラズ会合セリ例ヘバ旧式部官「エブレノフ」氏ノ如キ彼ノ英國大使「ブカナン」ガ革命ヲ煽動シ「サービンコー」陸相ニ金ヲ送り革命軍隊編成ニ援助セルガ如キ愚ヲナシ其結果ノ期待ニ反シ露国軍隊ノ瓦解ヲ來セルヤ斷然タル態度ニ出デズ却テ過激派ヲ迎フルガ如キヲ嘲リ露国將校ノ大部分ハ王政主義者ナルヲ以テ協商側ニシテ過激派ト提携セシカ露国軍人ハ決シテ之ト行動ヲ共ニセサルヘシト論ジ露国ノ將來ハ日露同盟ニアリト云ヒ居ルガ如キハ露国人特有ノ事大主義ニ基クト雖モ協商側政策カ彼ノ所謂非公式代表者ナル「ロックハルト」及「ロビンス」大佐等ノ如キ露国半可通ノ為ニ誤ラレ居ルノ結果ナル可シト云ハザル可カラズ(往電第六八号参照)之ヲ此儘ニ放置センカ露国ハ遂ニ独乙ノ自由ニ処分スル所トナリ協商側ハ不名誉ナル戰爭終結ヲナスノ已ム無キニ至ルノ虞アルヲ以テ尚英仏ノ困憊セザルニ先ダチ之ト協定シ且一旦決セバ斷乎タル態度ニ依リ露国ノ秩序ヲ恢復シ独乙ヲシテ過当ノ希望ヲ放棄セシメ一日モ速ニ一般公正平和ニ導クノ要アリト信ズ(終り)

莫斯科へ転電ス

註 丸毛臨時代理大使四月二十九日發第六八号省略ス該電ハ商工省「ラフハロウイッチ」ノ花岡書記官ニ對スル談話ヲ報告セルモノナリ

二六四 五月十二日 在ヴォログダ丸毛臨時代理大使ヨリ後藤外務大臣宛(電報)

協商國ノ在莫斯科非公式代表者ト在ヴォログ

ダ外交団トノ關係ニ関スル莫斯科新聞ノ記事

ニ付報告ノ件

第八七号

莫斯科發刊 Rannae Outro 紙ハ莫斯科及「ヴォログダ」ト題シ協商側ハ各々其非公式代表者ヲ莫斯科ニ派遣シ居リテ独立ニ本國政府ノ訓令ヲ受ケテ行動セシメツ、アルヲ以テ「ヴォログダ」外交団ハ隱遁者組合ノ如キモノニシテ Nollance 大使ノ如キハ本國政府之ヲ召還セサルモ「ソヴイエット」政府ハ之ヲ無視スルニ難カラズ丸毛代理大使ハ健康宜シカラサル為メ三月以來帰朝ヲ願出テ居リ上田領事程本國政府ノ電報ニ接シ居ラス實際政務ニ關係ナシ又 Francis 大使ハ夫レ程ナラサルモ莫斯科ニハ「ロビンス」

大佐アリテ独立ニ代表シツ、アルヲ以テ要スルニ在「ヴォログダ」外交団ハ露国ニ直接ノ必要アルモノニアラス云々ノ記事ヲ掲載セリ

二六五 五月十三日 在ヴォログダ丸毛臨時代理大使ヨリ後藤外務大臣宛(電報)

在露非公式代表者ノ地位ニ関スル米仏兩國政

府ノ見解ニ関シ報告ノ件

第九一号

(五月十四日接受)

往電第八七号ニ関シ在莫斯科本國總領事ハ本國大使ノ訓令ニ依リ露国ニ於テ本國西代表スルモノハ唯本國西共和國大使アルノミ在莫斯科本國總領事及大使館附武官ハ本國大使ノ訓令ニ基キ行動シツツアルモノナルコトヲ声明セリ又米國大使ハ曩ニ往電第七七号ノ通宣言ヲ為シタルカ昨十一日莫斯科ヨリ帰還ノ上本官ニ内話スル所ニ依レハ彼ノ所謂非公式代表者「ロビンス」大佐ハ近日帰國スルコトニ成リ居ルトノ事ニシテ各國共過激派政府ヲシテ非公式代表者ヲ利用セシメサル様注意シ居ルカ如シ斯ノ如ク米仏兩國政府共外交代表者ノ名分ヲ正シ本國政府ノ政策若クハ其意思發表方法ニ注意シツツアルハ御參考タルコトト存シ報告ス

莫斯科へ転電セリ

二六六 五月十四日 在ヴオログダ丸毛臨時代理大使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

對露共同出兵ニ過激派政府ノ承諾ヲ必要トス

ルヤニ関シ聯合國ノ態度一致セザル旨伊国代

理大使談話ノ件

第九五号

(五月二十三日接受)

五月十四日伊国代理大使が数日前接到セル消息トシテ本官ニ語ル所ニ依レバ英仏伊三国ハ共同出動ニ関シ熱心ニ米國政府ニ勸説中ナルガ前者ハ過激派政府ノ同意ヲ強イテ必要ナラズトノ意見ナルモ華盛頓政府ハ矢張過激派政府ニ承諾セシメタル上ニ於テ是可シトノ点ニ付未ダ一致セザルガ如シ仏國大使モ右ト同様ノ報告ニ接シ居レリ米國大使ハ電報未着ノ為ニヤ其通告ニ接シ居ラズ「フランシス」大使モ最近ニ至リテハ最早過激派政府ノ同意ヲ敢テ必要トセズトノ意ヲ本國政府ニ具申シ居レリトノ事ナリ尚同代理大使ハ過激派政府ヲ承認スルガ如キハ英仏伊三国政府トモ全ク問題トナシ居ラザル事ヲ述べ最後ニ若シ米國政府ガ賛成セザレバ必ズシモ其形式的賛成ヲ経ザルモ「セミョウノフ」軍隊

ヲ支持スルガ如キ方法ニ依リ右実行シ得ベキカト附言セリ

二六七 五月十五日 在モスコウ熊崎總領事代理ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

聯合國ノ對露出兵ニ關スル「トロツキー」ト

ノ交渉ニ付英國非公式代表者「ロックハート

」ノ談話報告ノ件

第三三二号

(五月十八日接受)

十六日「ロクハト」ニ面会シ連合側ノ出兵ニ関スル勞農政府トノ交渉経過ヲ尋ネタル処同氏ハ其後別ニ發展ナク尠クモ「トロツキー」ハ勞農政府ニ對スル承認ト援助ヲ受ケントシ承諾スヘキ見込ナルモ未タ決定ニ至ラス又連合側ニ在リテハ日本ハ米國ヨリ財政上及材料上ノ援助ヲ得ヘキ条件ニテ出兵ニ同意ナル様承知シ居ルモ米國ハ未タ不同意ナリ此交渉ニ既ニ二ヶ月モ空過セル今日一刻モ猶予スヘキニアラザルモ連合側ノ一致ヲ見ズ出兵ノ準備モ出来サル間ニ勞農政府ト手ヲ切ルハ甚タ不得策ナリト述ヘタルニ對シ本官ハ然レトモ最近「ウクライナ」政変ニ於テ独逸ハ「カデット」党及十月党ヲ擁立シ政府ヲ組織セシメタル結果大露西亜地方ニモ是等党派竝過激派反對諸派ノ間ニ親独氣勢高マル

ハ反對ナル旨及日本ノ西比利亞出兵ハ当分困

難ト考フル旨報告ノ件

英參第一四九号 極秘

(五月十七日接受)

ルヤニ認メラルル折柄斯ノ如ク勞農政府ト關係ヲ続クルモ徒ラニ反過激派分子ヲシテ連合側ヲ離レ去ラシムルノミナラズ遂ニ勞農政府ノ承諾ヲ得ルコトモ成効セザルニ於テハ益々時機ヲ失シ甚シク不利ナラズヤト問ヒタルニ同氏ハ右ノ利害判断ハ甚タ困難ナルモ兎ニ角連合側ノ準備整ハサル今日若シ断然タル態度ニ出テザルニ於テハ連合側ガ何事ヲモ為ササル内ニ独逸ハ「アルハンゲリスク」「ムルマン」等ニ進出スベク又英國トシテハ波羅の及黒海ノ露國艦隊ガ敵手ニ落チザル前ニ之ヲ破壊セムタメ目下勞農政府ニ對シ運動中ナルモ今直ニ同政府ト絶ツニ於テハ此目的ヲモ遂ケ難ク尠クトモ英國ニハ痛切ノ影響アルベシト述ヘタリ尚「ムルマン」ニ英仏兵駐屯シ居ルニ関シ独逸ガ勞農政府ニ對シ抗議シタル件ニ関シ「ロクハト」ハ「チチュエリン」ハ其内連合側ニ最後通牒ヲ送ルベキ建言ヲ為セルモ未タ實際ニ其事無シト云ヘリ

在歐米各大使へ電報セリ

二六八 五月十六日

在英國田中大佐ヨリ
參謀次長宛(電報)

英國政府ノ過激派懷柔援助政策ニ英參謀本部

ヲ要セスシテ明ナリ然ルニ彼等カ聯合國ニ援助ヲ請フノ切ナル今日ニ於テ元來ノ目的ヲ放棄シ其援助ヲ中止スルノミナラス却テ過激派ヲ援ケントスルハ其政策ノ矛盾モ亦甚シク突ニ驚クノ外ナシトス縱令英國政府ノ政策成功シ過激派ヲシテ兵力援助ヲ仰クコトアリトスルモ我參謀本部ハ軍事

今十六日 Macdonough 少將ト会見シ英國政府ノ對露政策ニ関シ内訓ノ件ニ就キ質問セルニ少將ノ曰ク英國政府ハ在莫斯科總領事 Lockhart ノ意嚮ニ動かサレ過激派懷柔政策ニ傾キツツアリテ過激派ヲシテ聯合國ニ兵力援助ヲ仰カシメントヨリ企画シアリ依テ「セメノフ」支隊ノ援助ノ如キモ当分ノ中止スルニ決セリト之ニ對シ小官個人ノ意見(脱)反對(脱)ニ徴シ獨逸ノ傀儡トモ為ルノ外ナク過激派ヲ援助セントスル政策ニ對シテ我カ參謀本部ハ(脱)見地ヨリ絶対反對ナリト信ス元來「セメノフ」支隊ヘノ兵器供給ハ英國參謀本部ノ提議ニ依リ成立セルモノニシテ其目的タル独逸ト手ヲ握レル過激派ヲ征服スルニアルコトハ多言ヲ要セスシテ明ナリ然ルニ彼等カ聯合國ニ援助ヲ請フノ切ナル今日ニ於テ元來ノ目的ヲ放棄シ其援助ヲ中止スルノミナラス却テ過激派ヲ援ケントスルハ其政策ノ矛盾モ亦甚シク突ニ驚クノ外ナシトス縱令英國政府ノ政策成功シ過激派ヲシテ兵力援助ヲ仰クコトアリトスルモ我參謀本部ハ軍事

の見地ヨリ之ニ反対スルハ予信シテ疑ハス、果シテ然ラハ日本ノ西伯利干涉ニ就テハ到底聯合与国間ニ一致ヲ見出スコト能ハス歟クシテ時機ヲ遷延スル間ニ独逸勢力ハ露国及極東ニ益々蔓延シ歐洲聯合國ノ不利ハ勿論日本モ亦自衛上実ニ不利ノ情況ニ陥ルヘシ、英国参謀本部ハ英国政府ノ政策ニ同意ナリヤ、若シ反対ナレハ(晚)其目的ヲ貫徹スルニ努力センコトヲ望ムト述ヘタルニ少将ハ勿論我参謀本部モ主義ニ於テ全然同意ナルモ政府ノ政策ノ異ナレルヲ遺憾トス、然レトモ過激派見込ナキコトヲ自覚スルニ至ラハ其政策ニモ自然變更セラルルニ至ルヘシ、小官曰ク米仏政府ノ態度如何、少将答ヘテ曰ク仏国ハ全ク貴見ト一致ス、米國ノ態度ハ不明ナリ、小官、少将ニ向ヒ本件ハ我参謀本部ニ取りテハ非常ナル重大問題ナレハ英国政府ノ政策ト英参謀本部ノ意見相違ヲ詳細ニ報告セントス異存ナキヤト確メタルニ異存ナシト答ヘタリ、之ヲ要スルニ英参謀本部ハ我参謀本部ノ意見ト同意ナルモ政府カ過激派懷柔政策ヲ固守シ頑トシテ動カサル為メ今ヤ匙ヲ投ケ更ニ過激派カ独国ト手ヲ握ルニ至レハ却テ聯合國ニ不利ノ結果ヲ来スヘシトノ見地ヨリ来リタルモノニシテ此見地ヨリスルトキハ近キ将来

ト二 閣聯シ英国政府ノ意向問合方訓令ノ件
第二五四号

英国政府ハ曩ニ西比利亜地方ニ於ケル独逸勢力ノ侵入ヲ防止セムカ為聯合國側ニ於テ干涉ノ措置ヲ執ルノ必要ヲ認め帝國政府ニ提議セル所アリ其後本問題ニ対スル米國政府ノ態度ニ顧ミ英国政府ハ成ルヘク勞農政府ヲシテ聯合國側ニ対シ右干涉ヲ招請セシムルコトトナスヲ得策ナリトシ過激派此ノ趣旨ヲ以テ「ロックハート」氏ニ訓令シ勞農政府ニ交渉ヲ開始セシメタル由ナル処該交渉最近ノ經過ニ関シテハ帝國政府ニ於テ報道ニ接セサルモ未タ何等具体的結果ヲ得ルニ至ラサルモノト察セラル他ノ一方ニ於テ聯合國側カ過激派掃蕩ヲ目的トスル「セメノフ」軍ヲ支持スルハ右「ロックハート」氏ノ勞農政府ニ対スル交渉ノ進行ニ障礙ヲ来スノ虞アルノ故ヲ以テ英国政府ハ暫ク「セメノフ」軍ノ前進ヲ抑制セムカ為日本側ヨリモ「セメノフ」大尉ニ勧告ヲ与ヘムコトヲ求メタルニ付帝國政府ハ同大尉ト接触スル日本武官ヲ經テ右勧告ヲ与ヘタルモ「セメノフ」ノ決心固クシテ動カスヘカラス着々過激派軍ヲ擊攘シテ前進ヲ繼續シ尚哥薩克兵ノ来リ投スルモノアリ今ヤ約五千ノ兵員ヲ擁

ニ於ケル帝國西伯利出兵ハ聯合与国間ノ調和ヲ得ルコト至難ナリト考フ、一方ヨリ觀察スルトキハ帝國ノ西伯利出兵ハ聊カ時機ヲ失シタル嫌ナキ能ハス、出兵問題勃發當時英仏輿論カ之ヲ歡迎セル好時機ニ乗シタルナランニハ単ニ米國ノ反対ノミニシテ其実行容易ナリト考フルモ今ヤ輿論ハ下火トナリ情況ニモ多少ノ変化ヲ来シ英国ノ態度モ亦一変スルニ至レリ故ニ帝國カ自衛ノ必要迫リ聯合國ノ態度如何ヲ顧ミス蹶起スルノ場合到来セサル限リハ当分実行困難ナリト考フ、機會アル毎ニ英国参謀本部ニ対シテ内訓ノ目的ヲ貫徹スル様努力致スヘシ Macdonough 少将ニハ日本参謀本部ハ在東京仏國大使館附武官ニ対シテ東京及哈爾濱ニ於ケル聯合國ノ軍事(此間七八字不明)セリトノ報在倫敦 仏國大使館附武官ヨリ伝聞セリ事實ナリヤノ問ヲ答セル(不明)本部ハ確メラレタシ事実ナラハ英国ヨリモ將校ヲ参列セシメタシト何分ノ御通報ヲ乞フ

二六九 五月十八日 後藤外務大臣ヨリ 在英國珍田大使宛(電報)

英国政府ノ勞農政府ヲシテ聯合國ノ干涉ヲ招請セシムル計畫ト聯合國ノ「セメノフ」援助

シテ勢力日ニ加ハリ既ニ近ク「カリムスカヤ」ニ迫ルニ至レリ

貴官ハ成ルヘク速ニ英國外務大臣ニ会見ノ上前記情勢ニ対スル同大臣ノ注意ヲ喚起セラルルト共ニ此ノ時局ニ際シ帝國政府ハ帝國並聯合与国ノ地位ニ顧ミ深甚ナル憂慮ヲ抱クモノナルコトヲ開陳セラレ之カ対応策ヲ講究スルニ方リ先ツ左ノ諸点ニ関シ同大臣ノ腹藏ナキ意見ヲ承知シタキ旨申入レラレタシ

一 勞農政府ヲシテ聯合國側ニ対シ干涉ヲ招請セシムトスル「ロックハート」氏ノ努力ハ遠カラス成效ニ至ルヘキ確實ナル見込アリヤ

二 勞農政府ヨリ聯合國側ノ干涉ヲ招請スルコトアリトセハ其ノ干涉ノ直接ノ目的ハ国内ノ反対派ヲ威圧スルニ在ルカ然ラサレハ独逸ノ武力侵略ニ対シ露國ヲ防護スルニ在ルカ兩者其ノ一二外ナラサルコトト推測セラル然ルニ前者ノ場合ニハ聯合國側ニ於テ右招請ニ応スヘキ理由ナカルヘク若シ又後者ノ場合ニハ独逸カ武力侵略ノ範圍ヲ西比利亜地方ニ及ホササル限リ曩ニ英國政府ノ帝國政府ニ提議セル西比利亜出兵ノ計畫ハ勞農政

府ノ招請スル干渉ノ目的ヲ達スルニ足ラサルヤニ思考セラルル処此点ニ付英国政府ハ如何ナル意見ヲ有スルヤ

三 勞農政府カ目下露国内ノ諸地方ニ於テ政權ヲ執行スルハ事実ナリト雖之ト同時ニ同政府ハ未タ露国人民一般ノ意思ヲ代表スルモノト認ムルコトヲ得ス現ニ同政府ニ深恨ヲ抱キ到底之下調和セサル分子極メテ多キハ亦明瞭ナル事実ナリ此ノ際聯合國側ニ於テ勞農政府トノ協調ニ依リ干渉ノ措置ヲ執ルトキハ假令其ノ直接ノ目的カ独逸ノ侵略ニ對抗スルニ在リトスルモ間接ニ勞農政府ノ地位ヲ鞏固ナラシムルノ結果アルモノトシテ同政府反対派ノ聯合側ニ対スル反感ヲ激成スルノ虞ナキヤ

四 「セメノフ」大尉ハ元來日英仏三国政府ノ精神上並物質上ノ援助ニ依リ兵ヲ拳クルニ至リタルモノニシテ同人カ聯合國側ニ信頼シ引続キ相当ノ援助ヲ与ヘラルヘキコトヲ期待スルハ理由ナキニ非ス然ルニ今日ニ至リ聯合國側ニ於テ突然同人ニ対スル援助ヲ停止シ其ノ死地ニ陥ルヲ傍觀スルカ如キコトアラハ「セメノフ」ノ

二、過激派ノ基礎案外鞏固ト成ルニ及ヒ一時瀾縫手段トシテ用ヒタル所謂非公式代表者カ或ハ自身過激趣味ノモノナルカ又ハ同情ヲ帯ヒ其ノ意見ハ不知不識ノ間列国使臣ノ過激派ニ対スル態度ヲ軟化セシメタルコト

三、英仏等ハ露国戦線ニ於ケル独塊軍脅制力ノ一張一弛ガ直ニ自己戰場ニ重大ナル影響ヲ与フ然ルニ過激派ノ政權獲得以來健全分子ノ行動比較的軟弱ナルニ比シ過激派ノ対独逸反感ハ「ブレスト」媾和會議ノ經過ト関聯シテ一時強勢トナリ一旦崩壊セル軍隊ヲモ再興シテ之ニ当ラントノ氣勢ヲ示セシカハ実力干渉ノ便ヲ有セサル協商側ハ差シ当リ之等過激派ノ反独逸傾向ヲ支持シ独塊軍ヲ牽制スルヲ以テ組織力ニ乏シキ健全分子ヲ支持スルヨリモ反テ応急ノ便宜ヲ得ヘシト思考シタルコト參謀本部員ノ談ニ依ルニ独逸軍ハ最初小露方面ニ二十師団ヲ残ス計画ヲ有セシカ實際ハ過激派ノ抵抗ヲ受ケテ目下ハ独逸軍四十三師団獨塊軍二十師団計六十三師団ヲ充テ居レリト又英国ハ露国軍艦將來ノ運命ヲ甚タ懸念シ勞農政府ヲ操縦シテ之ヲ敵手ニ陥ラシメサルニ努メツツアリト

四、協商側ノ露国内ニ有スル資本及企業ハ独逸ノ夫レニ比

同情者ニ対シテハ著ク聯合國ノ威信ヲ失シ一般露国人ニ対シテハ聯合國ノ信頼スルニ足ラサルカ如キ感ヲ与ヘ遂ニ彼等ヲ驅テ独逸ニ走ラシムルニ至ルヘキ危険ナキヤ

二七〇 五月二十日 在ヴオロゲダ橋本少佐ヨリ參謀總長宛(電報)

協商列国カ勞農政府ニ対シ斷乎タル政策ヲ樹

立シ得サル事情ニ付報告ノ件

露第九十二号二十日發 (五月二十二日接受)

外交ニ関スルノ件答

過激派政府ノ内外政策カ共ニ協商列国ノ容認スヘキモノニアラサルニ拘ラス既ニ半歳ノ久シキニ互リ協商列国カ何等過激派ニ対シ斷乎タル政策ニ出テス以テ今日ニ至リシハ素ヨリ外交ノ統一無キニ依ルヘシト雖亦次ノ諸件ニ起因スルナラン

一、最初ニ於テ過激派ノ政權維持力カ左程永続セス恐ラク建国大会ノ建設ニ依リ又ハ健全分子ノ蹶起ニ依リ速カラス顛覆スルモノト信シ為ニ積極手段ヲ講スルノ好機ヲ逸シタルコト

シ殊ニ戦時ニ至リ更ニ大ナルモノアリ從テ勞農政府ノ懷柔ハ自国資材ノ保全上止ムナシト認メ又此ノ点ニ於テハ協商側資本家ノ姑息的術策カ外交ヲ制シタルノ嫌ナシトセサルコト(以下省略)

二七一 五月二十一日 在ヴオロゲダ橋本少佐ヨリ參謀次長宛(電報)

日本ノ西比利亜出兵案及「セメノフ」支隊援

助ニ対スル英米仏ノ態度ニ関スル件

二十一日露第九十四号

(前略)

前述ノ如ク当地外交團ニ於テハ今ヤ少クモ仏国米國ハ主義トシテ実力干渉ノ必要ヲ認ムルモ其ノ実行ノ手段トシテ日本ガ出動スルニ当リ米國大使代表者ハ日本ノ極東ニ於ケル優先權ヲ好マサルモ仏國代表者ハ協同作戰上ノ効果ヲ希望シアリ最初ヨリ歐露出兵ヲ標榜スルニアラサレハ協定シ難シト云フニアラサルカ如シ而シテ仏國大使ノ如キハ独乙東進ノ現状ヨリスル日本ノ出動ト其ノ西歐洲協商軍ニ及ホス協同作戰上ノ効果ト漸次一致スルニ至レリトノ見地ヨリ相互ノ協定ヲ得ント努メアルカ如シ又英国及其他ノ一部ニ於

テモ日本カ出動スル場合ニ於テモ其ノ進捗ヲ容易ニスル為一時過激派ノ承諾ヲ得テ之ヲ利用スルヲ有利トセルモノアリ尚仏国参事官ノ意見ニ見ルニ「セメノフ」支隊援助ノコトハ同意ナルモ露西亜人ノ通有性トシテ其ノ挫折ヲ受クヤノ疑アリ英仏カ「ドン」及「ウクライナ」ヲ援助シテ共ニ失敗ニ帰シタルヲ謂フナランカ又英国非公式代表者ノ如キハ露西亜軍艦ノ処置ニ関シ過激派政府ヲ操縦スルノ必要ヨリ「セメノフ」ノ行動ヲ制止スルノ要アリトナセルカ如シ故ニ帝国ニシテ当分其ノ行動ヲ「セメノフ」支隊ノ援助等ニ止ムルニ於テハ速カニ該支隊ノ実績ヲ周知セシムルニ努メ傍ラ当地ノ協商列国大使又ハ本国政府ヲシテナルヘク其ノ将来ノ發展ノ計画、彼ト「ホルワット」及「コルチャック」等ノ關係及有効ナル援助ノ手段等ヲ明ニセシムル為之ニ関シ適時外交当事者ニ通報セラルルヲ有利ト感ス然ラサレハ列国大使等ハ反対的諜報ニ左右セラルルコト多ク為ニ該行動ヲ信賴スルノ度尠ナキノ嫌アリ

二七二 五月二十三日 在ヴオログダ丸毛臨時代理大使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

米国非公式代表「ロピンス」ノ帰米ニ付米國

我國ノ対西比利亞政策ニ関シ上田領事ヨリ意

見具申ノ件

第三五二号(郵送)

(八月二十八日接受)

上田ヨリ

今日労農政府ハ以前ノ如キ勢力ヲ有セサルヲ以テ此ノ際政府反対諸派ガ之ニ打撃ヲ加フレハ同政府ハ直ニ倒ルヘキモ此等諸派ハ皆無力ニシテ外国ノ援助ナクシテハ之ヲ倒シ得サルナリ故ヲ以テ同政府ハ今明日ニ倒ルルノ模様ナキノミナラス夫ノ無氣力ナル旧將校及將軍連カ所謂赤軍編成ニ参加シ又同盟罷業中ナリシ官吏ガ生活困難ノ余リ其ノ業ニ就クニ至リタルコト等ノ為勞農政府ノ命脈ハ多少延ヒ来リタルノ觀アリ然レドモ其ノ命脈ノ延長ハ帝国主義ヲ根本トスル欧米諸國ノ為危険ナルヲ以テ諸國ハ来リテ早晚之ヲ倒スニ至ルヘシ乍去諸國ハ現在互ニ交戦關係ニアルヲ以テ之ヲ倒スヲ得スシテ却テ互ニ之ヲ利用シ敵ニ対シ勝利ヲ制スルコトヲ目前ノ急務トセリ此ノ事ヤ勞農政府当局者ガ夙ニ審ニスル所ナルヲ以テ当局者ハ兩交戦國又ハ其ノ一方ガ勞農政府ヲ倒スニ至ル迄ニ兩交戦國ガ雌雄ヲ争ヒ居ルヲ機トシ其ノ孰レカノ一方ト接触ヲ保チテ自己ノ命脈ヲ延ハシ此

大使ノ談話報告ノ件

第一〇〇号

(五月二十六日接受)

自称米国非公式代表者タリシ「ロピンス」大佐ハ五月二十二日「イルクツク」発浦潮ニ向ヘルガ二十三日朝米國大使ガ極秘トシテ本官ニ内話スル所ニ依レハ同大佐ノ帰國ニ就テハ過激派政府ニ於テハ同政府ノ内意ヲ含ミ帰國セルモノナルヲ以テ再ヒ露國ニ来ルヘシト云ヒ而シテ一部ノ社会ニ於テハ右内意ハ米國政府ヲシテ過激派政府ヲ承認セシメントスルニアリト伝ヘ居リ之ニ反シ反革命党側ニ於テハ同大佐ハ米國政府ヨリ召還セラレ帰國セルモノナリト為シツツアルガ事実ハ召還セラレタルモノニシテ再ヒ露國ニ来ルコトナカルヘシ又同大使ノ意見ニ依レハ仮令米國政府ヲシテ過激派政府ヲ承認セシメント尽力スルトモ何等ノ効果ナカルヘキヲ確信ストノコトナリ尚本件談話ニ関シ米國大使ハ其ノ自己ノ口ヨリ出テタルコトハ異々モ秘密ニセラレタシト繰返サレタリ

二七三 五月二十四日 在モスコイ熊崎總領事代理ヨリ
後藤外務大臣宛

露国労農政府ノ存亡ト交戦陣營トノ關係及

ノ期間ヲ利用シ自己ノ社会共產主義ヲ兩交戦國ニ注入シテ帝國主義諸國ノ賤民ヲ煽動シ以テ世界大革命ヲ實現セシメントノ目的ヲ有セリ抑々帝國主義諸國ハ悉ク皆勞農政府ノ敵ニシテ就中独逸ハ其ノ無二ノ強敵ナルヲ以テ同政府ハ当初内外政關係上縦シヤ一時ニセヨ独逸ト接触ヲ保チテ余命ヲ全クスルヨリモ寧ロ連合國ト接触ヲ保チ余命ヲ全クシ互ニ利用シ合フコトヲ欲シタリシモ一方ニハ露國ノ内情ニ疎キ連合國ガ勞農政府ノ政情ヲ詳ニセサル結果同政府ヲ利用スルノ方法ヲ知ラスシテ對露政策ヲ誤リタルト同時ニ又他方ニハ独逸ハ現在連合國ニ對シ優勝ノ位置ヲ占ムルヲ以テ此ノ際勞農政府ガ連合國ト接触ヲ保ツ場合ニハ独逸ハ直ニ勞農政府ヲ倒スニ至ルヘキモ若シ同政府ガ独逸ト接触ヲ保チテ独逸ヨリ利用セラレ居レハ夫レ丈勞農政府ノ命脈モ延長シ從テ同政府ハ其ノ間ニ出来得ル丈公然堂々ト世界大革命ノ煽動ヲナスヲ得ル利益アリトノ見地ヨリシテ勞農政府ハ勢(脱)旁独逸ト接触シテ互ニ利用シ合フノ今日トナルニ至レリ元來勞農政府ノ命脈ガ延ヒルコトハ露國內ニ於テ政府反対諸派ニ對スル大打撃ナルヲ以テ此ノ諸派ハ兩交戦國又ハ其ノ一方ガ一日モ早ク露國ノ内政ニ干渉シテ之ヲ倒

スコトヲ希望シ就中諸派ノ大部分ハ露国将来ノ為連合国ガ之ヲ倒スコトヲ有利ナリトシ単ニ独逸ガ之ヲ倒スコトヲ有利ナリトスルモノハ其ノ一部分即チ保守親独派ニ過キサリキ然レトモ連合国ノ対露政策ガ一定セサルニ加ヘ勞農政府ノ運命ハ早既ニ独逸ノ掌中ニ歸シテ而モ連合国ハ今日同政府ヲ倒シ得ルノ位置ニ在ラサルコト明白トナリタルヲ以テ今ヤ右諸派ノ多数モ亦保守親独派ト同ク已ムヲ得ス独逸カ之ヲ倒スコトヲ希望スルコトトナリタリ斯ノ如ク連合国ト接触センコトヲ欲シタル勞農政府ガ独逸ト接触シテ独逸ニ利用セラレ又連合国ガ勞農政府ヲ倒スコトヲ有利トシタル政府反対派ノ多数ハ今ヤ却テ之ヲ独逸ガ倒スコトヲ有利トスルニ至リタル所以ハ畢竟連合国ノ対露政策ガ根本ニ於テ誤リタルニ反シ又独逸ノ夫レガ其ノ宜シキヲ得タルカ為ニ外ナラス尤勞農政府ハ現在独逸ニ接触屈服シテ余命ヲ保チタリト雖歐洲戦争ガ近々平和トナルカ又ハ独逸カ西部戰場ニ於テ確實完全ナル優勝ナル位置ヲ占メテ勞農政府ヲ利用スル必要ナキニ至レハ勞農政府ノ命脈ハ直ニ尽クルニ至ルヘシ今ヤ勞農政府ハ歐洲戦争ガ成ルヘク永ク継続シテ而モ其ノ範圍カ亜細亞、阿弗利加、亜米利加等ニ拡大センコト

ヲ希望スルニ至レリ勞農政府ハ異分子ノ集合体ニシテ此ノ内ニハ独逸ト氣脈ヲ通シテ独逸カ露国ヲ蚕食スルコトヲ希望シテ而モ独逸カ同政府ヲ倒スコトヲ欲スル所謂「プロボカートル」乃至自己ノ主義ヲ捨テテ全ク「ブルジョア」ニ化シテ政權ヲ維持セント欲スルモノナシトセサルモ同政府首脳人士ハ其ノ主義ニ忠実ニシテ飽ク迄世界大革命ノ実現ヲ目的トセリ同人士ノ意見ニ依レハ露国ガ中立国トナリタル今日ニ於テハ歐洲戦争ガ永引ケハ夫レ丈勞農政府ノ命脈延ヒルノ利益アルノミナラス又両交戦国々民ハ自然其ノ内ニ全ク戦争ニ倦キ生活ニ困難ノ余リ政府ニ対シ不平ヲ洩スヘキヲ以テ其ノ際勞農政府ハ之ヲ機トシテ右諸国々民ヲ煽動シテ世界大革命ヲ実現セシムルヲ得ヘシトセリ勞農政府ノ最危険トスルコトハ速ニ一般平和成リテ帝國主義タル各交戦国ガ協同シテ勞農政府ニ對抗スルコトニアリト雖若シ歐洲戦争ガ今後更ニ一年以上モ継続シテ而モ両交戦国カ互ニ争ヒ最後ノ勝利ヲ期シ為ニ其ノ戦争ノ範圍ヲ亜細亞殊ニ印度ニ拡張シタル結果トシテ両交戦国又ハ其ノ一方ガ勞農政府ヲ倒スノ邊ヲ有スルヲ得サルニ至ル場合ニハ同政府ノ命脈ハ益々延長スルニ至ルノミナラス終ニハ同政府ノ

大目的タル世界大革命モ亦案外容易ニ実現スルニ至ルヘシ是即チ勞農政府ハ独逸ニ屈服シテ独逸カ印度ヲ征セントスル場合ニ高加索、土耳其ニ於テ其ノ通路ヲ独逸ニ与フルコトヲ躊躇セサル所以ナリ之ヲ要スルニ本年中ニ歐洲戦争ノ勝敗ガ判然スルカ又ハ一般平和成立シテ両交戦国又ハ其ノ一方ガ露国ノ内政ニ干渉セハ勞農政府ノ命脈ハ永クモ本年中ニシテ又夫レ迄ニ饑饉騒動、百姓一揆、猶太人征伐等勃発セハ其ノ命脈ハ其ノ以前ニ尽クルニ至ルヘシ乍併若シ此ノ戦争カ永引ク場合ニハ勞農政府ハ容易ニ倒レルニ至ラスシテ却テ其ノ基礎固マルヤモ計リ難シ露国ガ独逸ト單獨平和ヲ締結シテ独逸ヲシテ優勢ノ地歩ヲ占ムルヲ得セシメタルノ罪ハ素ヨリ露国ニアリト雖露国ヲシテ茲ニ至ラシメタルノ罪ハ確ニ連合国ニアリ既ニ「ニコライ」二世在位ノ頃ヨリ連合側ガ対露政策ヲ誤リタルコトハ明白ナル事實ニシテ若シ連合国ガ当初ヨリ露国ニ対シ注意周到ヲ旨トシテ政策ヲ誤ルコトナカリシトセハ第一革命モ亦或ハ発生セザリシヤモ知レサリシナリ然ルニ連合国ハ露国ノ政情ヲ解セスシテ単ニ露国ヲシテ戦争ヲ継続セシメントノ初一念ヨリ輕卒ニモ露国ノ内政ニ干渉シテ朝ニ甲党派ヲ援助シ又夕ニ

ハ乙党派ヲ支持シ其ノ結果「ニコライ」二世ノ政府倒レテ「ルウオフ」乃至「ケレンスキ」内閣成リタルモ同内閣ハ間モナク瓦解シ勞農政府之ニ代リ茲ニ於テ連合国ハ露国ノ有ユル党派団体ヨリ怨マレテ信用ヲ失フコトトナリタリ斯ノ如ク連合国ハ対露政策ヲ誤リタルニ反シ同政府ニ対スル獨逸ノ政策ハ正鵠ヲ得テ一貫シ其ノ結果露国ニ於テ連合国ハ敵ヲ敵トスルノミナラス又味方ヲ敵トナスニ至リタルニ反シ独逸ハ味方ヲ味方トスルノミナラス又敵ヲ味方トナスニ至レリ折々独逸ハ露国民ヲ了解スルヲ以テ同国民ガ戦争ニ疲レテ平和ヲ渴望スルヲ機トシ露国当時ノ大勢力タル勞農政府ヲ利用シテ露国ト單獨平和ヲ締結スルノ目的ヲ達シ而モ形式ニ重キヲ措カスシテ全ク臨時ノ意味ヲ以テ而モ自己ニ対シ危険ナル勞農政府ヲ承認シ以テ之ニ面目ヲ保タシムルト同時ニ之ニ対シ強硬ノ態度ヲ以テ威力ヲ示シ且同政府ノ急所ヲ押ヘテ之ニ対シ恩威ヲ並行フノ方針ニ出テタル為勞農政府ハ終ニ独逸ニ屈服シテ独逸ヲ尊敬スルニ至リシト雖連合国ハ露国民ヲ解セサルヲ以テ露国民ガ戦争ニ疲レテ内心ニ平和ヲ渴望スルニ拘ラス一二政事家ノ口上ニ重キヲ措キテ之ヲ露国民ノ本音ト思ヒ以テ漫リニ露国民ニ向テ

戦争継続ノ必要ヲ説キ而モ労農政府ヲ永久的ノモノト見以テ形式ニ重キヲ措キテ之ト接触スルヲ拒ミ且又之ヲ利用スルヲ得シテ自己ニ対シ反抗セシメタルガ連合国ハ近頃ニ至リ同政府ヲ利用スルノ目的ヲ以テ媚ヲ同政府ニ呈シ赤軍編成ヲ歡迎シ又同軍編成ノ目的ガ独逸ト戦フニアラスシテ所謂健全分子即チ政府反対党ヲ撲滅スルニアルヲ解セスシテ同軍ニ援助ヲ与フルコト等ノ愚策ニ出テタルカ為勞農政府ハ連合国ヲ輕視シ以テ連合国ニ対シ強硬ノ態度ニ出ツルニ至レリ

独逸ハ露国ト境界ヲ接スル關係上露国ガ世界大革命ノ策源地タルコトヲ危険視スルト同時ニ又同国ガ統一ヲ保テル強大國タルヲ危険トス故ヲ以テ独逸ハ自己ノ利益ノ為露国ヲ四分五裂セシメテ以テ幾多ノ小弱國トシ単ニ大露西亞ノミヲ完全ノ獨立國トシテ歐露、高加索、中央亞細亞ニ於ケル未來ノ獨立國ハ直接間接ニ悉ク之ヲ自己ノ勢力ノ下ニ歸セシムルノ目的ヲ有スト称セラル元來勞農政府ノ主義目的ハ独逸ニ対シ大ニ危険ナリト雖同政府ノ民族自定權ハ独逸ガ露國ニ於テ自己ノ目的ヲ達スルニ有利ナルヲ以テ独逸ハ一方ニハ直接又ハ間接ニ勞農政府ヲ利用シテ同政府ニ同主義

至ルヘシ要スルニ將來ハ兎モ角少クトモ今日ニ在リテハ勞農政府ハ独逸ノ籠ノ鳥ニシテ同政府ノ運命ハ一独逸ノ掌中ニ在ルヲ以テ連合國ガ勞農政府ヲ利用スルノ意味ヲ以テ之ニ援助ヲ与フルコトハ頗ル困難ナルト同時ニ又同政府ヲ敵トシテ倒スコトモ難事トナルニ至レリ

歐洲戦争ニ於ケル我日本ノ地位ガ連合國ノ夫レト多少趣ヲ異ニスルカ如ク我國ノ露國ニ対スル關係モ亦地勢上連合國ノ夫レト趣ヲ異ニセリ露國ガ所謂民族自定權ノ主義ニ依リ四分五裂シテ幾多ノ小弱國トナルコトハ連合國ノ為ニハ不利益ニシテ連合國ハ露國ガ統一アル強大國トシテ東西ノ隣邦ヲ凌駕スルノ勢ヲ有スルコトヲ希望ス然レトモ我國ノ為ニハ露國ガ統一ヲ保チテ程度以上ニ強大國タルコトハ危険ニシテ寧ろ露國ハ幾多ノ小邦ニ分ルルコト有利ナリ此ノ点ヨリ云ヘハ露國ニ対スル我利害關係ハ連合國ノ夫レト背馳シテ寧ろ独逸ノ夫レト一致セリ乍併独逸ガ露國ヲ幾多ノ小邦ニ分タシメテ之ヲ自己ノ勢力ノ下ニ歸セシムルコトハ我日本ノ為大ニ危険ナルヲ以テ我國ハ極力之ヲ遮ルノ方法ヲ講スルヲ要ス之カ為我國ガ今日連合國ト共ニ露國ニ於テ独逸勢力ノ侵入ヲ防止スルコト必要ナリト雖勞農政府ガ既ニ

ヲ實現セシメ未來ノ獨立諸國ヲ支持シ以テ自己ノ勢力ヲ扶植セントスルト同時ニ又他方ニハ「ブレスト」平和條約ノ履行ヲ名トシ露國ニ連合國トノ關係ヲ全ク断タシメ露國ヲ飽迄中立國トスルコトニ決セリト云フ然ルニ其後連合國ガ勞農政府ヲシテ出来得ヘケンハ独逸ト戦ハシメ若シ此ノ事出来ストセハ少クトモ同政府ヲシテ露國內ニ侵入スル独逸ノ勢力ヲ防止セシムルヲ必要トシ此ノ目的ヲ貫クカ為赤軍編成、「ムルマン」地方防禦等ニ関シ勞農政府ト接触シテ同政府ニ援助ヲ与フルニ至ルヤ独逸ハ之ヲ「ブルスト」條約違反ナリトシテ抗議ヲ提出シ同政府ヲシテ連合國ト全ク關係ヲ断タシメ且赤軍編成ヲ中止セシムルコトニ決シテ既ニ其ノ意ヲ勞農政府ニ通シテ警告ヲ与ヘタリト云フ本件ニ関シ独逸ガ露國ニ最後通牒的ノ要求ヲ發シタルヤ否ヤ未タ之ヲ知ルニ由ナキモ勞農政府ガ独逸ノ意ヲ迎ヘ警告ニ従ハサル場合ニハ独逸ハ必ス之カ要求ヲ發スルナルヘシ此ノ場合ニハ若シ勞農政府力之ニ従ハサレハ独逸ハ更ニ軍ヲ露國內ニ進メテ要地ヲ占領スルナルヘシ又之ニ反シ勞農政府ガ独逸ノ要求ヲ容レタル場合ニ於テ若シ連合國ガ露國ニ対シ宣戰ヲ布告シタルトキハ独逸ハ勞農政府ニ援助ヲ与フルニ

独逸ノ籠ノ鳥トナリタル今日ニ於テ同勢力ノ侵入ヲ防止スルコトハ實ニ容易ノ業ニアラサルノミナラス又我國カ露國ノ内情及独逸ノ真目的ヲ詳ニセシテ下手ニ之ヲ防止セントシタル場合ニハ我ハ却テ独逸ヲ我日本將來ノ勢力範圍タルヘキ東亞大陸ニ引張り出スノ結果ヲ見ルノ危険アリ独逸ハ露國將來ノ幾多ノ小邦ヲ自己ノ勢力ノ下ニ歸セシムルノ目的ヲ有スルトシテモ一度ニ悉ク之ヲ自己ノ勢力範圍トスルヲ得サルヘシ故ヲ以テ独逸ハ先ツ自國トノ地勢的關係ニ鑑ミ自國ニ接近シタル地方ヨリ始メテ着々之ヲ自己ノ勢力範圍ノ下ニ歸セシムルノ方法ヲ講シテ不便ノ地方ハ之ヲ後廻シトスルナルヘシ独逸ガ地勢的關係上波羅の沿岸地方、「ムルマン」、芬蘭、「ウクライナ」ヲ自己ノ直接勢力ノ下ニ置キテ高加索、土耳其斯坦ヲ經テ波斯、阿富汗斯坦、「ベルチスタン」方面ニ勢力ヲ伸ハシテ伯林ヲ鐵道線ニテ印度「カラチ」ト連絡セントスルノ目的ヲ有スルコトハ明白ナリト雖独逸ガ之ト同時ニ西比利亞ヲ經テ沿黑龍地方ニ出ツルノ目的ヲ有スルコトハ疑問ニシテ縱シヤ此ノ目的ヲ有スルトシテモ独逸ハ一度ニ此ノ目的ヲ貫クノ力ヲ有セサルヘシ乍併若シ我國ガ独逸勢力ノ侵入防止ヲ名トシ西比利

匪ニ出兵スル場合ニハ独逸ハ必ス労農政府ヲ援助シ西比利
 亞ニ進軍シテ同地ニ目的ヲ達シテ新ニ勢力ヲ扶植スルニ至
 ルハキモ然ラサル限リ独逸ハ西比利亞ハ必ス之ヲ後廻シト
 スルニ至ルヘシ独逸ハ現在中央亞細亞ニ進ムノ計画中ナリ
 ト称セラルルモ未タ今日迄ハ西比利亞ニ進軍スルノ模様ナ
 シ現在西比利亞ニハ武装セル幾千ノ独逸俘虜アリト雖此ノ
 俘虜ハ独逸ノ意ニ反シテ武装シタル万国社会主義者ナルヲ
 以テ独逸ハ之カ武装解除ヲ労農政府ニ要求シタリ故ヲ以テ
 我国ガ連合国内共ニ独逸ニ對抗シテ西比利亞ニ出兵シタル
 場合ニハ独逸ハ同俘虜ヲ我ニ向ケテ對抗セシムルコトナカ
 ルヘシト雖其ノ代リニ独逸ハ目下本国ニ送遣ノ目的ヲ以テ
 「ラムスク」ニ集中セシメツアル独逸俘虜ノ送遣ヲ中止
 シ之ヲ武装シテ我ニ對抗セシムルニ至ルヘシ連合国内有ラ
 ヌル手段ヲ尽シテ独逸ニ対シ勝利ヲ制スルヲ必要トシテ我
 国ノ援助ヲ切望スルヲ以テ我国ハ連合国内誼ニ基キ連合内
 ニ援助ヲ与フルコト至当ナリト雖其ノ援助ヲシテ有効ナラ
 シムルニハ我国ハ歐洲ニ出兵スルヲ要ス我国ハ歐洲ニ出兵
 セハ連合国内ハ形勢ヲ挽回スルヲ得ヘキモ我国カ単ニ独逸ニ
 對抗シテ西比利亞ニ出兵シタル位ニテハ連合国内ハ容易ニ独

其ノ運命ヲ回復スルヲ得サルヲ以テ之ヲ意トスルニ足ラサ
 ルヲ以テ労農政府ハ三国内利益ガ互ニ衝突シ居レルヲ奇貨
 トシ之ヲ離間シテ將來臨時独逸米國孰レカ一方ト接触シテ
 大目的ヲ達スルヲ要ストアリ抑々帝國主義國タル独米ハ齊
 シク労農政府ノ強敵ナリト雖同政府ニ対シテハ君主國帝國
 主義國タル独逸民主的帝國主義國タル米國ニ比シ民主的関
 係上多少縁遠キヲ以テ同政府ハ其ノ実独逸ト接触シテ之ト
 利用シ合フヨリ米國ト接触シテ之ト利用シ合フコトヲ希
 望セリ然レトモ同政府ハ早既ニ独逸ノ擒トナリタルヲ以テ
 今ヤ米國ハ之ヲ独逸ノ手中ヨリ奪出セントシテモ容易ニ奪
 出スヲ得サルコトトナレリ然ルニ同國ハ漫然勞農政府ニ独
 逸トノ戰爭繼續ヲ強フル為独逸ノ手ヨリ之ヲ奪出スコトヲ
 益々困難ニスルニ至レリスノ如ク英仏ハ既ニ勞農政府ヨリ
 輕ンセラレ又米國ハ勞農政府ヨリ盲目政策ノ國ナリト評セ
 ラレ從テ一般ニ連合国内ハ勞農政府ヨリ侮辱セラルルニ至レ
 リ現ニ仏國大使召還要求、暗号電報禁止ノ如キハ其ノ一ニ
 シテ此ノ事ヤ敢テ必スシモ独逸ノ指圖ニ出テタルモノニア
 ラサルヘキモ畢竟露國ニ対シ連合国内態度大ニ拙キモノア
 ルニ乘シ独逸ガ勞農政府ヲ擒トシタル結果ニ外ナラス全体

逸ニ対シ勝利ヲ制スルヲ得サルヘシ加之我國ガ西比利亞ニ
 出兵セハ此ノ事ガ動機トナリテ戰爭ノ範圍ハ東洋ニ擴大シ
 動モスレハ独逸ノ勢力ハ西比利亞ニ及ヒテ同時ニ勞農政府
 ノ命脈延長スルコト等ノ危険ヲ見ルニ至ルヘシ尤モ我西比
 利亞出兵ガ連合国内援助乃至独逸勢力侵入防止ノミニアラ
 ストセハ右ノ危険ハナカルヘキモ夫レニシテモ露國民ハ我ヲ
 怨ムヘキヲ以テ出兵ハ兎角危険ナリ但シ兩交戰國ガ露國ヲ
 犠牲トシテ一般平和ヲ締結シ又ハ勞農政府ガ倒レテ列國爭
 ウテ露國領土内ニ勢力ヲ扶植セントスル場合ニ我國ガ西比
 利亞ニ出兵スルノ必要發生スルヤモ計リ難キヲ以テ他國ニ
 機先ヲ制セラレサル様予メ出兵シ置ク必要アリトノ説アル
 ヘシト雖此ノ種ノ出兵ハ利ナシ但シ大ニ形勢ニ注意シテ予
 メ十分ニ之カ出兵ノ準備ヲナスコトハ肝要ナリト雖準備ノ
 為ニ露國民ノ感情ヲ害シテ内政ニ干渉シ又ハ露國ノ一党派
 ヲ支持シテ他ノ一党派ニ對抗スルハ危険ナリ殊ニ未タ一般
 平和締結ノ模様見エサルノミナラス又勞農政府ハ今尚依然
 独逸ニ利用セラレツツアルヲ以テ此ノ際我國ハ大ニ露國ニ
 対シ慎重ノ態度ヲ要ス現在勞農政府部内ニ行ハレツツアル
 意見ニ依レハ英仏ノ運命ハ今ヤ全く尽キテ兩國ハ最早到底
 既ニ独逸ノ擒トナリテ而モ裏面ニ於テ独逸ノ利益ヲ圖ル分
 子ヲ網羅スル勞農政府ヲ援助シテ独逸ニ對抗セシメントス
 ル連合国内政策ハ營ニ拙ノ拙ナルモノタルニ止マラス又大
 ニ危険ナリ現ニ連合国内ガ「トロツキー」ニ赤軍編成ヲ援助
 セントシタルコトハ之カ好実例トス連合国内ハ赤軍ヲ外ニ向
 ケテ独逸ト戦ハセントスルニアルモ勞農政府ガ同軍ヲ編成
 スルノ目的ハ主トシテ内ニ在リテ同軍ヲ一種ノ憲兵トシテ
 所謂健全分子即チ政府反對諸派ヲ退治スルニアリ故ヲ以テ
 是迄連合国内ヲ徳トシタル健全分子ハ連合国内ガ勞農政府ニ赤
 軍編成ヲ援助スト聞キテ今ヤ連合国内ヲ怨ムニ至レリ
 斯ノ如ク露國ニ対シ連合国内態度ハ当初ヨリ大ニ拙クシテ
 而モ一定スルコトナキカ若シ連合国内ガ此ノ儘放任シテ顧ル
 所ナキ場合ニハ地勢上露國ト隣接關係ヲ有スル我日本ハ立
 場ヲ失フノ危険ヲ見ルニ至ルヘシ故ヲ以テ此ノ際我國ハ少
 クトモ西比利亞方面ニ於テハ連合国内ノ意見ニ雷同セスシテ
 慎重ノ態度ヲ旨トシ連合国内ヲシテ漫ニ露國ノ内政ニ干渉セ
 シメサルコト肝要ナルヘシ勞農政府ハ今日ノ時勢ニ在リテ
 ハ其ノ社会共產主義ヲ改メサル限リ早晚倒ササルノ運命ヲ
 有スト雖現在ハ兎モ角モ露國ノ一大勢力ニシテ而モ独逸ト

利用シ合ヒ居レルヲ以テ労働政府ヲ倒スニハ先ツ独逸ヲ滅スノ必要アリ又労働政府ハ其ノ根拠ヲ農民及労働者間ニ有スルヲ以テ同政府ガ農民及労働者間ニ勢力ヲ失ハサル限り連合国ガ同政府ヲ敵トスルコトハ即チ農民及労働者等露国民ノ大多数ヲ敵トスルコトナルナリ故ヲ以テ我国ガ連合国ト共ニ同政府ヲ敵トスルコトハ頗ル危険ナルノミナラス又之ヲ倒スハ容易ノ事ニアラサルナリ労働政府ノ本部ハ歐露ニアルヲ以テ我国ガ之ヲ倒スニハ西比利亞ニ出兵シタルノミニテハ不足ニシテ之カ為ニハ少クトモ莫斯科ニ進軍スルヲ要ス若シ然ラスシテ単ニ兵ヲ西比利亞ニ出シテ単ニ同地ヲ占領シテ労働政府ヲ倒スコトナクンハ政府反対派ハ我ヲ悪ムニ至ルヘシ尤我国ガ西比利亞ニ出兵セハ政府反対派ハ之ヲ機トシ政府ニ対抗スルニ至ルヘキモ露国ノ内情ヲ詳ニシテ而モ露国社会ノ各方面ニ味方ヲ有スル独逸ハ之ニ干渉シテ西比利亞ニ「ウクライナ」ノ二ノ舞ヲ演セシメ以テ恰モ「ウクライナ」ニ於テ連合国ガ馬鹿ヲ見タルガ如ク又我ハ西比利亞ニ馬鹿ヲ見ルニ至ルヘシ斯ル状態ナルヲ以テ未タ別ニ断乎トシテ動カスヘカラサル一定不変ノ政策ナキ限り我国ハ露国ノ内乱政争ニ干渉シ労働政府ヲ敵トシテ政

方法ヲ講スルヲ得サル場合ニハ此ノ事ガ原因トナリテ露国ニ饑饉大騒動勃発シテ其ノ結果労働政府瓦解スルニ至ルヤモ計ラレス之ヲ要スルニ戦争ガ尚今後二三年モ継続シテ其ノ区域ガ全亜細亞、亜米利加其ノ他ニ拡張シタル場合ニハ別問題トシテ兎モ角モ労働政府ハ自己ノ主義目的ヲ改メサル限り当然他ヨリ倒サルヘキ運命ヲ有スルモ又一方ニハ如何ナル分子ガ之ニ代リテ新ニ政府ヲ組織スヘキヤ未タ全ク明白ナラサルト同時ニ又他方ニハ案外労働政府カ其ノ実利派ノ主張ニ基キ其ノ主義目的ヲ改メテ所謂「ブルジョア」ト化シテ連合国ニ承認セラルルニ至ルノ奇蹟ナキヲ保シ難キヲ以テ此ノ際我国ハ少クトモ形勢明白ナル迄ハ中立ノ態度ニ出ツルヲ要ス

本官ノ見ル所ヲ以テスレハ我国ハ地勢上西比利亞ニ特殊ノ多大ノ利害關係ヲ有スルヲ以テ露国ガ若シ四分五裂トナル場合ニ他国ヲシテ西比利亞殊ニ「イルクーツク」以東ニ勢力ヲ扶植セシムヘカラス之カ為我国ハ西比利亞ニ於テ替ニ独逸ノ勢力ノ侵入ヲ予防スルノミナラス又之ト同時ニ連合国ノ侵入ヲモ之ヲ防止スルコト肝要ナリ故ヲ以テ我国ハ西比利亞ヲ成ルヘク内外政争ノ巷トナサスシテ外国人ヲシテ

府反対派ヲ支持スルコトハ我国将来ノ為危険ナリ故ヲ以テ我国ハ一方ニハ地理的關係上我国ガ西比利亞ニ特殊利益ヲ有スルコトヲ顧慮シテ連合国トノ誼ヲ重ンスルト同時ニ又他方ニ於テハ形勢ノ明白スル迄ハ一切露国ノ内政ニ干渉スルコトナク労働政府ヲ味方トモセス又之ヲ敵トモセスシテ主トシテ中立ノ態度ニ出テテ時機ヲ待ツコト肝要ナルヘシ労働政府部内ニ於テ自己ノ命脈ヲ延ハシテ世界の革命ヲ運動スルノ目的ヲ以テ兩交戦国ハ戦争ヲ継続シテ之カ範圍ヲ印度ニ拡張スルモノトシテ自己ノ運命ヲ樂觀スルモノ多シト雖又愛蘭事件ニテ既ニ困リ居レル英国ハ独逸ガ印度ニ進軍スル前ニ一般平和ヲ提議スヘク此ノ場合ニハ兩交戦国ハ直ニ労働政府ヲ倒スニ至ルヘシトシテ自己ノ運命ヲ悲觀スルモノ鮮カラス斯ノ如ク同政府部内ノ悲觀論者ハ一般平和ヲ縮結ヲ以テ自己ノ運命尽タルノ日ナリトスルモ其ノ前ニ露国内ニ於テ意外ノ事変突発シテ労働政府ノ命脈尽キストモ保シ難シ現ニ独逸ガ露国ノ穀倉タル「ウクライナ」地方ヲ占領シタルヲ以テ全国ニ於ケル穀物ノ欠乏ハ非常ナルモノニシテ都市村落ノ住民ハ悲惨ナル状態ニ在リテ露国ハ全ク饑饉ノ状態ニ在リ故ヲ以テ若シ労働政府ガ之ヲ救済スルノ

西比利亞ニ注意ヲ向ケシメサルノ策ニ出ツルノ必要アリ我
国ハ西比利亞ニ出兵スルコトハ少クトモ今日ノ場合ニ於テハ独逸勢力ノ侵入ヲ防止スルコトトナラスシテ反対ニ独逸ヲ西比利亞ニ誘出スノ危険アルト同時ニ又連合国ヲシテ西比利亞ニ喙ヲ容レシムルニ至ルノ不利アリ我国ガ西比利亞ニ出兵セハ戦争ノ区域ハ忽チ太平洋沿岸迄拡張シ此ノ場合ニ労働政府ハ独逸ト共ニ我国ニ革命ヲ起サスノ目的ヲ以テ我国民ヲ煽動スルニ至ルヘシ又我国ガ連合国ト共ニ漫リニ西比利亞ニ独立政府ヲ組織セシムルハ利不利ニシテ若シ愈々之ヲ組織セシムルノ必要アル場合ニハ我国ハ専ラ自ら主トナリテ之ヲ組織セシムルヲ要ス然ラスンハ西比利亞ハ連合国共同勢力ノ下ニ立ツニ至ルヘシ労働政府ガ西比利亞ニ注意ヲ払フコトハ我国ノ為ニハ不利ナルヲ以テ我国ハ成ルヘク同政府ヲシテ西比利亞ニ注意ヲ向ケシメサランカ為連合国ヲシテ西比利亞ノ内政ニ干渉セシメサルコトトスルコトヲ要ス然ルニ其ノ後連合国ガ浦塩ニ軍艦ヲ派シ憲法會議擁護其ノ他政府反対派ト接触シ直接又ハ間接ニ「セメノフ」軍ニ援助ヲ与ヘタルコト等ノ為労働政府ハ西比利亞ニ注意ヲ払ヒ糅テテ加ヘテ我国ガ西比利亞ニ出兵スヘシトノ風説

伝ハルニ至リタルカ為同政府ハ極東ニ多大ノ注意ヲ払ヒ以テ今日アルニ至レリ極東ガ多事ニナルコトハ我国ノ為大ニ不利益ナリ殊ニ若シ独逸ガ印度ヲ征スル場合ニハ我国ハ日英同盟ニ依リ印度ニ出兵シテ英国ニ援助ヲ与ヘサルヲ得サルニ至ルヘキヤモ計リ難キヲ以テ此ノ際我國ハ成ルヘク西比利亞ヲ泰平無事ノ別天地トシテ保存セシメ置クコト必要ナリ然レトモ露國ノ内政又ハ歐洲戰爭ノ模様如何ニ依リテハ何時西比利亞ニ出兵スルノ必要發生スルニ至ルヤモ知レサルヲ以テ我國ハ此ノ場合時機ニ後レテ機会ヲ逸セサル様大ニ注意シ以テ何時ニテモ出兵ノ出来得ル様準備シ置クコト肝要ナリ併シ之カ為露國ノ内政ニ干渉スルコトハ危険ナリ

在露代理大使へ郵報セリ

二七四 五月二十五日

在モスコイ熊崎總領事代理ヨリ
後藤外務大臣宛

独逸ノ西部西比利亞鐵道租借ノ計画ニ関スル

情報ニ付探查中ナル旨報告ノ件

第三六一号(郵送)

(八月二十八日接受)

貴電第一〇五号ノ件ニ関シテハ兩三日前当地米國領事本官

更ニ慎重探查ノ上報告致スベシ

尚「カラハン」等ニ質問ノ為上田貴電接到前二十四日夜露都ニ向ヒ目下不在ナルモ二十八日帰來ノ筈ニ付其上直チニ取計フベキ筈ナリ

在露大使へ電報セリ

註 五月二十三日外務大臣宛第一〇五号電報ハ独逸ガ西部西比利

亞鐵道租借計画中ナル旨ノ情報ノ真否確メ方訓令セルモノナリ

二七五 五月二十七日

在モスコイ熊崎總領事代理ヨリ
後藤外務大臣宛

独逸ノ西部西比利亞鐵道租借計画ノ情報ニ関シ

「ロックハート」ノ談話報告ノ件

第三六八号(郵送)

(八月二十八日接受)

(一) 往電第三六一号ニ関シ米國領事ガ得タル独逸ノ西比利亞鐵道ノ一部租借計画情報ノ根源ハ「イルクーツク」及「クラスノヤルスク」ニ於ケル米國側出張員ガ同地方ニ於ケル風説トシテ聞込メルニアル由同領事ヨリ内聞セリ

(二) 本件ニ関シテハ二十七日「ロックハート」ニ面会シ米國領事ヨリ前項ノ情報ヲ聞キ且東京ニモ同情報達シ居ル模

ニ対シ独乙ガ「エカテリンブルグ」ヨリ「イルクーツク」迄ノ鐵道ヲ租借セントスルヤノ情報ヲ得タルニ付過激派ニ非ル勞農政府鐵道技師ニ就キ尋ネタルニ同技師ハ現交通委員「コブジエ」ハ親独派ナルヲ以テ右ハ随分有り得ベキ事ナリトノ意見ナリシモ事實ヲ確メ得ズ云々ト語レル事アルヲ以テ本官ハ爾來右情報確メ方注意中ノ処昨二十四日前記貴電アリタルヲ以テ二十五日更ニ其後確メタル事実アリタルヤ否ヤヲ尋ネタルニ同領事ハ二十三日「チチェリン」ニ面会

ノ際右租借計画ノ真否ヲ問ヒタルニ「チチェリン」ハ笑ヒテ其事實無根ナルヲ述べ其態度詐リ無キ様見受ケラレタリ或ハ「チチェリン」ハ實際スカル計画ノ存在ヲ知ラザルヤモ知レズ更ニ探查ノ積リナリト云ヘリ

右「チチェリン」ガ斯カル計画ヲ知ラザルベシト云フハ一見不可思議ノ如ク見ユベキモ勞農政府各部ノ連絡ハ極メテ不完全ニシテ又「チチェリン」ハ同政府ニ於テ格別有力ノ人物ニ非ズ從テ万事「レーニン」ノ独裁ニ依ル模様ナル勞農政府ニ於テ「チチェリン」ガ實際スカル計画ヲ知ラザルコトハ相当有り得ベキ事ナルト同時ニ其ノ知ラザルコトハ必ズシモ計画其者ガ存在セザル証左ト見難シト存ズ本官ハ

様ナルガ何等知ル所ナキヤト問ヘルニ同氏ハ何等知ル所ナキモ精探ノ上判明ノ点ハ本官ニ内報スヘシト約セリ尚同氏ノ意見ニテハ勞農政府ニシテ斯ル特權ヲ独逸ニ与フルトセハ是レ直ニ連合側ノ干渉ヲ誘起スヘキモノナレハ同政府ハ之ヲ敢テスマシト思ハルルモ近頃勞農政府ト独逸トノ關係頓ニ接近セルニ徴シ何等カノ目的ヲ以テ独逸技師ガ西比利亞ニ派遣セラルルカ如キコトハ有り得ヘシトノコトナリ

(三) 尚本官ガ在露大使宛往電第一〇二号所載「ロックハート」意見ニ談及シタルニ対シ同氏ハ同電所載ノ意見ヲ繰返シ連合側トシテハ勞農政府承諾ノ有無ニ関セス干渉スルコトヲ一刻モ猶予スヘカラスト力説セリ

在露代理大使へ電報セリ

二七六 五月二十九日

在モスコイ熊崎總領事代理ヨリ
後藤外務大臣宛

亞細亞課長「ウオズネセンスキー」上田領事

ニ対シ独逸ノ西部西比利亞鐵道租借計画ニ関

スル風説ノ無根ナル旨及其出所ニ付談話ノ件

第三七六号(郵送)

(八月二十八日接受)

貴電第一〇五号ニ関シ廿九日上田ハ「ウズネ」ニ面会シ同

電ノ情報ニ付尋ネタル処同人ハ独逸ガ露都「イルクーツク」間ノ鉄道ノ管理權ヲ得タリトノ風説ハ事実無根ナリ勞農政府ニ於テハ其ノ内公然之ヲ否認スルノ考ナリ独逸ハ未タ斯ル要求ヲ提起セサルノミナラス又假令之ヲ提起スルモ勞農政府ハ容易ニ之ニ同意セサルヘシ同風説ハ莫斯科ニアル仏國人側ヨリ出テ日支兩國ニ伝ヘラレ夫レヨリ欧米ニ電報セラレタルモノニシテ仏國側ガ斯ル風説ヲ放チタル目的ハ米國ノ發意ニ依リ露國ノ内政ニ全ク干渉セスシテ露國ニ對シ財政經濟上ノ援助ヲ与フルコトニ関シ華盛頓ニ於テ交渉セラレツツアリシ英米兩國間ノ了解ノ成立ヲ妨ケテ連合側ヲシテ飽迄露國內政ニ干渉セシメントスルニアリト思考スト語レリ

在露代理大使へ電報セリ

二七七 五月三十一日

在米國石井大使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

過激派政府ニ對スル米國政府ノ態度報告ノ件

第二八四号

(六月二日接受)

五月三十一日当地新聞ニ在露米國米大使ハ國務卿ノ訓令ニ拠リ「米國ハ幾度カ西比利亞ニ於ケル反過激派団体ヨリ援

後全ク不明トナレガ彼ノ与党ニシテ米國ニ在留スルモノノ尠カラサルモ彼ガ政權ヲ握リ居リシ當時陸海軍士官選舉制ヲ設ケタルコトハ痛ク旧軍人連ノ感情ヲ害シ今日尚彼ニ崇リ居レハ彼力再起ハ覺東ナカルヘシトナスモノアリ(仏大使)、亦彼ハ「トロキー」等過激派ノ羽翼未タ成ラサル間ニ之ヲ殺スノ果斷ヲ欠キ却テ彼等ノ意ヲ迎ヘ死刑廢止ヲ行ヒタルカ如キ勇氣ニ乏シキ人物ナレハ露國今日ノ難局ニ當ルノ器ニアラストナスモノアリ(國務卿)、何レニシテモ彼ノ前途頼ミ少キカ如シ

次ニ目下「チエック」民族ノ輿望ヲ双肩ニ荷フト称セラルル「マサリク」ハ過日米當國ニ在リ沈着ニシテ深慮アリ信賴スルニ足ル人物ナルヤニ見受ケラルルモ彼ハ何故カ露國過激派ニ望ヲ囑シ之ヲ争フヲ好マスト語リタル趣ニテ為ニ一部人士ノ好意ヲ失ヒタリト称セラル
要スルニ露國救済策トシテハ「セメノフ」ノ利用最捷徑ナ
ルヘシトノ感想徐々ニ各方面ニ現ハレツツアルカ如シ
在歐洲各大使へ電報セリ

助ヲ求メラレタルモノヲ無視シタリ殊ニ「セメノフ」ヨリ米國技師ノ援助ヲ請ヒタルニ對シ之ヲ拒絕シ技師ニハ其ノ申込ニ応スヘカラサル旨訓令セリ露國ガ好シテ独塊ノ「ワートクラチック、ドミネーション」ニ服セサル限米國ハ露國ニ對スル友好的態度ヲ變セサルベシ」ト声明セル旨ノ「ウォログダ」電報ヲ掲ケタリ右ハ曩ニ在浦塩米國領事カ反過激派団体ヲ援助セリトノ批難アリタルニ對シ五月九日國務卿ヨリ正誤ノ為訓令ヲ發シタルニ基クモノナリト云フ米國政府ハ初メ赤十字派遣員「ロビンズ」ノ言ニ傾聴シ過激派ハ其ノ基礎ノ鞏固トナルニ從ヒ漸次國家ノ觀念ト責任ヲ自覺シ穩健ナル政綱ヲ採ルモノト信シ其ノ將來ニ望ヲ繫キシガ如クナリシモ其ノ後彼等ノ為ス所米國ノ期待ニ副ハス國務卿ノ如キ既電ノ通過過激派ハ社会組織ト相容レサル政綱ヲ有スルノミナラス独逸ノ金ニ使ハルル無智ノ輩ニシテ到底頼ムニ足ラストナスニ至レルカ如シ故ニ前記訓令當時ハ過激派ト「セメノフ」トノ關係ニ對シ寧ろ過激派ニ重キヲ措キタルヤノ觀アリシモ今日ニ於テハ窃ニ「セメノフ」發展ヲ期待スルニ非サヤト惟ハルル節アリ
又過日米來セリトノ噂アリシ「ケレンスキー」ノ行衛其ノ

二七八 五月三十一日

後藤外務大臣ヨリ
在米國石井大使宛(電報)

過激派政府ニ對スル米國政府ノ態度ヲ國務長

官ニ問合方訓電ノ件

第一四九号

五月二十一日倫敦「タイムズ」ニ掲載ノ華盛頓電報ニ依レハ米國ハ勞農政府ノ請求ナキ限り日本並其ノ他ノ与國モ露國ニ於テ何等干渉ノ行動ニ出ツヘカラス又勞農政府ニシテ此ノ請求ヲ為スノ意アラハ米國ハ率先シテ同政府ヲ承認スヘシトノ意向ナルヤニ見エ右新聞電報ハ今ヤ世人ノ深甚ナル注意ヲ惹クニ至リタル処(珍田大使來電第三七〇号)元來勞農政府ノ主張スル政治上ノ主義如何ハ固ヨリ連合國側ニ於テ之ヲ問フヲ要セスト雖同政府力從來國際上ノ誓約及信義ヲ全然無視セル幾多ノ実例ニ徴スルニ假令同政府ニ於テ連合國側ニ干渉ヲ請フコトアリトスルモ其ノ誠意ハ到底信ヲ措クニ足ラス又同政府力現ニ露國內諸地方ニ於テ政權ヲ維持スルハ畢竟暴力ニ因ルモノニシテ何等民意ヲ代表スルノ実ナキニ顧ミ若シ連合國側ニ於テ之ヲ協調ヲ保チ行動ヲ開始スルトキハ其ノ目的カ独逸ノ侵略ニ對シテ露國ヲ防護ス

ルニ在ルニ拘ハラス事実上過激派ノ地歩ヲ鞏固ナラシムヘキヲ以テ多数露国人ノ反感ヲ招クヲ免レス此ノ情勢ハ米國政府ニ於テモ十分諒悉スル所ナルヘク國務長官亦最近貴官トノ内話中「レーニン」及「トロツキー」ヲ独逸ノ手先ト極言セルヲ以テ見レハ米國政府カ右兩人ヲ中樞トスル勞農政府ニ臨ムノ態度ヲ察スルニ難カラス從テ前記新聞電報ハ米國政府ノ意向ヲ示スモノニ非スト了解セラルルモ今後對露方針ヲ定ムルニ重大ノ關係ヲ有スル問題ナルカ故ニ貴官ハ成ルヘク速ニ國務長官ト会見ノ上本件米國政府ノ意向ヲ確カメラレタシ

追テ貴電第二七五号ニ依レハ伊國ハ過激派ヲシテ西比利亜出兵ヲ与國ニ請ハシムルノ策ヲ採ルヲ有害無益ナリトシ米國ハ伊國ノ意向ニ贊同スル趣ナル処右米國ノ態度ニ関スル貴官ノ觀測ハ如何ナル情報ニ基クモノナリヤ御電報アリタシ

二七九 六月一日 在米國石井大使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

過激派政府ニ對スル米國政府ノ態度ニ付報告ノ件

意向ト一貫スルカ故本使ノ所信ヲ固ウセリ尚本件ニ付重ねテ研究ノ上電報スヘシ

二八〇 六月六日 在本邦英國大使館ヨリ
日本外務省宛

勞農政府ノ請求アレハ米國ハ率先出動スルナ

ラントノ倫敦タイムズ華盛頓特派員電報ニ閱

シ「バルフォア」外相ノ意見通報ノ件

MEMORANDUM.

Confidential.

On June 1st Mr. Shidehara informed His Majesty's Ambassador that Viscount Ishii had been instructed to inquire of the United States Government as to the truth of a report telegraphed by the "Times" Correspondent at Washington on May 21st that "in the event of a Bolshevik invitation being given to the Allies to intervene, the United States Government would be the first to go in."

Mr. Balfour states in reply that he has no reason to believe in the truth of the report, nor does he know upon what authority the "Times" correspondent telegraphed this statement. In the opinion of Mr.

第二八八号 (六月三日接受)

貴電第一四九号ニ関シ「タイムズ」通信ハ本使ノ信シ能ハサル所ナリ國務卿ハ本使ニ二度迄モ過激派ハ毫モ頼ムヘカラスト云ヒタレハ彼ノ態度ハ明瞭ナリ只大統領ノ心理状態如何ハ直接談話ノ機會ヲ得サル為本使モ英仏伊大使モ共ニ知ルニ苦ム所ナリ本使ハ不相變曩ニ電報シタル理由ニ依リ大統領ニ西比利亜問題ニ付意動ケルモ態度變更ノ申訳ニ適當ナル新事実ノ發生セサル為努メテ沈黙ヲ守ルモノト觀察ス英仏大使ガ正面ヨリ米國政府ニ對シ態度ノ明示ヲ迫ルトキハ國務卿ハ大統領ノ旨ヲ奉シ常ニ注視自重(「ウォッチフル、レザーブ」)ノ二語ニ匿レテ明言ヲ避クル為仏大使ノ如キハ大統領ノ「ウォッチフル、レザーブ」ハ確定意見ナシトノ自白ニ齊シキコト墨西哥事件ニ徴シテ知り得ヘシト迄本使ニ耳語セルコトアリ

次ニ過激派ニ涉リヨ附ケントル英政府ノ措置カ有害無益ナリトハ伊國大使ノ本使ニ明言セル所ニシテ米國政府カ伊國ノ説ニ贊同スル傾アリトハ第一國務次官カ本使ニ向ッテ「吾人ハ伊國ノ説當ヲ得タルモノト思考ス」ト云ハレタルヲ根拠トス次官ノ此ノ言ハ國務卿ガ本使ニ繰返セル對過激派

Balfour the Imperial Japanese Government would be best able to ascertain from the Japanese Ambassador in Washington the source from which the "Times" Correspondent derived his information.

British Embassy,
Tokyo.
June 6, 1918.

(右和訳文) (註 仮訳文ナリ)

聯合國ノ露国干渉ニ関スル「タイムズ」通信
ニ関スル千九百十八年六月六日附在本邦英國
大使館覺書

六月一日幣原外務次官ハ英國大使ニ對シ五月二十一日在華盛頓「タイムズ」通信員發シ過激派ヨリ聯合國ノ干渉ヲ招請スルニ於テハ米國ハ先頭第一ニ之ニ参加スヘシト云ヘル報道ノ真否如何ヲ米國政府ニ確メ方石井大使ヘ訓令シタル旨語ヲレタリ

右ニ関シ「バルフォア」外相ハ該報道ヲ信憑スヘキ何等ノ理由ヲ有セス又「タイムズ」通信員カ如何ナル根拠ニ基キ該報道ヲ發シタルヤヲ知ラサル旨同外相ヨリ回答シ越セリ尚同外相ハ日本政府ハ華盛頓駐在日本大使ヲシテ探知セシ

ムルニ於テハ該報道ノ出所ヲ最良ク確ムルヲ得ヘシトノ意見ナリ

二八一 六月十九日 後藤外務大臣ヨリ
在英國珍田大使宛(電報)

勞農政府ハ独逸ノ西比利亞鐵道租借計畫ノ風説ヲ否認シタル旨在本邦英國大使ヨリ内報アリタルニ付通報ノ件

第三一一号

往電第二六一号ニ関シ「ロックハート」ノ報告ナリトシテ在本邦英國大使ノ内告スル所ニヨレハ過激派政府ハ右風説ヲ否認シ之ヲ以テ反過激派ノ捏造ナル旨宣明シタル由ナリ尚「ロックハート」ハ過激派ハ連合ヨリ干渉ノ噂アルニ顧ミ浦塩ニ至ル迄ノ鐵道ヲ破壊スル為内密ニ独逸ノ援助ヲ受諾スルヤモ計ラレスト附言シタリトノコトナリ
右在欧米各大使莫斯科へ転電アリタシ

註 五月二十四日外務大臣宛第二六一号ハ在莫斯科熊崎總領事代理宛第一〇五号(前掲同總領事代理五月二十五日宛第二六一号ノ註参照)ヲ珍田大使ノ参考ノ為転電セルモノナリ

二八二 六月十九日 在英國珍田大使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

勞農政府ヨリ日本へ公使派遣、通商、漁業諸條約ノ繼續又ハ改正、日本ニ西比利亞ニ於ケル利権許与ヲ提案セル旨在モスコ熊崎總領事代理ヨリ外務大臣へ報告ノ件

第四四一号

(六月二十日接受)

在莫斯科熊崎總領事代理宛外務大臣宛電報第四一〇号昨夜「オズネ」ハ急用トテ上田ヲ訪問シタルモ不在ナリシ為今朝上田ハ同人ヲ訪問シタルニ同人ハ上田ニ左ノ如ク語レリ

自分ハ政府ノ内命ヲ以テ左ノ三点ニ付君ニ内々本國政府ニ問合セ貰ウ為訪問シタル次第ナリ

一、勞農政府ハ此度日本及支那ニ公使(代表者)ヲ派スルコトニ内決シ支那ニハ「ポポフ」、日本へハ多分最初ノ間鳥渡自分赴任スルコトニナルヤモ計リ難シ就テハ日本政府ハ自分又ハ他ノ者ガ公使トシテ日本ニ入ルコトヲ許サルルヤ否ヤ

二、勞農政府ハ日本トノ親交ニ鑑ミ通商、漁業、諸條約ヲ

ナルコトハ疑ナカル可シ其証拠ニハ「オズネ」ハ為念「カラハン」ニ確メ貰ヒテモ差支ナシト上田ニ語リタル趣ナリ然シ上田ノ印象ニ依レバ勞農政府ガ日本ヲ恐ルルノ結果日本ト聯合國トヨ離間セシメテ如何ニカシテ日本ヲシテ聯合國ト態度ヲ異ニセシメント欲スルヲ以テ「オズネ」ノ右問合セモ一種ノ離間策タルヤモ計リ難シト思ハルトノコト也

二八三 六月二十一日

在浦潮菊池領事ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

在露英國非公式代表「ロックハート」對露干涉急速断行ノ必要ヲ本國政府へ稟申ノ件

第三五九号

(六月二十二日接受)

二十一日英國領事カ本官ニ語ル所ニ依レハ在莫斯科英國政府代表者「ロックハート」ハ本國政府ニ対シ独逸ノ勢力ノ圧迫ハ日々切迫シツツアリテ (German war closing in from every side) 各國カ今後十日以内ニ干渉ヲ断行スルニアラサレハ遂ニ永ク干渉ノ機ヲ逸スヘキ趣意打電セルヲ同領事へ転電アリタル趣

二八四 六月二十七日 後藤外務大臣ヨリ
在英國珍田大使宛(電報)

勞農政府ノ日本へ公使派遣條約締結等ノ提案
ニ対スル措置振ヲ在モスコ―上田へ訓令ノ件

第三三八号

在莫斯科熊崎總領事代理へ左ノ通り転電アリタシ

第一一八号

貴電第四一〇号ニ関シ上田へ左ノ通り

「ウオズネ」カ貴官ニ内話シタル三件殊ニ公使接受條約締結ノ如キ要スルニ現露国政府ヲ承認シタル上ナラテハ何レモ実行シ難キ問題ナリ即チ之カ先決問題トシテ先以テ承認問題ヲ決セサルベカラサル次第ナリ然ルニ右承認問題ハ聯合國ノ一員タル帝國トシテ単独ニ決スヘキ問題ニ非サルノミナラズ帝國政府ノ見ル所ニテハ從來勞農政府ノ行動ハ与國ノ承認ヲ得ルニ対シ反对ノ方向ニ逆行シツツアルモノト認メラル現ニ勞農政府ハ外国又ハ外国人ノ正当ナル權利利益ヲ保護スヘキ国家当然ノ義務ヲ遂行セス例へハ外債ノ廢棄サヘ之ヲ宣言シテ顧ミサルノ実況ナリ日本ハ露国ニ同情

「チェク、スロワク」事件ハ勞農政府ニ対スル大打撃ニシテ同事件カ原因トナリテ近々勞農政府ニ變動アルヤモ計リ難シ同事件ヲシテ今日ニ至ラシタルハ全ク「トロツキー」ノ罪ナリ英仏連合國ガ「チェク」ヲ西比利亞經由仏國戰線ニ送ルト称シ極東ニ送り同地ニ於テ之ヲ「セメノフ」軍ト一団トスルノ目的ナルコトハ当初ヨリ明白ナリシヲ以テ政府部内ニ於テハ連合國ノ希望ヲ容ルルコトニ反对アリシモ「トロツキー」ハ之ニ同意ヲ与ヘタリ然ルニ其後ニ至リ一方ニハ「チェク」カ貝加爾以東ニ至リテ政府反对派ノ軍ニ加担シタル確ナル証拠發見セラレタルト同時ニ又他方ニハ独逸カ條約ヲ楯ニ取りテ「チェク」ニ武装解除ヲ要求スルニ至リタルヲ以テ「トロツキー」ハ之ニ屈服シテ武装解除令ヲ下シタルガ連合國ハ之ニ対シ抗議ヲ申込ミ茲ニ於テ勞農政府ハ全ク板挾トナルニ至レリ勞農政府ハ既ニ独逸ヨリ急所ヲ押ヘラレ居ルニ加ヘ英仏連合國ヲ意トセサルヲ以テ一モ二モナク独逸ノ要求ヲ容ルルノ外ナク從テ連合國ハ日本ヲ味方ニ有シテ而カモ露國ガ独逸ノ要求ヲ容ルル場合ニハ日本ヲシテ西比利亞ニ出兵セシムヘキ為勞農政府ハ日本ヲ怖レ連合國ノ抗議ヲ拒ムコトニ大ニ躊躇シタリ併シ独逸

ヲ寄セ其ノ改革事業ノ成效ヲ冀フノ誠意ニ於テ終始渝ラスト雖勞農政府ノ施政カ恰モ國際間ノ義務ヲ履行スルノ意思ト兩立セサルカ如キ觀ヲ呈スルニ至リテハ日本政府ニ於テ今回「ウオズネ」申出ノ事項ヲ考量スルニ方リ不安ノ感ナキ能ハス就テハ貴官ハ「ウオズネ」ニ対シ貴官一己ノ意見トシテ淡泊ニ以上ノ趣旨ヲ開陳シ勞農政府ハ果シテ今後國際間ノ義務ヲ履行スルノ意思ヲ有スルヤ貴官ハ先ツ此ノ点ニ関シ同政府ノ方針ヲ承知セムコトヲ希望スル旨ヲ申入レラルヘシ

二八五 七月六日 在英國珍田大使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

チェック兵武装解除ニ関シ勞農政府ハ独逸、
聯合國兩者ノ板挾ノ窮境ニアルノ旨亞細亞課
長「ウオズネ」センスキ―ノ談話在モスコ―
熊崎總領事代理ヨリ報告ノ件

(七月八日接受)

第五二三号
在莫斯科總領事代理發貴大臣宛電報
第四四四号 六月十五日發
昨十三日「ウズネ」カ上田ニ談話シタル要領左ノ如シ

ハ露國ヲ脅スニ至リタル以テ勞農政府ハ断然右抗議ヲ斥ケテ「チェク」ノ武装ヲ解クコトニ決スルニ至リタリ乍去政府ハ未タ歐露二十分ノ兵力ヲ有セスシテ「チェク」ヲ強制スルニハ「イルクーツク」以東ニ在ル軍隊ヲ西方ニ向ケサルヲ得サル次第ナルガ此ノ場合ニハ連合國ガ日本ヲシテ西比利亞ニ出兵セシムルノ危険アルヲ以テ政府ハ之ヲ強制スルコトニ大ニ苦心シ居レルモ閣員ノ多数ハ今後二週間ヲ経バ「イルクーツク」以東ノ兵ヲ動かサスヲ要セスシテ強制ヲ加フルヲ得ルニ至ルヘント樂觀シ居レルモ自分ハ之ヲ悲觀シ居レリ斯ノ如ク勞農政府部内ニハ「チェク」ニ武装ヲ解カシムルコトハ左程困難ニアラストスルモ此ノ場合ニハ日本ガ連合國ニ抛ロナクセラレテ出兵スルニ至ルノ危険アルヲ以テ「トロツキー」ハ「チェク」武装解除令ヲ下シタルニ拘ラス英仏米連合國ニ倚リテ之ト妥協シテ穩便ニ難問ヲ解決スヘシトノ意見ヲ主張スルニ至レリ乍併此ノ場合ニハ独逸ハ露國ヲ脅スヘキヲ以テ「レーニン」ハ連合國(脱)コトヲ危険ナリトシテ之ニ反对シ閣員ノ多数ハ「レーニン」ノ説ニ賛成スルニ至レリ斯ノ如ク「トロツキー」ノ説ハ政府部内ニ無力ナルモ同人ハ近来糧食欠乏關係ヨリシテ農民及

労働者間ニ労働政府ニ不満ヲ懷クモノ次第二増加シ殊ニ西比利亜農民ガ今回ノ農村貧民委員会(往電第四三四号無産農民ヲシテ有産農民ノ奪取セシムル制度)及動員令(往電第四三三号)ニ反対ナルヲ機トシ社会革命党左派ト氣脈ヲ通シ「チェク」事件ノ責任ヲ「レーニン」ニ歸セシメ彼ヲ辞職ノ已ムナキニ至ラシメントシツツアルモ「トロツキー」ハ既ニ過激派内ニ全ク信用ヲ失ヘルヲ以テ「レーニン」辞職スルモ政府ガ依然過激派ヨリ成ル以上ハ「トロツキー」ハ総理タルコトハ勿論留任ダニ困難ト見ルヘシ社会革命党入閣ニ依ル政府改造ノ場合ニノミ留任スルコトヲ得ヘシ要スルニ労働政府ハ目下板挟ノ窮境ニ在ルヲ以テ同政府ハ独逸ト連合國ト間ヲ切抜クルニハ内閣交迭ハ已ムヲ得サルヘシ如何ナル人物ガ労働政府ヲ組織スルヤ未詳ナルモ多分「ルナチヨルスキー」「ラーリン」「ジトセエフ」等過激派中ノ穏和分子ナルヘシ其ノ場合ニハ独露関係係現狀ノ儘ナルヘキモ社会革命党左派及過激派中ノ急進分子政府ヲ組織ノ場合ハ独露関係破裂ニ至ルヘシ

在欧米各大使へ転電セリ

モ思ハル旁々以テ貴官ニ於テ前記大臣電訓ニ從ヒ適當ノ地(例ヘバ「アルハンゲリスク」)ニ避難セラルルノ時機既ニ到達シ居レリト認メラル、御参考迄申進ズ、本電大臣へ転電済、尚愈々御立退ノ際ハ英仏無線電信ニテ其旨電報有リ度シ

丸毛代理大使へ転電有リ度シ

二八七 八月一日 在仏国松井大使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

在ヴオログダ外交団引揚、露国内チェック軍

ノ活動等ニ関スル在モスコイ総領事代理ノ報

告転電ノ件

第三六二号 (八月三日接受)

在莫斯科総領事代理宛大臣宛電報

第四九四号

一、「ヴォログダ」外交団ハ予定ヨリ一日遅レ二十四日夜半出発「アルハンゲリスク」ニ向ヒタルガ二十六日「カンダラクシャ」ニ移転セリ

二、労働政府ハ外交団ノ引揚ヲ以テ聯合國トノ関係断絶ヲ意味スルモノニ非ズトシ将来聯合國トノ関係ハ在莫斯科聯

二八六 七月二十七日 在英国珍田大使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

日本ノ浦潮出兵切迫ニ鑑ミ熊崎総領事代理モ
スコイ立退然ルベキ旨ノ同代理宛電報転電ノ

件

第五六四号

本使宛在莫斯科熊崎総領事宛電報

第一一二号

貴官宛大臣電訓第一二六号ニ関シ時局ニ関シ其後大臣ヨリ接到ノ電報ハ隨時貴官へ転電シ居レドモ此際ノコト故或ハ殆ド全部不著ト想像セララルル処浦潮方面ニ対スル帝國軍隊ノ出動ハ最早ヤ目前ニ差迫リ居ルノミナラズ形勢ノ發展ニ依リ帝國ハ尚単独ニ西比利亜ニ出兵ヲ断行スル筈ナリ各方面ノ情報ニ依ルニ(一)労働政府ハ「ムルマン」方面聯合側ノ行動ニ対シ強硬ノ抗議ヲ提出シ飽迄聯合側ニ反抗ノ意氣込ヲ示シ居ルノミナラズ、(二)独逸ハ今回前内務大臣「ヘルウエリッヒ」ヲ在莫斯科大使ニ任命シ同大使ハ護衛ノ名義ノ下ニ二個大隊ノ軍隊ヲ帶同シテ赴任スベシトノコトニテ其結果莫斯科ハ独逸ノ占領ニ歸シタルト同一ナルベキカト

合國代表者ヲ通シ繼續スベク又「アルハンゲリスク」ニ聯合國軍上陸スル場合ニハ強硬ニ抗議スベキモ之ガ為メ関係破裂スルニ至ラザルモ……同政府ノ地位トシテ……政府……トキハ対独乙及対内關係ニ於テ益無キヤヲ顧慮……ラ

三、聯合國領事及大使ハ……出来得ル限り……シ居ルモ大公使館附武官以外ノ聯合國軍人ハ其際引揚グル筈ニテ便宜供与方外務部ニ交渉セルニ外務部ハ主義上直チニ同意シタルモ右軍人ノ數ハ相当多数ニテ(約二百)其実行方法ニ付別ニ協定ノ筈大公使館附武官ノ進退ハ差当リ未定労働政府ハ大公使館附武官ガ引続キ残留ノ場合ニモ又遂ニ引揚ノ場合ニモ其外交官の特権ヲ尊重スベキ旨同意シ居レリ

四、往電第四八六号独乙大使館護衛兵問題ニ就テハ「チチエリン」ハ其後未決ト唱ヘ居ルモ「オズネ」ノ内話ニ依レバ同館護衛ハ結局手兵ヲ廢シ元俘虜タリシ独乙兵百名之ニ當リ又米仏側ノ報道ニ依レバ右独乙兵ハ新ニ独乙ヨリ来レル者ノ一部ニシテ残余ノ部隊モ近々來着スベシト

五、労働政府ハ目下頻リニ織物ノ差押ヲ行ヒツツアル処右ハ「プカレスト」条約ニ依リ独乙ニ対スル損害賠償トシテ

同国ニ送附セラルベキモノト一般ニ認メラル右織物ノ独乙ニ送附セラル、ヲ防グ為メ英米仏側ノ組織トシテ Goods Exchange Company ハ露国産業組合ヲ援助シ織物ヲ買収シ農民間ニ分配セン事ニ努メツ、アリ

六、米国領事ノ内話ニ依レバ当地同国副領事一名二十六日発「サラトフ」ニ向ヘルガ其任務ハ「チェック」軍戦争区域ニ入り諸般ノ報告又ハ必要ナル聯絡ヲ為スニ在リ又最近「チフリリス」ヲ引揚ゲ当地ニ来レル同国領事モ近々「サラトフ」ニ向ヒ「アレキセイエフ」軍ト「チェック」軍トノ聯絡ニ尽力スベキ由

七、「チェック」軍ハ既ニ二十日頃カ「シンビルスク」ヲ占領セルガ「カザン」又次デ其手ニ落チ「エカテリンブルグ」ハ未ダ陥落セザルモ包圍サレタリトノ報アリ当地過激派ハ食糧ノ欠乏ハ「チェック」軍ノ為メナリトテ（不明）在英米伊各大使ヘ転電セリ

二八八 八月一日 在英國珍田大使ヨリ 後藤外務大臣宛（電報）

在ヴォログダ聯合國大公所ノモスコイヘノ移 転希望ヲ労働政府ヨリ申出及之ニ関スル要細

貴官モ丸毛代理大使ニ右御伝達ヲ請フ移転ノ場合ニハ多分便宜ヲ供スベシ云々

依ッテ本官ハ右伝達ヲ承認セリ、之ヨリ曩、「オヅネ」十日夜来訪今日ノ「カラハン」申出ヲ内報セルガ其際ノ同人内話左ノ通

聯合國使臣ガ労働政府ノ招請ニ応ジ来莫スルコトナカル可シ、独逸ハ露国ヲシテ聯合國ト断絶セシムルヲ旨トスルヲ以テ若シ聯合國使臣来莫スルカ又ハ「ヴォログダ」ニ居坐ル場合ニハ独逸ハ有ラユル方法ニ依リ迫害ヲ加フ可ク聯合側ハ結局「アルハンゲリスク」又ハ「ムルマン」ニ引揚ゲザルヲ得ザル可シ労働政府ハ独逸ニ屈服ヲ欲セズ故ニ若シ聯合側ガ少クトモ式拾万ノ兵ヲ北部ヘ進メテ独逸ニ對抗セバ同政府ハ当然聯合側ニ加担スベキモ然ラザレバ独逸ニ屈服スルノ外ナシ独逸ハ早晚労働政府ヲ倒ス可ク独逸公使暗殺事件ハ其機会ヲ早メタリ独逸ハ多分兵力ニ依ラズ外交手段ニ依リ目的ヲ達スベシ公使暗殺ニ関スル独逸側ノ要求ハ明カナラザルモ労働政府ハ其希望ニ從ヒ既ニ社会革命党左派数名ヲ死刑ニ処セリ、又「ムルマン」問題ニ関シ労働政府ハ独逸ノ提議ニ從ヒ芬蘭渡兵ニ付談判開始ノ筈、「ヴォロ

要課長ウオズネセンスキーノ談話熊崎総領事 代理ヨリ報告ノ件

第五八五号 (八月四日接受)

七月十一日発無線電信七月三十一日著在莫斯科熊崎総領事代理發貴大臣宛電報

第四八二号 上田ヨリ

十日「カラハン」ヨリ来訪ヲ求メタルニ付十一日往訪シタルニ左ノ申出ヲ為セリ

「ヴォログダ」ニ於テハ政府反對ノ白衛兵横行シ聯合國大公所ノ保護行届カズ如何ナル危険有ルヤモ測ラレザルニ付大公所ハ莫斯哥ニ移ラレンコトヲ望ム、然ラザル場合ハ如何ナル危険發生スルモ政府ハ其責ニ任ジ難シ故ニ政府ハ昨日其趣意ノ電報ヲ大公所ニ發送スルト共ニ直接勧告ノタメ昨夜外務部西欧部課長「ラーデク」ヨリ「ヴォログダ」ニ向ケ出發セシメタリ（目下「ヤロスラヴ」ニ反過激派蜂起、鐵道不通ノ為同人ハ「ペトログラード」經由派遣）尚政府ハ聯合國使臣ノ来莫ヲ切望スルニ依リ同日在莫斯哥英、仏、伊ノ代表者ニ右ノ趣意ヲ「ヴォログダ」ニ伝達方依頼セリ

「グダ」外交団引揚ノ場合ニモ日本米米國ノ領事位ハ残留セラレンコトヲ希望スルモ結局独逸ハ領事館ノ引揚ヲ余儀ナクス可シ云々

本官ノ所見ヲ以テスルニ右労働政府申出ハ独逸ノ指図ニ出デ要ハ聯合國代表者ヲ露国ヨリ驅逐スルニ在リト思考ス 在欧米各大使ニ転電セリ

二八九 八月六日 在仏國松井大使ヨリ 後藤外務大臣宛（電報）

「レーニン」ノ露国ハ聯合國ト戦争状態ニ在ル旨演説ニ関シ在モスコイ英米仏伊代表者ガ

本国政府ニ送ル協同報告ニ関スル件

(八月八日接受)

第三六八号 在莫斯科総領事發本官宛電報

第一三三号

本文ハ当地英米仏伊国代表者ノ協同報告ニシテ仏國領事起草仏語原文ノ和訳ナリ貴地外務省及聯合側使臣ニ移牒方御配慮ヲ請フ（以下本文）「レーニン」ハ正式且公開ノ席（七月二十九日開催全労働中央委員會莫斯哥兵兵會職業同盟及工場委員會ノ聯合大会）ニ臨ミ露国共和国ト戦争ノ

状態存在スル旨ヲ執拗ニ言明セルニ因テ英国外交代表者伊米総領事ハ外務委員「チチェリン」ヲ訪ヒ七月二十九日ノ總理ノ声明ハ国交ノ断絶及領事ノ撤退ヲ要スル戦争ノ宣言ト認ムベキニアラズヤト尋ネタルニ「チチェリン」ハ右ハ斯卡ル意味ニ解釈スベキモノニ非ザル事戦争ノ状態存在スト謂ハンヨリハ寧ロ防禦ノ状態存在スルモノナルコト「ソウェト」政府ハ類似ノ場合ニ於テ独乙ト關係ヲ持続セルガ如ク協商側トノ關係ヲ持続セン事ヲ希望スルモノナル事ヲ答ヘ与國領事等ハ此説明ニ対スル批評ヲ保留シ總理自身ガ公然説明ヲ為サン事ヲ要求セリ

在英米伊各大使へ転電セリ

二九〇 八月八日 在仏国松井大使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

在露国聯合國軍人ノ引揚ニ関シ聯合國代表者

ト労農政府トノ交渉ノ模様ヲ在モスコイ総領

事代理ヨリ報告ノ件

附記 八月六日松井大使宛後藤外務大臣宛電報第三六

四号

第三七三号

(八月十日接受)

テ公然ノ演説中露西亜共和国ハ聯合國ト戦争状態ニ在ル事ヲ繰返シテ言明セル事実アリ三十日聯合國代表者会合ノ際仏国領事ハ右事実ヲ指摘シ労農政府首長ノ斯ル言説ハ到底看過シ得ザルニ付同夕「チチェリン」ニ面会ノ際 (一)、「レーニン」ノ言説ニ対シ労農政府ニ於テ説明ヲ為ス事 (二)、「前約」ノ通直チニ軍人ノ撤退ヲ可能ナラシムヘキ事ヲ要(此後未着)

英米伊へ転電セリ

註 熊崎發第四九四号ハ前出八月一日松井大使宛外務大臣宛第三

六二号ナリ

(附記)

在仏国松井大使宛後藤外務大臣宛電報第三六四号

第三六四号

(八月八日接受)

第四九六号ノ二(八月二日発無線電信)

此上ノ残留ハ徒ニ労農政府ト衝突シ動モスレバ侮辱ヲ受ケ威信ヲ傷クル虞アルト共ニ労農政府ニ対シ非公式ナガラ承認ヲ継続スルモノナル為聯合國ニ忠実ニシテ労農政府トハ反对ニ独逸ニ対シ抗争セントスル「オルガ」、西比利亜ノ地方政府ヲ不利ノ地位ニ置クノ結果ヲ齎スモノト認ムルニ

在莫斯科熊崎總領事代理發貴官宛電報(八月八日着) 第四九六号ノ一

七月二十六日「ロクハート」及米伊領事ハ「チチェリン」及「カラハン」ニ面会シ労農政府ノ為監禁セラレ居ル仏国軍人其他ノ解放ヲ要求シ同時ニ將來斯ル事件ノ発生ヲ避クル為在露聯合國軍人ヲ撤退セン事ヲ提議シタルニ外務部ハ主義上直チニ賛意ヲ表シ右撤退実行方法協定ノ為聯合國代表者ト會議ヲ開ク事ニ決セリ(往電第四九四号(三))右交渉ニ関シ聯合國同僚ハ本官ノ支持ヲ希望セルヲ以テ上田ハ二十八日「カラハン」ヲ訪ヒ日本側モ聯合側ノ要求ヲ支持スル旨申入タリ右軍人引揚実行方法協定ニ関スル會議ハ早速開催ノ筈ナリシモ労農政府側ハ其後右了解ヲ実行ス可キ意嚮ヲ示サザルノミナラズ二十九日ニ至リ聯合側代表者ニ対シ「アルハンゲル」戒嚴令ノ状態ニアルヲ以テ聯合國軍人ノ出発ハ不定ニ延期ヲ要スル旨簡單ニ通告セリ依テ三十日聯合國代表者ハ「チチェリン」ヲ訪ヒ労農政府ガ前言ヲ食ミ自己ノ発布セル戒嚴令ヲ云為シテ軍人ノ撤退ヲ阻止セントセルヲ責ムル筈ナリシガ恰モ其前夜(二十九日)「レーニン」ハ全露労兵会中央委員会其他二、三団体ノ聯合会ニ於

付本官ハ此ノ理由ニ依リ聯合國同僚一同撤退ニ決スルコトニ異議ナシトノ説ヲ述ヘタルニ同僚ハ現下ノ形勢ニ関スル觀察ハ本官ト同意見ナルモ聯合与國側ハ帝國ト異ナリ労農政府トノ關係ニ於テ相当深入リヲ為シ居ルコト故今更同政府ヲ全然無視スルコトモ出来ズ又各自國ノ輿論殊ニ社会労働党トノ關係上露国ヲ去ルニハ労農政府側ヨリ聯合國代表者ノ駐在ヲ不可能ナラシメタルコトヲ動機トスルヲ必要トスルトノ見解ヲ主張セリ依テ本官ハ右労農政府トノ折衝ニ参加セサリシガ四國代表者ハ同夜「チチェリン」ニ面会シ長時間ノ論議ヲ為シ前記二項ノ要求ノ外相当期間即チ兩三日中ニ満足ナル回答ヲ得サレハ聯合國代表者ハ是レ労農政府カ最早其ノ駐在ヲ望マス從テ同政府ハ彼等ノ出発ニ必要ナル便宜ヲ供与スヘキモノト思考セサルヲ得サル旨申入レタリ(巴里宛往電第十三号参照)是ニ於テ事態切迫セルヲ認メタルニ付本官ハ三十一日同僚ニ対シ其ノ執リタル措置ニ同意スルコトヲ告ケ同日上田ハ「カラハン」ニ対シ日本代表者モ聯合与國代表者ト行動ヲ共ニスル決心ナルコトヲ申入レタリ因ニ上田面会ノ際「カラハン」ハ英仏ハ既ニ露國領土ニ於テ戰鬪行為ヲ開始シ居レルモ露國ハ未タ宣戦セズ

「レーニン」演説ノ趣旨ハ不日公報ヲ以テ説明スベシ或国ノ領事ハ頻リニ露国ヲ去ルノ口実ヲ求メツツアリ然ルニ勞農政府ハ領事等殊ニ日本領事ノ残留ヲ希望ス聯合國軍人ハ結局ハ出発セシムヘキ積ナルモ相当ノ時日ヲ要スヘシ又自分一己ノ考トシテハ日本武官ハ唯一人ニ過ギス且日本ハ戦闘ヲ為シ居ラサルニ付早速引揚ノ便宜ヲ供与シ得ベシ等ノ言ヲ為セリ

在英、米、伊各大使ニ転電セリ

註 熊崎總領事代理松井大使宛第十三号ハ前出松井大使八月六日發外務大臣宛第三六八号ナリ

二九一 八月八日 在英国珍田大使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

在ウオログダ丸毛臨時代理大使外交団ト共ニ

「アルハンゲルスク」ニ帰還ノ件

第六〇三号 (八月十日接受)

八月七日丸毛在露代理大使ヨリ

第二〇二号

当地外交団愈々今日当「カンダラクシャ」出発「アルハンゲルスク」ニ帰還スルコトニ決定シタルニ付本官モ之ト行

勞農政府ノ在モスコイ英仏總領事館員等ノ逮

捕監禁ニ鑑ミ熊崎總領事代理露国引揚ニ関シ

同官ヨリ報告ノ件

第七六四号(熊崎總領事代理倫敦着後再電シタルモノ)

(九月二十五日接受)

熊崎領事ヨリ(ペトログラード發)

第二号

莫斯科發在電第四九六号ニ関シ八月二日附ヲ以テ「チチュリン」ハ米國領事ニ書面ヲ送り「レーニン」ノ声明(露西亜全國ハ聯合國ト戦争状態ニ在リト云ヘル)ハ公開セラレサリシ会合ニ於テ為サレタルモノナルヲ以テ公開の説明ヲ与ヘ難シ又聯合國軍事委員ノ引揚ニ就テハ「アルハンゲル」ノ状況上同地通過ハ到底之ヲ許容シ難キヲ以テ「ペトログラード」經由「ストックホルム」ニ渡航セシムルコトニ付途中安全ノ保障ヲ得ル為獨逸官憲ト交渉中ナリトノ趣旨ヲ申越セリ

右申越前段ニ関シテハ聯合國代表者ハ素ヨリ満足ヲ表セス予テノ決定ノ通り領事等モ引揚ヲ実行シ通信自由ノ地点ニ至リ各本國政府ノ訓令ヲ請フコトト成レルモ勞農政府トノ

動ヲ共ニスルコトトシタルヲ以テ本電御接到後本官宛電報其他ハ一切「アルハンゲルスク」ニ御發送相成タシ

二九二 八月八日 在瑞西国井田臨時代理公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

モスコイ過激派大会ガ対日最後通牒ヲ可決セ
ル旨ノ「プラウダ」紙ノ報道ニ付報告ノ件

第一七九号 (八月十一日接受)

八日「ゼネヴァ」着「プラウダ」ノ報道ニ依レバ莫斯科過激派大会ニ於テ「レーニン」ハ西伯利亞干涉ノ為メ日本ニ最後通牒ヲ發ス可シト宣言シ之ニ反シ国民外交委員ハ日本ノ目的ガ過激派政府ヲ顛覆スルニ存セズ単ニ領土問題ニ関ストセバ日本ノ干渉ハ過激派政府ニ取り戦争ノ原因トナラズト主張セリ然シ同大会ハ日本及「チェック」聯合軍ガ過激派黨員ヲ銃殺セリトノ報道ヲ接手スルニ及ビ直チニ最後通牒ヲ可決セリ同最後通牒ハ在莫斯科日本領事ニ交付セラ
ルル筈ナリ

二九三 九月二十三日 在英国珍田大使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

交渉ニ関シテハ兎ニ角同政府ヨリ軍事委員ノ引揚ニ便宜ヲ供与スルコトヲ申越セルヲ以テ先ツ之ヲ実行セシメ其満足ナル解決ヲ俟ツテ領事等ノ引揚実行ニ着手スル方針ニ決定セリ但シ領事ノ間ニハ最早勞農政府トハ直接關係ヲ為サス決然タル態度ヲ支持スヘシトノ説アリ依テ後段軍人ノ引揚ニ関スル交渉ハ莫斯科唯一ノ中立国正式領事タル瑞典領事ニ之ヲ依頼スルコトトナリ又同時ニ獨逸官憲ヨリ通路安全ノ保障ヲ得ルコトニ付テモ同領事ノ斡旋ヲ依頼スルコトトナレルガ同領事ハ之ヲ快諾セリ尤モ本官ハ日本ハ聯合國ト異ナリ勞農政府トノ關係ニ付深入シ居ラス從テ殊更ニ同政府トノ關係ヲ絶ツ等ノ問題ナク又日本側ハ軍事委員ナク大使館附武官残留シ居ルノミ全日本人ノ數モ僅ニ九名ニ過キサルヲ以テ瑞典領事ニ交渉ヲ依頼スルハ却テ不便ナルヲ認メタル以テ其趣意ノ留保ヲ為シ大使館附武官ノ引揚ニ関シ必要ナル勞農政府ノ査証迄ハ直接交渉ヲ開始セリ、斯クテ瑞典領事ハ上記聯合側依頼ニ基キ勞農政府トノ交渉ニ着手セルカ恰モ當時「アルハンゲルスク」白衛隊ノ手ニ陥リ又英仏軍隊同地附近ヲ占領又ハ砲撃セリトノ報アリ茲ニ於テ局面更ニ急転スルニ至レリ即チ五日早朝勞農政府武裝吏員

ハ英国総領事館ヲ襲ヒ総領事以下ヲ拘引セントシ(其時ハ之ヲ遂行セサリキ)又「ロクハート」随員数名、仏国大使館附武官ヲ除ク同国軍人約四十名塞爾比代表者及同公使館附武官以下軍人数十名及英仏両国私人約二百名ヲ逮捕監禁セリ依テ同日午前米仏領事及本官協議ノ結果午後四時瑞典領事ニ米国領事及本官同行「チチェリン」ヲ訪問シ米国領事ハ勞農政府上記ノ処置ハ其ノ目的威嚇ニアルヘキモ聯合側ハ之カ為威嚇セラルヘキモノニアラス事ノ結果ハ「ボリシェビズム」ノ破滅ト勞農政府(不明)アルヘキノミト声明シ本官モ勞農政府ガ日本ガ斯ノ如キ不法ヲ默過スヘシト思考スルニ於テハ是レ重大ナル誤ナリト述ヘタリ右会見ノ際「チチェリン」ハ外交官又ハ公ノ資格ヲ有スルモノヲ逮捕スルハ勞農政府ノ意ニアラス逮捕サレタルモノハ早速解放スヘキモ英仏両国ガ戦争ノ宣言ヲモナサス事実上軍事行動ヲナシ居ル上ハ勞農政府モ又事実上ノ戦争手段ヲ執ラサルヘカラス英仏私人ヲ逮捕シタルハ之ヲ「シビル、プリズナー」トシタル趣旨ナリ將來英仏側ニ於テ勞農政府員ヲ銃殺続行スルニ於テハ英仏私人ノ安全ヲ保障シ得スト述ヘタリ斯クテ本官等ハ右申入ノ為少クモ暫時事態ノ進行ヲ引止メ

雇、一名ハ武官書記)之ニ通訳朝鮮人「バク」ヲ加ヘ一行九名ナリ在莫斯科領事等(「ロックハート」モ)本事件以來直ニ引揚実行ニ決定セリ、勞農政府トノ交渉ニ付テハ從來ノ通瑞典領事之ヲ担当セルガ勞農政府ハ從來ノ声明ニ反シ異議ヲ唱ヘ其ノ英国ニ於ケル代表者「リトヴィノフ」ガ英国ヲ出発シ「ベルゲン」ニ帰着セルコト確ナル場合ニアラサレハ聯合國代表者ノ出国ヲ許可シ難キヲ主張シ又聯合國ガ在仏露国軍人及在英露人ノ英軍ニ徵集セラレタルモノヲ帰国セシメントヲ要求シタル趣ナリ尚今回ノ事件ニ付勞農政府ハ日米兩國トノ關係ニ付テハ特ニ注意シ居リ米國領事ノ引揚ニハ別ニ故障ナキ模様ナルモ米國領事ハ本国ヨリ何等訓令ニ接シ居ラス他ノ聯合國領事ト進退ヲ共ニスル意思ナリキ

得ヘキカト予想シタルニ恰モ「チチェリン」ガ本官等ニ對シ聯合國代表者ノ不可侵ヲ保障シツ、アル時機ニ於テ勞農政府側ハ更ニ重大ナル不法ヲ看過セリ即チ同日午後四時頃勞農政府武裝吏員ハ英仏両総領事館ニ侵入シ英国総領事ヲ除ク同国領事館員全部及仏国総領事館員全部ヲ逮捕監禁セリ依テ瑞典領事ハ直ニ勞農政府ニ英仏代表者ノ解放ヲ要求シ同夜米國領事及本官瑞典領事ニ同行監禁所ニ至リ數時間交渉ノ後終ニ仏国総領事及英仏領事館重ナル館員ノ解放ヲ得タリ

上記ノ事態ニ鑑ミ本官ハ直ニ当館ノ引揚ヲ決行スルコトニ決心シ六日朝上田ハ「カラハン」ヲ訪ヒ現下ノ事態ハ領事館ノ職務執行ヲ不能ナラシタルニ因リ一先ヅ「ストックホルム」迄引揚クヘキ旨申入レ出国ニ必要ナル便宜供与ヲ要求シタルニ「カラハン」ハ之ヲ遺憾トスル旨ヲ述ヘ直ニ旅券ノ査証ヲ与ヘタリ依テ本官ハ同日午後瑞典領事ニ一時利益ノ代表及独逸官憲ヨリ「ベトログラード」「ストックホルム」間通行安全ノ保障獲得方交渉ヲ依頼シ翌七日上田及館員全部ト共ニ莫斯科發八日「ベトログラード」ニ着セリ莫斯科殘留日本人ハ僅ニ三名ナリシニ付(内二名ハ當館

瑞典領事ヨリ聞ク所ニ依レハ今回ノ事件ニ付テハ独逸大使ニ於テモ同情ヲ表シ聯合國代表者通行安全保障供与ニ付本國政府ニ進言スル所アリタルノミナラス大使館參事官ハ「チチェリン」ニ對シ勞農政府カ聯合國代表者ヲ無事引揚ケシムルハ単ニ國際法ニ適ヘル処置ナルノミナラス過激派自身ノ為最善ノ処置ナリトノ趣意ヲ申入レタリトノコトナリ追テ當館ニ殘留セル電報符号三種トモ八月五日燒棄済本電ハ記憶ニ依リ暗号ニ組ミタリ

註 莫斯科發往電第四九六号ハ前出松井大使八月六日及八日發第三七三号及第三六四号ナリ